

新保田中村前遺跡Ⅲ

一級河川染谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第3分冊

掘立柱建物・ピット・土坑・墓等の調査
分析と調査成果

《遺物観察表編》

1993

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

しん ぼ た なかむらまえ
新保田中村前遺跡Ⅲ

一級河川染谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第3分冊

掘立柱建物・ピット・土坑・墓等の調査
分析と調査成果

《遺物観察表編》

1993

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

例言・凡例

1. 本書は、一級河川染谷川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3分冊「新保田中村前遺跡Ⅲ」《遺物観察表編》である。
2. 遺物は、本文編に掲載した挿図中の実測図の順に記載している。遺物の種類ごとに表の書式は異なっている。遺物番号は挿図中の遺物番号に一致している。表中に使用した記号や略号は各々以下の通りである。
 - ①器種 《石器》UF = Used Flake(使用痕のある剥片)、RF = Retouched Flake(加工痕のある剥片)
 - ②法量 《土器・石器》口：口縁部直径 底：底部直径 高：器高 胴：胴部最大径
石器の厚さは、おおむね断面実測位置で計測した。
なお、計測値に（ ）をふしたものは復元値である。
《木器》単位：cm + α：測定値が復元値であることを示す ◆：芯持ち材の直径
 - ③胎土 《縄文土器》観察表中の縄文土器の胎土は以下のような5分類の設定に拠る。
 - A：凝灰岩礫を主体に石英等を多量に含む。
 - B：Aに類似するが、多量の赤色岩礫と結晶片岩を含む。
 - C：多量の石英砂礫と雲母粒を主体に、少量の円礫を含む。
 - D：粒径が細かく、砂粒状となった石英・凝灰岩等の挟雑物を多量に含む。
 - E：Dに類似するが、赤色岩礫を多量に含む。
 - ④色調 陶磁器を除いて土器の色調は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修を用いて記載した。
《ガラス器》の色調は尚学図書編集『色の手帳』小学館1987に拠る。
実体顕微鏡による機体観察の記号は次のとおりである。
 - A：表面にきずがある。縦方向に細かな筋が入り、内側には気泡が縦方向に連なる。
 - B：気泡が表面と内面に多数見られる。鉱物が含まれており、半透明である。
 - C：気泡が表面に多数見られる。
 - ⑤樹種 《木器》観察表中の樹種の同定は高橋利彦氏の26科37分類群の設定に拠っているが、詳細は本書第1・2分冊《遺物観察表編》もしくは本文編14章の同氏同定結果報告を参照願いたい。

目 次

1. ピット群の出土遺物	3
2. 土坑の出土遺物	4
3. 墓壙の出土遺物	17
4. 周溝墓の出土遺物	21
5. 礫床墓の出土遺物	31
6. 遺構外の出土遺物	32
7. 表面採集の遺物	52
8. 第1分冊補遺	55

1. ピット群の出土遺物

ピット群出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図7

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
724	弥生土器 壺	口縁部破片	IV面ピット87 埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	中位から外反する大形の壺の口縁部。外面は横方向、内面も横方向の丁寧な鈍磨き整形。口唇部外面は面とり。	口縁部外面上半に1cmおきに縦位の棒状付文が貼付される。付文の上には斜方向の櫛歯状工具による刻み目6本。刻み目の方向は／＼と変化する	断面の実測
723	弥生土器	底高 7.9cm 3.4cm残	IV面ピット85 埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	小形の壺形土器の胴部下位から底部の破片。底部は横へ張り出す。底部外面には木葉痕が残る。内面は篋なで。	外面に細かな縄文施文。	

ピット群出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図7

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
716	土師器 椀	底部破片 底(6.1cm)	IV面ピット21 埋没土中	①微細砂を含む。 ②酸化焙焼成 ③にぶい赤褐5YR 4/4	右回転クロコ整形後、回転台切り離し。付高台		
719	土師器 S字甕	口縁部破片 口(12.8cm)	IV面ピット68 埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰黄褐10YR 6/2	口縁部は二段とも斜外方へ湾曲して開く。 頸部外面には調整がめぐる。 口縁部は外面ヨコナデ。		
721	土師器 S字甕	口縁部破片 口(15.4cm) 高 3.6cm残	IV面ピット73 埋没土中	①細砂粒を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい褐 7.5YR6/3	口縁部は下半、上半ともに斜外方へ開く。頸部外面には調整がめぐる。体部外面刷毛目(6本/1cm)整形、口縁部内外面横なで。内面横方向篋なで。		
720	土師器 高杯	脚部上半残 高 6.8cm残	IV面ピット67 埋没土中	①細砂、雲母細片を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙2.5YR 6/4	脚部外面タテ方向鈍磨き。内面斜方向刷毛目の後、指などで調整。杯部との接合面には刷毛目が残る。		

2. 土坑の出土遺物

56号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図20

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2015	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (11.8cm) 高 4.2cm残	底面直上	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③褐灰10YR5/1	内外面丁寧な調整。	

59号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図21

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2017 54	須恵器 高台付椀	ほぼ完形 口 12.4cm 底 5.9cm 高 4.3cm	底面上3cm	①砂粒・小礫を多く含む。 ②環元焰。軟質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。付高台。内外面回転で調整。成形はややいびつである。	
2018	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (20.5cm) 高 4.5cm残	埋没土中	①細砂粒を多く含む。 ②環元焰。やや軟質。 ③黒褐5YR3/1	内外面などで調整。	
2019 54	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 高台部欠損 高 5.4cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。 ②環元焰。軟質。 ③灰白2.5Y8/2	大形の椀。ロクロ整形。付高台。	

62号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図21

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2020	土師器 杯	口縁部～体部以 残存 口 (10.5cm) 高 3.5cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②酸化焰焼成。 ③にぶい黄橙10YR7/4	内外面回転で調整。	

72号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図21

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2028 54	土師器 杯	口縁～底部残 口 11.0cm 高 3.5cm残	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	体部外面横方向斲削り。内面などで調整。口縁部内外面横なで。	

65号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図22

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2021	土師器 杯	口縁部破片 口 (12.4cm) 高 3.1cm残	西縁 底面上8.5cm	①夾雑物をほとんど含まず、精選された胎土。 ②硬質。③橙5YR6/8	内外面などで調整。	

66号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図22

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2022	土師器 杯	口縁部破片 高 3.2cm残	埋没土中	①夾雑物が少なく、精選された胎土である。 ②硬質。③橙5YR6/6	内外面横なで。底部外面斲削り。	
2023	土師器 杯	体部中位破片	埋没土中	①微細砂を少量含むが、精選された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5YR5/4	体部外面横方向斲削り。内面などで調整。口縁部内外面横なで。	

2. 土坑の出土遺物

67号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図22

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2024	土師器 高台付椀	底部破片 底(6.8cm) 高1.7cm残	埋没土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③黄灰2.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内外面などで調整。	

71号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図22

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2027	須恵器 杯	体部下位～底部 残 底(7.0cm) 高2.0cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②軟質。 ③灰色7.5Y4/1	右回転ロクロ整形。回転糸切り離し。体部内外面などで調整。	

70・71号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図22

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2025	須恵器 羽釜	口縁部破片 口(26.2cm) 高5.4cm残	埋没土中	①砂粒を含む。 ②酸化焰焼成。 ③橙7.5YR6/6	内外面回転などで調整。	
2026	須恵器 羽釜	口縁部破片 口(17.2cm) 高5.9cm残	埋没土中	①細砂・砂粒・小礫を含む。 ②環元焰焼成。 ③灰白7.5Y7/1	内外面回転などで調整。	

57号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図23

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2016	須恵器 高台付椀	高台1/4破片 底(7.0cm) 高1.9cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③灰5Y6/1	はがれた付高台の破片。内外面丁寧などで調整。	

17号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図24

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2009 54	土師器 杯	1/4残存 口(14.5cm) 高5.4cm残	底面直上	①細砂・砂粒を含む。 白色鉱物細粒が目立つ。 ②硬質。③橙5YR6/6	丸底の杯。口縁部は上方につまみ上げられ、小さくつくられている。外面斲削り。口縁部内外面横などで調整。	

17号土坑出土遺物観察表《瓦》 図24

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2010 697 54	瓦 女瓦	厚2.5cm	北壁際 底面上2.5cm	①白色粒子含む。 ②硬質。③灰白2.5Y7/1	表面に寄木条痕があり、桶巻作。裏面は回転の撫痕とその下に絡縄文がわずかに見える。側面取り3回。	吉井・藤岡

40号土坑出土遺物観察表《陶器》 図24

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2013 54	焼締陶器 擂鉢	口縁部～底部残 口(29.6cm) 底(14.0cm) 高10.5cm残	底面上5cm	①礫を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい赤褐5YR5/4	外面回転斲削り。口縁部内面に低い突帯がある。	堺・明石製 18世紀末～19 世紀中頃。

74号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図27

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2032	土師器 壺	頸部から体部上 位破片 胴 (21.6cm) 高 7.6cm残	底面上40cm	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	直立する頸部に球形胴部がつくと推定される。口縁部の形状は不明。体部外面は斜方向削削りの後で調整。部分的に横方向磨き。	

73号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図27

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2029 59	土師器 埴	口縁部残 口 13.9cm 高 8.9cm残	底面直上	①微細砂・細砂を多く含む。 ②硬質。 ③橙7.5YR7/6	端部がやや内湾する、大形の埴。内外面とも丁寧な調整の後縦方向磨き。口縁部横なで。	
2030	土師器 S字甕	脚部1/2残存 底 9.6cm 高 6.6cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を多く含む。 ②硬質。 ③暗灰黄2.5YR5/2	中形のS字甕の脚部破片。外面斜方向刷毛目。内面指なで。	

73号土坑出土遺物観察表《弥生土器》 図27

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2031 59	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①砂質土であり小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR7/3	頸部はくびれる。口縁部は大きく外反する。口縁部は内外面とも横なで。肩部は斜方向の器面調整。		

73号土坑出土遺物観察表《木器》 図27

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
W1128	棒状木製品	23.0×1.9×1.7	中央やや北。 底面上5cm	芯持 ヤマグワ	両端欠損	表面がわずかに削られている。	

45号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図28

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2014 59	土師器 S字甕	口縁部～体部一 部欠損 口 17.2cm 底 10.0cm 高 29.0cm	床面直上	①微細砂・細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	口縁中段直立、口唇部面とり、頸部内面面とり、体部外面4段羽状刷毛目、内面なで、指頭痕残る。脚部外面斜刷毛目後すりけし、内面なで調整。	

83号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図29

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2041 60	土師器 S字甕	体部下位～脚部 残存 底 10.1cm 高 10.2cm残	底面直上	①微細砂・細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	体部外面縦方向刷毛目(8本/1cm)。脚部外面斜方向刷毛目(6本/1cm)。体部内面横方向磨き。脚部内面指押さえ。	
2047 60	土師器 壺	体部下位～底部 残存 底 7.6cm 高 10.5cm残	底面上6cm	①砂粒を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	円盤状の底部にやや下膨れの球形体部がのる。斜・横方向刷毛目(5本/1cm)整形後なで調整。部分的に磨きが施されている。底部内面磨き。	
2046	土師器 壺	口縁部～頸部破 片 口 (14.8cm) 高 4.9cm残	底面上9.0cm	①砂粒・小礫を多量に含む。 ②硬質。 ③浅黄橙7.5YR8/3	くの字に開く。壺形土器の口縁部。外面端部には、面とりがされ、櫛歯状工具による刺突が施こされている。外面縦方向刷毛目(5本/1cm)整形後、横なで。内面横なで。	

2. 土坑の出土遺物

83号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図29

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2045 60	土師器 器台	器受部3/4残 口 11.0cm 高 2.8cm残	底面上14cm	①細砂を含む。 ②砂質。 ③灰白5Y8/1	口縁部外面端部に面とりをする小形器台の器受部。やや丸く上方に開く。内外面とも細かな縦方向磨き。	
2048 60	土師器 壺	口縁部1/2 口 (17.6cm) 高 6.0cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部外面に折り返し口縁状に肥厚させた複合口縁。頸部は、ほぼ直立し、球形の胴部がつくと思われる。頸部外面には、斜刷毛目(10本/1cm)整形が残るが内外面ともよくなでられている。	

80号土坑出土遺物観察表《弥生土器》 図30

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
2040 59	弥生土器 甕	口縁部破片	底面上10cm	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・石英砂を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい赤褐5YR5/4	口縁部は外反する。内面は横なで、外面は縦方向の器面調整。	口縁部には櫛描波状文。	

86号土坑出土遺物観察表《弥生土器》 図30

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
2049 60	弥生土器 壺	体部破片	埋没土中	①微細砂であり黒色・夾雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い ③灰白7.5YR8/2	頸部は大きくくびれ、内面には輪積みと横なでのこる。	頸部は右回りの簾状文、直下に1単位7条の櫛描波状文を施した後篋状工具により鋸歯文を描き斜向沈線文を充填させる。	

81号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図31

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2042 60	土師器 S字甕	口縁部一体部中位1/2残存 口 (17.0cm) 高 13.0cm残	底面直上	①細砂・砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部中位は、ほぼ直立し、口縁部内面端部は凹線がある。体部は肩の張る丸い胴部を呈する。体部外面、羽状の刷毛目整形(5本/1cm)。中位には横方向刷毛目整形。内面は、横方向なで調整後、縦方向指なで。口縁部内外面横なで。	
2043 60	土師器 S字甕	口縁部一体部上位 口 (15.8cm) 高 11.9cm残	底面直上	①細砂を多量に含む。黒色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部中段は、ほぼ直立し、口縁内面端部には、ゆるやかな面とりがある。体部外面羽状の刷毛目(4本/1cm)整形。内面横方向なで調整後、縦方向指なで。	
2044	土師器 高杯	脚部破片 底 (14.2cm) 高 2.0cm残	底面上10cm	①微細砂・細砂を含む。白色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	裾部が大きく広がる。高杯の脚裾部。外面斜方向刷毛目(17本/1cm)整形。内面なで調整。裾部内外面横なで。下位に1孔が残る。	

75号土坑出土遺物観察表《弥生土器》 図32

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
2033 59	弥生土器 甕	口縁部1/4 口 (15.8cm) 高 12.7cm残	底面上32cm	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・小礫・輝石を含。②緩い。 ③橙7.5YR7/6	胴部は僅かに丸みをもつ、頸部は僅かにくびれる。口縁部は外反。口縁部は横なで。		
2034 59	弥生土器 壺	口縁部破片	埋没土中	①白色鉱物粒・石英砂を含む。 ②良好 ③灰黄褐10YR6/2	頸部は大きくくびれ、口縁部は大きく外反し、口縁部付近に至り受け口状を呈す。内外面とも横なで。	口唇部は刻み目、受け口部外面は櫛描波状文。	

77号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図32

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2038 59	土師器 壺	口縁部破片 口(18.0cm) 高 8.6cm残	埋没土中	①砂粒・微細砂を含む。 ②硬質。 ③明赤褐5YR6/8	口縁部下位を肥厚させる複合口縁。頸部はほぼ直立し、断面四角形の突帯が付される。複合部外面には弱い沈線が数条施され、頸部は丁寧になでられている。頸部内面は横方向刷毛目(7本/1cm)整形。口縁内面端部には櫛歯状工具による羽状の刺突文を施している。	

77号土坑出土遺物観察表《弥生土器》 図32

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2039 59	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・石英砂・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR7/2	胴部は僅かに丸みをもつ。胴部下半部は縦方向の寛磨き。内面は器面荒れ。	櫛描波状文。	

77号土坑出土遺物観察表《石器》 図32

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S741 59	磨石	9.4・4.7 2.7	粗粒安山岩 200.0	東縁 底面上43cm	両端及び表面に顕著に敲打痕を残す。	

76号土坑出土遺物観察表《弥生土器》 図33

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2035 59	弥生土器 甕	体部破片	底面上19cm	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・砂質土・小礫を含む。 ②良好 ③黒褐2.5Y3/2	胴部は丸みをもつ、内面は横方向の器面調整。	頸部には右回りの等間隔止簾状文。直下に1単位8条の櫛状工具により2段の櫛描波状文があり、胴部中位から下位には羽状文が入る。	
2037 59	弥生土器 壺	肩部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・石英砂を含む。 ②緩い③にぶい黄橙10YR8/2	肩部は丸みをもつ。内外面とも器面荒れ。	肩部上位より胴部にかけての文様は櫛描波状文の後空間があり板状工具による横線文、篋状工具による鋸歯文、この中を斜向沈線文で充填。	
2036 59	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物粒・小礫・輝石を含む。 ②緩い③にぶい橙5YR7/3	頸部はくびれる。口縁部は外反内外面とも器面荒れ。	頸部には左回りの等間隔止簾状文。	

91号土坑出土遺物観察表《弥生土器》 図34

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2050	弥生土器 壺	口縁部1/4残存 口(17.0cm) 高 5.5cm残	埋没土中	①砂粒を含む。 ②やや緩い ③灰白10YR8/1	頸部は大きくくびれ、口縁部は大きく外反する。	頸部には左回りの簾状文がみられる。	

91号土坑出土遺物観察表《石器》 図34

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S747 60	スクレイパー	4.15・4.9 1.1	黒色頁岩 35.5	埋没土中	横長剥片素材、礫面残存、礫面打面周縁部分に加工痕が認められる。	
S762 60	未製品	3.45・2.5 0.15	珪質準片岩 1.6	埋没土中	研磨工程の段階である。	

52号土坑出土遺物観察表《弥生土器》 図36

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1959 59	弥生土器 甕	胴部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②やや緩い。③に ぶい黄橙10YR7/3	胴部は丸みをもつ。内外面とも 横方向の器面調整。	櫛描波状文。	
1960 59	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙2.5YR 6/4	口縁部は外反する。内外面とも 横方向の器面調整。	頸部には左回りの等間隔止簾 状文。口縁部および端部に縄 文。	
1961 59	弥生土器 甕	頸部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙2.5YR 6/4	肩部は丸みをもつ。口縁部はく びれる。内面は横方向器面調整。	頸部には左回りの等間隔止簾 状文。肩部は縄文。	
1963 59	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・黒色・夾 雑物粒・石英砂を 含む。 ②やや緩い。 ③灰褐7.5YR4/2	頸部はくびれる。口縁部は外反 する。内外面とも口縁部付近は 横なで。	外面頸部は縄文。	
1962 59	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・礫石を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい褐7.5YR 6/3	口縁部は外反し、端部付近で外 面は立つ。内面は横方向器面調 整。内外面とも器面荒れ。	頸部は右回りの簾状文。頸部 ～口縁部は櫛描波状文で充填。	

52号土坑出土遺物観察表《石器》 図36

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S740 59	敲石	10.2・4.9 3.7	粗粒安山岩 195.0	埋没土中	一端に敲打痕、一端に敲による剥離痕を残す。	

52号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図37

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1933 54	土師器 S字甕	ほぼ完形 口 17.0cm 底 9.5cm 高 30.6cm	埋没土中	①細砂。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部中段は直立する。体部外面はほぼ5段の斜方向 刷毛目 (7本/1cm) 整形。肩部上位には横方向刷毛 目整形が巡る。内面なで調整。指頭痕が残る。	
1934 54	土師器 S字甕	口縁部～体部下 位%残存 口 15.8cm 高 21.0cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部中段は直立し、端部は凹線がひかかれている。頸 部内面にも整形による面ができている。肩部に張りの あるS字甕。外面4段の羽状刷毛目 (6本/1cm) 整 形後、横方向刷毛目整形。頸部には屈曲部調整が巡る。 内面下位横方向なで。上位指押さえ。	胴部最大径付 近煤付着
1944 54	土師器 S字甕	脚台部・口縁～ 体部上半%欠損 口 (14.6cm) 高 23.0cm残	埋没土中	①細砂を含むが器面 にはあまり目立たない。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部中段は直立する。最大径が上位にあるS字甕。 体部外面斜方向刷毛目 (6本/1cm) 整形。肩部横方 向刷毛目整形。内面なで調整。指頭痕残る。口縁部内 外面横なで。	
1936 54	土師器 S字甕	体部%欠損 口 (12.1cm) 底 7.85cm 高 19.75cm	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③明褐灰7.5YR7/1	体部外面3段に分けて刷毛目 (7本/1cm) 整形後、 横方向刷毛目整形。内面なで調整。脚部外面斜方向刷 毛目整形口縁部中段は直立する。	
1954 54	土師器 S字甕	口縁部～体部下 位%残存 口 (13.2cm) 高 12.4cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を多量に 含む。 ②硬質。 ③赤褐10R5/4	小形S字甕。口縁部中段は垂直に立つ。上段は外反す る。頸部下位は丸く整形されている。体部外面縦方向 刷毛目 (6本/1cm) 整形。横方向刷毛目整形。下位 斜方向刷毛目整形2段。	
2006	土師器 S字甕	体部中位%残存 高 10.0cm残	埋没土中	①細砂を含む。 ②硬質。 ③明褐灰5YR7/2	外面肩部上位縦方向刷毛目 (8本/1cm) 整形。内面 指なで後、なで調整。肩部横方向刷毛目整形。体部下 位斜方向刷毛目整形。	

52号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図37～39

番号 PL	器種	残存 法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2004	土師器 S字甕	口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (14.0cm) 高 5.4cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。赤色鉱物粒を多量に含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y7/2	口縁部中段は直立し、内面端部に面とりをする。体部外面斜方向刷毛目 (5本/1cm) 整形。肩部には横方向刷毛目整形。内面などで調整。指頭痕残る。口縁部内外面横まで。	
1998 54	土師器 S字甕	口縁部～肩部残 口 15.6cm 高 4.8cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部中段はほぼ直立し、鋭い稜をつくって、口縁内面端部は、巾3～5mmの面とりをする。外面頸部横まで。体部斜および横方向刷毛目 (7本/1cm) 整形。内面指押さえ。	
1997 54	土師器 S字甕	口縁部～体部残 口 11.2cm 高 4.0cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 赤色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。③灰黄2.5Y7/2	口縁部中段は短く、上段は外湾する。外面斜方向刷毛目 (7本/1cm) 整形。横方向刷毛目整形。頸部屈曲部調整。	
1995 54	土師器 S字甕	口縁部のみ残存 口 (16.0cm) 高 3.1cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 白色鉱物粒が目立つ。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部中段は外反する。内面端部には細い沈線。体部外面縦方向刷毛目 (9本/1cm) 整形。体部内面横方向などで後、部分的に指頭痕残る。	
1996 54	土師器 S字甕	口縁部残存 口 16.0cm 高 4.5cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部中段は外反する。体部外面縦方向刷毛目 (7本/1cm) 整形。体部内面横方向などで後、部分的に縦方向指まで。	
1937 55	土師器 S字甕	口縁部から脚部残 口 15.1cm 高 21.7cm残	埋没土中	①微細砂・細砂・小礫を含む。②硬質。 ③灰黄2.5Y7/2	肩部のはるS字甕。口縁部中段は直立。上段は外反する。体部外面5段に斜方向刷毛目 (7本/1cm) 整形。内面縦方向指まで、横方向指まで。口縁部横まで。	
2008 55	土師器 S字甕	口縁部～体部下 位 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (15.0cm) 高 23.4cm残	埋没土中	①細砂・小礫を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	長胴のS字甕。口縁部中段、上段は一連で外湾する。外面上位縦方向刷毛目 (5本/1cm) 整形。下位3段に分けて、右下り斜方向刷毛目整形。内面横方向指まで。指頭痕残る。	
1935 55	土師器 S字甕	口縁部～底部残 口 (12.5cm) 底 (8.6cm) 高 25.5cm	埋没土中	①細砂・砂粒を多く含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y7/3	体部外面羽状に4段刷毛目 (5本/1cm) 整形。内面上半指まで、下半横方向指まで。	
1938 55	土師器 S字甕	体部 $\frac{1}{2}$ 欠損 口 13.0cm 底 8.1cm 高 21.2cm	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	肩部が膨らむ小形のS字甕。口縁部中段は外反し、頸部には屈曲部調整が回る。体部外面は4段の刷毛目 (7本/1cm) 整形。内面上半縦方向指まで。下半横方向指まで脚部指押さえ。	
1945 55	土師器 S字甕	体部中位 $\frac{1}{2}$ 欠損 口 10.8cm 底 7.4cm 高 19.5cm	埋没土中	①細粒を含む。 ②硬質。 ③浅黄橙7.5YR8/3	やや長胴の小形S字甕。口縁部中段は外反する。体部外面斜方向羽状刷毛目 (7本/1cm) 整形。脚部外面斜方向刷毛目整形。磨り消し。内面指まで。脚部指まで。体部外面下半には一次調整の寛削りがみえる。	
1942 55	土師器 S字甕	体部 $\frac{1}{2}$ 脚部欠損 口 21.7cm 高 29.7cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	山陰系の口縁部をもつS字甕。体部外面上半斜方向、下半縦方向刷毛目 (6本/1cm) 整形。頸部屈曲部調整。体部内面、中広横方向指まで。口縁部から頸部まで調整。	
1941 55	土師器 S字甕	体部～脚部一部欠損 口 27.2cm 高 33.8cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5Y6/3	中段から外方向へ、高く伸びたタイプのS字甕。端部は外反する。外面斜方向4段に分けた刷毛目 (5本/1cm) 整形。脚部外面斜方向刷毛目整形。内面横方向指後縦方向などで調整。口縁部内外面横まで。	
1939 55	土師器 S字甕	ほぼ完形 口 15.2cm 底 9.4cm 高 28.8cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙10YR7/3	口縁部中段はほぼ直立し、内面端部に面とりする。頸部外面の屈曲部調整。体部外面斜方向刷毛目 (6本/1cm) 整形4段の羽状。内面指まで。指押さえ。脚部外面斜方向刷毛目整形後、磨り消し。	
1943 55	土師器 S字甕	体部一部欠損 口 15.4cm 底 11.4cm 高 32.6cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい褐10YR5/3	口縁部中段は外反する。頸部横まで。体部外面4段に分けて斜方向羽状刷毛目 (7本/1cm) 整形。内面下半斜方向指まで。上半などで調整。	
2005 55	土師器 S字甕	口縁部～肩部残 口 (18.5cm) 高 4.2cm残	埋没土中	①微細砂を含む。小礫も含まれている。 ②硬質。 ③浅黄2.5Y7/3	口縁部中段がやや外方へ開くS字口縁。端部は丸く肥厚する。体部外面斜方向刷毛目 (5本/1cm) 整形。口縁部下に、雑な頸部調整。内面などで調整。指頭痕残る。	

52号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図39・40

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1988 55	土師器 S字甕	口縁部～体部残 口 13.9cm 高 9.0cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。白色鉾物粒が目立つ。 ②硬質。③灰黄2.5Y 7/2	やや長胴化したS字甕。口縁中段は外反する。体部外面縦、斜方向刷目（7本/1cm）整形。頸部には調整が入る。内面横方向篋まで。指頭痕残る。	
1940 54	土師器 S字甕	口縁部破片 頸（13.0cm） 高 6.5cm残	埋没土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	体部外面横方向刷毛目（6本/1cm）整形後、斜方向刷毛目整形。頸部外面には屈曲部調整。内面指まで。	
2000 55	土師器 S字甕	口縁部～体部残 口（15.0cm） 高 23.0cm残	埋没土中	①細砂を少量含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y6/2	口縁部中段は外反する。頸部外面には屈曲部調整が巡る。体部4段に分け斜方向刷毛目（7本/1cm）整形。内面指押さえ。下半篋まで。	
1999 55	土師器 S字甕	口縁部～体部上 位1/2残存 口（15.5cm） 高 8.0cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③灰黄褐10YR6/2	口縁部中段が外反する。S字口縁端部は丸い。頸部には屈曲部調整が巡る。内面指まで。外面斜方向刷毛目（8本/1cm）整形。部分的に刷毛目の下の横方向刷毛が見える。	
2003 55	土師器 S字甕	口縁部～体部中 位1/2残存 口 18.2cm 高 16.1cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③灰褐7.5YR4/2	口縁部中段は垂直に、上段は外反する。内面端部は凹線が付けられている。外面肩部右上り刷毛目（7本/1cm）整形。体部下半右下り刷毛目整形。内面指まで、横方向篋まで。口縁部内外面横まで。屈曲部調整が施されている。	
1994 55	土師器 S字甕	口縁部～体部上 位残存 口（13.5cm） 高 12.0cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰黄2.5Y7/2	口縁部上段は直立し、内部端部に面とりをする。頸部外面まで横まで及ぶ。外面横方向篋削りの後、まばらな縦方向刷毛目（6本/1cm）整形。内面縦方向指まで。	
2001 56	土師器 S字甕	体部下位～底部 残存 底 10.5cm 高 12.0cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	大形のS字甕脚部。体部～脚部外面斜方向刷毛目（6本/1cm）整形。内面斜方向篋まで。	
1980 56	土師器 S字甕	体部下位～底部 残存 底（9.6cm） 高 8.2cm残	埋没土中	①砂粒・小礫を多量に 含む。②硬質。 ③浅黄橙10YR8/3	体部外面縦方向刷毛目（6本/1cm）整形。内面斜方向まで、脚外面斜方向刷毛目整形。内面縦方向指まで。	
1955	土師器 S字甕	体部下部破片 高 10.7cm残	埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③灰褐7.5YR6/2	外面三段に分けて刷毛目（7本/1cm）調整。内面まで調整。指頭痕残る。	
1976 56	土師器 S字甕	体部下位～底部 残存 底 8.7cm 高 15.5cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	体部外面縦方向刷毛目（6本/1cm）整形。内面横方向篋まで。脚部外面斜方向刷毛目整形。下半磨り消し。内面指押さえ後、まで調整。	
1984 56	土師器 S字甕	体部下位～脚部 残存 底（7.3cm） 高 11.6cm残	埋没土中	①微細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y8/2	小形のS字甕。体部外面縦方向刷毛目（5本/1cm）整形。脚部外面斜方向刷毛目整形。内面まで調整。	
2002 56	土師器 S字甕	体部下位残存 高 12.1cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	体部外面下位3段に分け、斜方向刷毛目（10本/1cm）整形。内面斜方向篋まで。	
1986 56	土師器 S字甕	体下部～脚部残 存 底 7.6cm残 高 13.5cm残	埋没土中	①細砂を含む。赤色鉾 物粒が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	荒い刷毛目（5本/1cm）整形のS字甕。外面縦、斜方向刷毛目整形。内面篋まで。脚部内面指まで。端部の粘土接合部はまで消している。	脚部接合部より3～4cm上方のライン以上に煤付着。
2007 56	土師器 S字甕	体部下位～脚部 残存 底 8.7cm 高 12.6cm	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y7/2	体部外面縦方向2段の刷毛目（4本/1cm）整形。脚部外面斜方向刷毛後、磨り消しで調整。脚部内面指まで。体部内面篋まで。	
1977 56	土師器 S字甕	体部下位～脚部 残存 底（9.2cm） 高 9.3cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰褐7.5YR4/2	体部外面縦方向刷毛目（6本/1cm）整形。内面まで調整。指頭痕残る。脚部内外斜方向刷毛目整形。内面まで調整。指頭痕残る。	

52号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図40・41

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1985 56	土師器 S字甕	体部下位～脚部 残存 底 (6.5cm) 高 6.0cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を多く 含む。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	外面縦方向刷毛目 (11本/1cm) 整形。体部内面横方向指などで底部寛まで。脚部内面横方向指まで。	
1981 56	土師器 S字甕	脚部残存 底 9.7cm 高 8.0cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	脚部外面斜方向刷毛目 (7本/1cm) 整形。内面指まで。体部内面寛まで。	
1982 56	土師器 S字甕	脚部破片 底 (9.3cm) 高 6.0cm残	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③灰白10YR7/2	深く鋭い刷毛目 (6本/1cm) 整形。外面斜方向刷毛目整形。内面縦方向指などで後、横方向削り。	
1992 56	土師器 S字甕	脚部残存 底 8.8cm 高 7.8cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③浅黄2.5Y7/3	体部外面縦方向刷毛目 (4本/1cm) 整形。脚部外面斜方向刷毛目整形。体部内面などで調整。脚部内面縦方向指まで。	
1983 56	土師器 S字甕	脚部残存 底 10.0cm 高 7.8cm	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③灰褐7.5YR6/2	外面斜方向刷毛目 (7本/1cm) 整形。内面などで調整。指頭痕残る。	
1987 56	土師器 S字甕	脚部残存 底 9.5cm 高 7.7cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白10YR8/2	体部～脚部上半刷毛目 (6本/1cm) 整形。下半などで調整。脚部内面中位横方向寛まで。下位斜方向寛まで。上位は指まで。	
1991 56	土師器 S字甕	脚部残存 底 11.0cm 高 7.3cm残	埋没土中	①微細砂を含む。白色 鉱物粒が目立つ。 ②硬質。③黄灰2.5Y 5/1	大形のS字甕。外面斜方向刷毛目 (7本/1cm) 整形。磨り消しなどで調整。内面縦方向指まで。	
1979 56	土師器 S字甕	脚部残存 底 10.6cm 高 7.6cm残	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	脚部外面斜方向刷毛目 (5本/1cm) 整形。内面指まで。	
1978 56	土師器 S字甕	脚部残存 底 10.7cm 高 7.0cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を多く 含む。②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	大形のS字甕。外面斜方向刷毛目 (9本/1cm) 整形。内面などで調整。	
1990 56	土師器 S字甕	脚部残存 底 8.5cm 高 6.0cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	脚部外面斜方向刷毛目 (8本/1cm) 整形。などで調整。内面縦方向指まで。	
1989 56	土師器 S字甕	脚部残存 底 7.5cm 高 5.6cm残	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	小形のS字甕。脚部外面斜方向刷毛目 (6本/1cm) 整形。内面などで調整。	
1993	土師器 S字甕	脚部破片 高 2.6cm残	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	体部と脚部の接合部。接合の為の凹みが残る。外面斜方向刷毛目 (8本/1cm) 整形。内面指まで。	
1953	土師器 甌	底部破片 底 (2.7cm) 高 3.1cm残	埋没土中	①砂粒を多量に含む。 赤色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/3	一孔を底部に穿つ甌。外面縦方向寛削り。内面横方向寛削り。	
1922 56	土師器 甕	口縁部～体部残 口 (23.6cm) 高 13.0cm残	埋没土中	①砂粒・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	広口の甕。体部～口縁部斜方向刷毛目 (11本/1cm) 整形後、縦方向指まで。体部内面斜方向刷毛目整形後、縦方向削り。口縁部などで調整。	
1927	土師器 壺	体部下位～底部 残存 底 7.4cm 高 11.6cm残	埋没土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③淡橙5YR8/3	球形胴部は壺形土器。外面横方向寛磨き。内面削り後下半横方向刷毛目 (5本/1cm) 整形。最下部寛まで。	
1923 56	土師器 甕	口縁～体部1/4 残存 口 (15.8cm) 高 18.7cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を多く含 む。②やや軟質。 ③橙5YR6/6	やや広口の甕。外面口縁部に刷毛目 (13本/1cm) 整形が残るが、全体によくなられている。内面刷毛目整形後、上半削り。下半は丁寧なまで。	
1920 56	土師器 甕	体部下位欠損 口 20.6cm 高 19.1cm残	埋没土中	①細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	やや広口の甕。口縁部は外反する。体部外面は頸部縦方向刷毛目 (11本/1cm) 整形。中位右下り刷毛目整形。下位右上り刷毛目整形後、中位を中心になで調整。内面上半横方向刷毛目整形後、横方向寛まで。縦方向削り。下半横方向寛まで。口縁部横まで。	

2. 土坑の出土遺物

52号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図41・42

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1921 57	土師器 甕	口縁部欠損 高 20.0cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②軟質。 ③橙7.5YR7/6	胴部中位の張った算盤玉形の胴部の甕。口縁部の形態は不明。外面斜方向刷毛目（9本/1cm）整形。指などで。内面底部指押さえ。体部内面横方向磨き。接合痕残る。	
1968 57	土師器 甕	口縁部～体部破片 口（16.8cm） 高 5.5cm残	埋没土中	①微細砂・小礫を含む。 ②軟質。 ③褐7.5YR4/3	ごく短く外反する口縁部を付する甕。外面斜方向で調整。内面横方向磨き。	
1967	土師器 広口壺	口縁部～体部破片 口（12.4cm） 高 7.8cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	広口の壺。内外面ともで調整。口縁～体部上位は磨かれている。内面磨き。	
1957 57	土師器 甕	口縁部～頸部 1/3残存 口（16.0cm） 高 6.0cm	埋没土中	①細砂・砂粒を多く含む。 ②軟質。 ③褐灰10YR5/1	幅広の折返し口縁部を付す口縁。頸部縦方向刷毛目（8本/1cm）整形後、横で調整。口縁部内面横方向刷毛目整形。上半で調整。	
1952	土師器 甕	口縁部～体部残 口（15.4cm） 高 6.2cm残	埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③浅黄2.5Y7/3	受け口状の口縁。口縁部下は指押さえ。内面で調整。	
1919 57	土師器 甕	口縁部～体部 1/2残存 口 14.0cm 高 14.4cm	埋没土中	①砂粒・小礫を多く含む。 ②軟質。 ③にぶい褐7.5YR5/4	やや広口の小型の甕。体部縦方向刷毛目（10本/1cm）整形、横磨削りの後、上半斜方向磨き。最大部横方向磨き。口縁部～頸部で。内面横方向磨き。	
1965 57	土師器 甕	口縁部～体部残 口（11.8cm） 高 7.5cm残	埋没土中	①細砂を含む。白色鈹物粒がやや目立つ。 ②やや軟質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	やや口縁部が内湾する小型の甕。頸部縦方向刷毛目（12本/1cm）整形後、横方向で。下半縦方向磨削り。内面で口縁部内外面横で。	
1930 57	土師器 壺	口縁部～肩部残 口（15.0cm） 高 7.1cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③橙7.5YR6/6	厚での壺形土器。口縁部内面は端部が凹んで内湾する。口縁部～頸部横、斜方向刷毛目（6本/1cm）整形後、で調整。口縁部内面横方向刷毛目整形後、横方向で調整。体部内面で調整。	
1973 57	土師器 甕	口縁部残存 口 12.8cm 高 3.0cm残	埋没土中	①細砂・小礫を含む。 石英・白色鈹物粒が目立つ。②やや軟質。 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	外面細かな刷毛目整形後、縦方向磨削り。内面横で。	
1974	土師器 壺	頸部破片 高 4.2cm残	埋没土中	①微細砂を含むが緻密な胎土である。②硬質。 ③にぶい橙5YR7/3	鋭く屈曲する壺の頸部。口縁部下位～頸部下に細かい刷毛目整形後、横方向磨き。内面細かい横磨き、で調整。	
1966 57	土師器 甕	口縁部～体部 1/2残存 口（9.5cm） 高 7.5cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。 ②硬質。 ③灰白2.5Y7/1	短い直立する口縁部の甕。体部外面は斜方向刷毛目（13本/1cm）整形。頸部はなでているが、刷毛目の単位は残ってみえる。内面横方向で調整。頸部直下には刷毛目整形が残る。口縁部内外面横で。	
1956	土師器 甕	口縁部破片 口（12.8cm） 高 5.9cm残	埋没土中	①砂粒・細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR7/4	やや外方に開く直立口縁部の甕。外面斜方向刷毛目（7本/1cm）整形後、斜方向で調整。口縁部内面縦方向刷毛目整形。体部内面横方向磨削り。口縁部端部内外面横で。	
1975	土師器 甕	口縁部～体部上 位1/4残存 口（9.8cm） 高 4.2cm残	埋没土中	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部外面中段に段を有する小型甕。体部外面縦方向刷毛目（12本/1cm）整形。下半磨削り。口縁～頸部横で。体部内面横方向磨削り。	
1932 56	土師器 台付甕	体部～底部1/2 残 底（7.0cm） 高 4.3cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。赤色鈹物粒が目立つ。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	内面で調整。外面縦方向で調整。	
1926	土師器 壺	口縁部～体部中 位1/3欠損 底 9.0cm 高 28.0cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙10YR7/3	球形胴部の壺形土器。外面で調整後、斜方向刷毛目（7本/1cm）整形。内面斜方向刷毛目整形。	

52号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図42

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1924 57	土師器 壺	口唇部下位一部 欠損 底 5.6cm 高 23.9cm残	埋没土中	①砂粒・小礫・礫を多 く含む。 ②軟質。 ③橙2.5YR6/8	球形胴部の壺形土器。小形な平底。外面上半横方向指 なで。下半なで調整。口縁部下位内外面横なで。	
1925 57	土師器 壺	口縁部と体部の 一部欠損 口 (15.2cm) 底 (5.2cm) 高 24.7cm残	埋没土中	①細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③明赤褐2.5YR5/8	細くしまった頸部から外湾する。口縁部内面端部はや や内湾する。体部外面斜方向刷毛目 (6本/1cm) 整 形後なで調整。横方向磨き。内面なで調整。口縁部 内面横なで。	
1929 57	土師器 壺	口縁部～頸部残 口 20.0cm 高 7.0cm残	埋没土中	①微細砂・砂粒・小礫 を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	短い直立した頸部に段をもって外反する口縁部。外面 縦方向磨き。頸部内面には横方向刷毛目 (6本/ 1cm) 整形が残る。口縁部内面横、縦方向磨き。	
1928 57	土師器 壺	口縁部～頸部残 口 22.45cm 高 9.2cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を多く含 む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	ほぼ直立する頸部に段をもって、大きく外反する口縁 部がついた壺。頸部中位には櫛歯状工具による刺突文 のついた凸帯が巡り、口縁部外稜にも刺突文が巡る。 頸部外面縦方向刷毛目 (13本/1cm) 整形。内面横方 向刷毛目整形。口縁部外面横なで。	
1964 57	土師器 小形壺	口縁部下位～体 部中位1/3残存 高 8.0cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR7/4	口縁端部が大きく外反する壺。端部形状は不明。体部 は球形。外面縦方向磨き。口縁部内面縦方向磨き。 体部内面下位斜方向刷毛目 (13本/1cm) 整形後、斜 方向指なで。	
1972	弥生土器 壺	口縁部～頸部残 口 (14.0cm) 高 5.2cm残	埋没土中	①砂質・夾雑物粒を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR7/4	頸部はくびれる。口縁部は大きく外反する。口縁部は 横なで、外面は縦方向の器面調整。内面は斜方向の器 面調整。	外面頸部付近 に塗彩。
1931 57	土師器 壺	口縁部4/5残存 口 16.7cm 高 3.8cm残	埋没土中	①微細砂を含む。精整 された胎土。 ②硬質。 ③淡黄2.5Y8/3	幅広の複合口縁を付した短い外反する口縁部。頸部内 面縦方向刷毛目 (6本/1cm) 整形。口縁部外面は複 合部をおさえた後、横なで。口縁部内面丁寧な横方向 磨き。	
1958	土師器 壺	口縁部破片 口 (12.4cm) 高 3.3cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。 ②硬質。 ③灰褐7.5YR4/2	パレス壺の口縁部。口縁外面端部に幅広の面をつくり、 3条の凹線文に斜方向に刺突文がはいった棒状付文を つけている。	
1969	土師器 小形丸底 土器	体部～底部1/2 残 底 (2.5cm) 高 4.3cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 赤色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/3	小さなやや上げ底の底部をもつ小形埴。体部は摩耗が 著しく、整形はよくわからない。外面は横方向に丁寧 になでた後、縦方向磨き。内面下位は横方向磨なで。 上位は横方向磨削り。	
1951	土師器 埴	口縁部破片 口 (16.5cm) 高 5.5cm残	埋没土中	①細砂・砂粒が残る。 ②やや軟質。 ③明褐灰7.5YR7/2	口縁部の大きく開く埴形土器。整形は荒く、全面がな で調整されているが接合痕が残る。	
1948	土師器 埴	口縁部破片 口 (12.2cm) 高 6.6cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。器 面はザラザラしている。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	大きく外反する口縁部。口縁部下位は縦方向磨き、 口縁部横方向雑なで調整。内面なで。上位は横方向 磨き。下位は縦方向磨き。	
1950	土師器 埴	口縁部下位～体 部破片 高 6.3cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	体部～口縁部外面縦方向刷毛目 (10本/1cm) 後、横 方向磨き。内面横方向なで。	
1949	土師器 埴	上位破片 高 3.8cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	内外面丁寧なで調整。	
1971	土師器 鉢	口縁～体部破片 口 (16.0cm) 高 5.4cm残	埋没土中	①砂粒が目立つ。 ②軟質。 ③にぶい赤褐5YR5/4	口縁部が大きく開く鉢形土器。口縁部は粘土帯が外側 に重ねられている。	
1970 58	土師器 鉢	口縁～底部1/3 残 口 (16.7cm) 高 5.4cm	埋没土中	①砂粒を多量に含み、 ザラザラしている。長 石雲母が目立つ。 ②やや軟質。 ③にぶい褐7.5YR5/3	丸底の浅い鉢。口縁部は外方へ開く。外面は横方向磨 き。内面口縁部磨削り。端部横なで。体部縦方向磨 削り後、横方向なで調整。	

52号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図42・43

番号 PL	器種	残存量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1947	土師器 鉢	体部1/4残存 高 4.1cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	丸い体部に外反する口縁部がつく。内面などで調整の後縦方向磨き。外面磨削り後、などで調整。	
1918 58	土師器 高杯	口縁部破片脚一 部欠損 口 (25.6cm) 高 17.1cm残	埋没土中	①細砂を少量含むが、 精整された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	杯部下位に稜をもち、大きな杯部をのせた高杯。脚部は裾部がやや外反する。2段3孔の杯部は内外面磨き。脚部は外面縦方向磨き。内面磨き。指などで。裾部は横などで。	
1946	土師器 高杯	杯部1/3残存 口 (12.4cm) 高 3.7cm残	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	碗形の杯部。口縁部内面端部に面とり。内外面とも丁寧な調整。	
1915	土師器 器台	杯部1/2残存 口 (7.5cm) 高 4.9cm	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR7/6	丸い碗形の杯部。内外面丁寧な調整。外面には磨きかみえるが、磨耗により判然としない。	
1916 58	土師器 高杯	口縁部～台部中 位4/5残存 口 (20.8cm) 高 9.7cm残	埋没土中	①砂粒を多量に含む、 ガラガラしている。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	杯部下位に稜のある高杯。口縁端部はやや内湾する。内外面丁寧な調整の後、縦方向磨き。脚部内面横方向磨削り。	
1917 58	土師器 高杯	体部～脚部残存 高 7.4cm残	埋没土中	①細粒を多く含む。雲 母片、赤色鉱物粒が目 立つ。②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	杯部下位に緩やかな稜をもつ高杯。脚部はラッパ形に開く。杯部内面縦方向磨き。外面縦方向磨き。脚部外面磨き。内面縦方向指などで。	
1913 58	土師器 高杯	杯部。胴部破片 高 7.6cm残	埋没土中	①砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR5/3	杯部内面縦方向磨き。外面横方向磨削り後、縦方向磨き。脚部外面縦方向磨き。内面斜方向磨削り。	
1901 58	土師器 高杯	受部上位、脚部 一部欠損 底 13.3cm 高 8.7cm残	埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ガラガラしている。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	杯部下位緩やかな稜をもつ高杯。脚部裾部は小さく開く。杯部内外面、脚部外面縦方向磨き。接合部磨き。脚部内面横方向刷毛目 (5本/1cm) 整形後、横方向磨き。	
1912 58	土師器 高杯	脚部残存 底 (18.8cm) 高 8.4cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白2.5Y8/1	上位が細く、裾部で大きく開く高杯。外面縦方向磨き。内面横方向刷毛目 (11本/1cm) 整形。	
1911 58	土師器 高杯	脚部1/2残存 底 16.6cm 高 5.5cm残	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 雲母細片が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい赤褐2.5Y5/3	大きく裾部が開く高杯。杯部との接合部は小孔が貫通しているが、全対形状からすれば、高杯と考えられる。脚部外面縦方向磨き。裾部横などで。内面上位磨き。中位刷毛目 (5本/1cm) 整形。下位横などで。	
1903 58	土師器 器台	脚部残存 底 (13.3cm) 高 6.1cm残	埋没土中	①細砂を含むが精整さ れた胎土である。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	裾部がやや開く器台形土器。脚部外面縦方向磨き。内面上半磨削り。下半横方向磨き。	
1906 58	土師器 高杯	脚部上位残存 高 6.3cm残	埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/3	接合部がすばまり、裾部が大きく開く脚部をもつ。脚部外面縦方向磨き。裾部などで調整。内面上位縦方向磨削り。中位斜方向刷毛目 (8本/1cm) 整形。裾部などで調整。同じ分割線で2段3孔を穿つ。	
1902 58	土師器 高杯	脚部1/3残存 高 7.2cm残	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y7/2	接合部が細くくびれる高杯。裾部は大きく開く。脚部外面縦方向磨き。上端・下端横などで。内面上位横方向磨削り。中位斜方向刷毛目 (14本/1cm) 整形。下位横などで。	
1904 58	土師器 高杯	脚部残存 底 12.3cm 高 7.0cm残	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	接合部が細くくびれる高杯。外面縦方向磨き。内面上半横方向磨削り。下半横方向磨き。中位よりやや上に一段3孔を穿つ。	
1914	土師器 高杯	杯底部～脚上半 残存 高 4.2cm残	埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	外面縦方向磨き。杯部内面磨き。脚部内面横方向磨削り。	
1907 59	土師器 器台	脚部下半1/2欠 口 9.0cm 底 (13.9cm) 高 9.15cm	埋没土中	①砂粒・細砂を多く含 む。長石・雲母が目立 つ。②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	下半に緩やかな稜をもつ器受指、脚、裾部は外反する。脚部には上部2孔、下部2孔を穿つ。器受部内外面などで調整。脚部内面横方向磨き。脚部外面縦方向磨き。	

52号土坑出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図42・43

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1908 59	土師器 器台	脚部1/2欠損 口 8.7cm 底 (12.6cm) 高 9.2cm	埋没土中	①細砂・小礫を含む。 白色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	脚部外面縦方向磨き。裾部横など。内面横方向磨きなど。器受部内外面など。	
1899 59	土師器 器台	完形 口 7.6cm 底 10.7cm 高 8.4cm	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	口縁部が大きく外反する小さな器受部。脚部はラッパ状に開く。脚部に1段4孔を穿つ。1孔は小孔である。器受部内外面などで調整。体部外面上半縦方向磨き。下半横方向磨き。脚部内面横方向磨きなど。	
1900 59	土師器 器台	脚部一部欠損 口 7.6cm 底 10.3cm 高 9.1cm	埋没土中	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	丸みのある小さな器受部をもつ。脚部はラッパ状に開く。脚部には一段3孔を穿つ。器受部内外面などで調整。脚部内面などで調整。脚部外面縦、斜方向磨き。	
1909 59	土師器 器台	脚部、杯部一部 欠損 口 (8.4cm) 底 (12.6cm) 高 8.8cm	埋没土中	①細砂を多く含む。 ②硬質。 ③橙2.5YR6/8	器受部中位に稜をもち、脚部は大きく開く脚部のついた器台形土器。器部内外面、脚部外面磨き。脚部内面横方向磨きなど。	器受部内外面 脚部外面赤色 塗彩。
1898	土師器 小形器台	脚部1/2残存 底 (11.6cm) 高 7.1cm残	埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ②軟質。 ③灰黄2.5Y6/2	上半はやや膨み、下半が大きく開く脚部。外面後縦方向などで調整。接合部などで調整。内面上半横方向磨き。下半横など。	
1910	土師器 器台	脚部1/3残存 底 (12.5cm) 高 6.2cm残	埋没土中	①細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい赤褐2.5YR 5/4	裾部がやや屈曲して開く脚部。杯部は不明。屈曲部近くに一段3孔を穿つ。脚部外面縦方向磨き。内面などで調整。指頭痕残る。	
1905	土師器 器台	杯部残存 口 (9.4cm) 高 3.5cm残	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	やや内湾して開く器受部をもつ器台。内外面縦方向磨き。接合部外面などで調整。	

土坑出土獣骨一覧表

番号	出土遺構	種名	部位名	左右	年齢	性別	加工	焼骨	写真	備考
322	81号土坑	ニホンシカ	角片			♂				
323	76号土坑	ニホンシカ	角片			♂			○	第一分岐以上

3. 墓壙の出土遺物

1号墓壙出土遺物観察表《金属器》 図53

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備 考
M41 60	金属器 南唐銭	径 2.4cm 重 1.9g	東縁 底面上4cm	完形。(割れている)。錆が進行している。	唐國通宝 (985年)
M40 60	金属器 金 銭	径 2.3cm 重 1.5g	中央部骨上 底面上4cm	一部欠損。割れている。錆が進行している。	正隆元宝 (1158年)

2号墓壙出土遺物観察表《金属器》 図54

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備 考
M34 60	金属器 北宋銭	径 2.4cm 重 2.6g	中央部骨上 底面上2cm M34～36は重 なり付着して いた。	完形。良好な残存。	景德元宝 (1044年)
M35 60	金属器 北宋銭	径 2.5cm 重 2.8g		完形。良好な残存。	熙寧元宝 (1068年)
M36 60	金属器 北宋銭	径 2.3cm 重 2.7g		完形。良好な残存。	熙寧元宝 (1068年)
M37 60	金属器 北宋銭	径 2.45cm 重 2.6g	中央部骨上 底面上2cm M37～39は重 なり付着して いた。	完形。良好な残存。M-38裏面が表面に錆付いて出土。	熙寧元宝 (1068年)
M38 60	金属器 北宋銭	径 2.4cm 重 2.49g		一部欠損。裏面は錆が進行している。M-37表面が裏面に錆付いて出土。	政和通宝 (1111年)
M39 60	金属器 明 銭	径 2.55cm 重 2.58g		完形。(割れ)。錆が進行している。	永楽通宝 (1408年)

8号墓壙出土遺物観察表《金属器》 図59

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特 徴	備 考
M23 60	金属器 北宋銭	径 2.4cm 重 3.21g	埋没土中	完形。裏面は荒れている。	熙寧元宝 (1068年)
M24 60	金属器 明 銭	径 2.5cm 重 2.65g	埋没土中	完形。良好な残存である。裏面は錆が進行している。	永楽通宝 (1408年)
M25 60	金属器 明 銭	径 2.4cm 重 2.78g	埋没土中	完形。良好な残存である。	永楽通宝 (1408年)
M26 60	金属器 北宋銭	径 2.4cm 重 3.28g	埋没土中	完形。表面は錆がひどく文字が判読しにくい。	熙寧元宝 (1068年)
M27 60	金属器 北宋銭	径 2.3cm 重 2.87g	埋没土中	完形。裏面は錆が進行している。	皇宋通宝 (1039年)
M28 60	金属器 北宋銭	径 2.5cm 重 3.21g	埋没土中	完形。良好な残存である。	元祐通宝 (1086年)
M29 60	金属器 北宋銭	径 2.4cm 重 2.85g	埋没土中	完形。錆が進行している。	元豊通宝 (1068年)

8号墓墳出土遺物観察表《金属器》 図59

番号 PL	器種	大きさ 重量(g)	出土位置	特徴	備考
M30 60	金属器 北宋銭	径 2.5cm 重 2.8g	埋没土中	完形。良好な残存である。裏面は錆がひどく荒れている。	皇宋通宝 (1039年)
M31 61	金属器 北宋銭	径 2.35cm 重 2.6g	埋没土中	一部欠損。錆が進行している。	聖宋口宝 (1101年)
M32 61	金属器 明銭	径 2.4cm 重 3.52g	埋没土中	良好な残存である。	永樂通宝 (1408年)
M33 61	金属器 北宋銭	径 2.45cm 重 4.06g	埋没土中	良好な残存。	天聖元宝 (1023年)

6号墓墳出土遺物観察表《弥生土器》 図61

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2052	弥生土器 甕	口縁～頸部 1/5残存 口(7.6cm) 高 6.3cm残	南壁際 底面直上	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	胴部は僅かに丸みをもつ。頸部はややくびれ、口縁部は外反する。内外面とも横なで。	頸部には7条1単位の2連止右回り簾状文を施文、直下に1単位の櫛描波状文。	
2054	弥生土器 ミニチュア	体部1/3残存 胴(3.0cm) 高 2.3cm残	中央部 底面直上	①白色鉾物粒・夾雑鉾物粒・石英砂を含む。 ②良好 ③にぶい黄橙 10YR7/2	薄く、丸みをもつ。		
2053 61	弥生土器 甕	体部破片	埋没土中	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒を含む。 ②良好 ③にぶい褐7.5YR 6/3	胴部は丸みをもつ。内面は器面荒れ。	胴部は櫛描波状文。	

6号墓墳出土遺物観察表《石器》 図61

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S737 61	有茎石鏃	2.6・9.05 0.5	チャート 0.99	埋没土中	有茎で基部は挿入せず茎部に続く。平面形は魚形を呈する。先端部を欠損している。	

6号墓墳出土遺物観察表《ガラス器》 図62

試料番号	残存状況	外観の色調	形状	直径mm	厚さmm	孔形状	孔直径mm	重量g	機体観察(実体顕微鏡8~40倍)
G54	完形	シアン	丸玉状小玉	3.9	3.3	円形	1.3	0.08	C
G55	小破片	ナイルブルー	小玉	—	1.9	円形?	—	0.00+α	C
G56	完形	シアン	管玉状小玉	4.55	4.0	円形	2.1	0.10	C
G57	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	4.35	2.2	円形	1.35	0.06	C
G58	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	3.85	2.4	円形	1.4	0.05	C
G59	完形	ターコイズブルー	玉状小玉	3.9	3.0	円形	1.3	0.06	C
G60	完形	シアン	管玉状小玉	4.75	3.9	楕円形	1.9	0.12	C
G61	一部欠損	シアン	管玉状小玉	4.3	3.5	楕円形	1.7	0.07	C
G62	完形	シアン	管玉状小玉	4.1	3.3	円形	1.8	0.07	C
G63	割れ	ピーコックブルー	管玉状小玉	4.3	3.1	円形?	1.7	0.03+α	C
G64	完形2分割	ピーコックブルー	丸玉状小玉	3.4	2.4	円形?	1.9	0.05	C
G65	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	4.65	2.8	楕円形	1.85	0.09	C
G66	完形	ピーコックブルー	丸玉状小玉	4.7	3.1	円形	1.9	0.07	C
G67	完形	シアン	丸玉状小玉	4.15	2.6	円形	1.35	0.03	C

6号墓塚出土遺物観察表《ガラス器》 図62

試料番号	残存状況	外観の色調	形状	直径mm	厚さmm	孔形状	孔直径mm	重量 g	機体観察(実体顕微鏡8~40倍)
G68	完形ひび有	シアン	白玉状小玉	4.6	2.4	歪円形	1.75	0.03	C
G69	完形	シアン	丸玉状小玉	4.45	2.9	円形	1.35	0.06	C
G70	完形	シアン	丸玉状小玉	4.35	2.65	歪円形	1.25	0.05	C
G71	完形	ピーコックブルー	白玉状小玉	4.1	2.5	円形	0.95	0.04	C
G72	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	4.3	1.7	円形	0.8	0.04	C
G73	完形	シアン	白玉状小玉	4.1	3.0	円形	1.3	0.06	C
G74	完形	シアン	白玉状小玉	4.8	3.3	円形	1.6	0.09	C
G75	完形	シアン	白玉	6.0	3.75	楕円形	1.6	0.15	C
G76	完形	ブルシアンブルー	丸玉	6.9	5.2	歪円形	2.3	0.34	A
G77	完形・接合	ウルトラマリン	管玉状丸玉	5.75	6.0	歪円形	2.2	0.24	A
G78	完形	群青色	丸玉	5.7	3.9	円形	1.9	0.16	A
G79	完形	コバルトブルー	管玉状丸玉	4.8	3.9	楕円形	1.4	0.12	A
G80	完形	群青色	管玉状丸玉	5.55	4.8	楕円形	1.3	0.21	A
G81	完形ひび有	ターコイズブルー	管玉状小玉	4.15	3.4	楕円形	1.4	0.06	B
G82	完形	群青色	丸玉	5.4	4.85	円形	1.7	0.18	A
G83	完形	群青色	管玉状丸玉	4.25	4.75	円形	1.5	0.11	A
G84	完形3分割	コバルトブルー	管玉状丸玉	5.4	5.3	円形	1.3	0.19	A
G85	完形	ブルシアンブルー	不正丸玉	7.3	6.65	楕円形	2.5	0.41	A
G86	完形	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.0	2.4	歪円形	1.1	0.03	B
G87	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	3.7	2.0	円形	1.4	0.04	B
G88	完形	シアン	丸玉状小玉	5.1	3.15	円形	2.0	0.09	B

9号墓塚出土遺物観察表《ガラス器》 図63

試料番号	残存状況	外観の色調	形状	直径mm	厚さmm	孔形状	孔直径mm	重量 g	機体観察(実体顕微鏡8~40倍)
G 3	完形	ウルトラマリン (7.5PB3.5/12)	丸玉	6.5	5.0	円形	2.15	0.21	A
G 4	完形	ブルシアンブルー (5PB3.5/9)	丸玉	7.0	5.25	円形	1.7	0.29	A
G 5	完形	群青色 (7.5PB3.5/11)	管玉状丸玉	5.4	5.8	円形	1.0	0.26	A
G 6	完形	ネービーブルー (6PB2.5/4)	管玉状丸玉	4.6	5.7	円形	1.55	0.18	A
G 7	完形2分割	ウルトラマリン	不正丸玉	5.5	3.6	歪円形	2.3	0.10	A
G 8	完形	コバルトブルー (3PB4/10)	不正丸玉	4.7	3.7	円形	1.2	0.11	A
G 9	完形2分割	ネービーブルー	不正丸玉	8.2	5.95	円形	2.2	0.45	A
G10	完形	ブルシアンブルー	不正丸玉	8.2	6.1	楕円形	2.0	0.48	A
G11	完形	群青色	丸玉	6.2	5.9	円形	2.1	0.26	A
G12	完形	ウルトラマリン	管玉状丸玉	6.25	6.4	円形	1.55	0.31	A
G13	完形	群青色	丸玉	6.2	5.6	円形	1.9	0.27	A
G14	完形	ブルシアンブルー	丸玉	8.0	5.15	楕円形	3.0	0.42	A
G15	完形	ウルトラマリン	丸玉	6.5	5.2	円形	2.4	0.22	A
G16	完形	ネービーブルー	丸玉	6.7	5.6	円形	2.6	0.30	A
G17	完形	群青色	丸玉	5.1	4.8	円形	1.35	0.16	A
G18	完形	ブルシアンブルー	白玉	7.2	3.65	円形	1.1	0.23	A
G19	完形	ウルトラマリン	管玉状丸玉	4.0	4.55	円形	0.8	0.09	A
G20	完形	群青色	丸玉	4.8	4.15	円形	1.55	0.13	A
G21	完形	ブルシアンブルー	不正丸玉	6.55	4.55	楕円形	3.55	0.23	A
G22	完形	ブルシアンブルー	丸玉	6.45	5.25	楕円形	1.4	0.21	A
G23	完形	シアン	不正丸玉	5.7	3.6	円形	1.8	0.12	C
G24	完形	ウルトラマリン	不正丸玉	5.4	4.4	円形	1.8	0.13	A
G25	完形	ウルトラマリン	管玉状丸玉	5.7	5.35	円形	2.1	0.17	A
G26	完形	ブルシアンブルー	丸玉	5.9	5.1	円形	2.2	0.18	A
G27	完形	ウルトラマリン	丸玉	5.1	4.7	円形	1.5	0.14	A
G28	破損2分割	ブルシアンブルー	丸玉	7.5	5.1	円形?	2.6	0.25+ α	A
G29	完形	ネービーブルー	管玉状丸玉	5.3	4.75	円形	2.1	0.18	A
G30	完形	群青色	管玉状丸玉	6.25	5.5	円形	2.35	0.22	A

7号墓出土遺物観察表《弥生土器》 図66

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2055 61	弥生土器 壺	口縁部～底部 残存一部欠損 口 (26.6cm) 底 (11.5cm) 高 68.5cm	中央部 底面直上	①白色鉾物粒・夾 雑鉾物粒・雲母・ 小礫・輝石を含む。 ②良好。 ③にぶい褐7.5YR 6/3	胴部は大きく張る。頸部は大き くくびれる。口縁部は大きく外 反する。内外面とも口縁部は横 なであり、外面は横方向鈍磨 き。内面は横方向器面調整。	胴部中位から上位にかけて櫛描 波状文。頸部は12条1単位の 2連止簾状文が右回りに施文 される。連続して下位には櫛 描波状文1段、横線文1条下 に鋸歯文が施文され、文様帯 部分は未塗彩である。	肩部塗彩 赤10R4/8
2057 61	弥生土器 甕	体部上位～底 部3/4残存 底 7.6cm 高 21.0cm残	2055内部	①白色鉾物粒・夾 雑鉾物粒・小礫を 含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR6/2	胴部は丸みをもつ。外面胴部中 位は斜方向器面調整。下位は縦 方向鈍磨き。胴部下位には炭素 付着。内面は横なで。	胴部中位から上位にかけて櫛 描波状文。	
2056 61	弥生土器 壺	ほぼ完形 口 17.8cm 底 8.9cm 高 35.9cm	中央部 2055の上層に 破片が集中	①白色鉾物粒・黒 色鉾物粒・夾雑鉾 物粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/4	胴部は大きく張る。最大幅はこ こにあり、頸部に向かいくびれ る。口縁部は大きく外反する。 内外面とも器面荒れしている。 口縁部内外面とも塗彩。外面胴 部上半は塗彩が濃い。	頸部から肩部にかけて上位よ り下位に右回り簾状文、櫛描 波状文、棒状工具による横線 文と鋸歯文が施文される。	塗彩。

4. 周溝墓の出土遺物

2号周溝墓出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図72

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1822	土師器 埴	肩部及び底部から 体部下位破片	南周溝 底面上3cm	①細砂を含む。白色鉍 物粒子が目立つ。 ②硬質。 ③橙7.5YR7/6	やや大形の埴形土器。体部下位、外面横匍けずり。肩部外面横匍けずり後、縦匍磨き。内面横方向指まで。	
1817 61	土師器 器台	口縁部～脚部 1/2残 口(17.4cm) 高 12.8cm	周溝北東隅 埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5YR5/3	器受部下端に突出部のある器台。器受部には一段千孔があき、脚部は一段千孔が回るものと推定される。器受部は、丁寧になでられた後、横方向匍磨き。脚部外面は刷毛などで縦方向匍磨き。内面横方向匍けずり。	
1818	土師器 甕	口縁部～体部上 位破片 口(19.3cm) 高 8.5cm残	周溝北東隅 埋没土中	①砂粒を多量に含む。 白色粒子・赤色粒子が 目立つ。 ②軟質。 ③黒褐7.5YR3/1	丸い胴部の甕形土器。体部外面斜刷毛目。口縁部横まで。頸部から肩部匍けずり。頸部指まで。内面横方向匍けずり。部分的に横方向まで。	

2号周溝墓出土遺物観察表《弥生土器》 図72

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
1816	弥生土器 甕	体部下半部残 高 11.5cm残	北周溝 底面上15cm	①白色鉍物粒・黒色鉍物粒・夾雑鉍物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	胴部は大きく張る。外面は縦方向の器面調整。内面は斜方向器面調整。		
1819	弥生土器 甕	底部破片 底 4.6cm	南周溝東隅 埋没土中	①白色鉍物粒・黒色鉍物粒・夾雑鉍物粒・石英砂を含。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	胴部に向かい立ち上がる。外面底部付近は縦方向の器面調整。内面は横方向の器面調整。		
1820	弥生土器 壺	頸部破片 高 6.9cm残	南周溝 埋没土中	①白色鉍物粒・夾雑鉍物粒・雲母・小礫を含む。 ②良好。 ③浅黄橙7.5YR 8/6	頸部は大きくくびれる。外面は縦方向の器面調整。内面は横方向の器面調整。	1単位12条の2連止右回り簾状文施文後、櫛描波状文が右回り簾状文の一部を切って下位に施文。	
1821 61	弥生土器 甕	体部破片	北周溝外側斜 面裾部 底面上10.0cm	①白色鉍物粒・夾雑鉍物粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙2.5YR 6/4	胴部は丸みをもつ。	胴部上半に櫛描波状文。	

2号周溝墓出土遺物観察表《石器》 図72

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S659 61	凹み石	15.3・17.4 12.2	粗粒安山岩 3337	埋没土中	一端に敲打による剝離痕を残す。	
S658 61	敲石	15.3・8.85 4.6	ひん岩 830	北周溝方台部 斜面直上	上面と三側面にくぼみ痕が認められる。	

3号周溝墓出土遺物観察表《弥生土器》 図76

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1826	弥生土器 壺	口縁部1/3残 口 25.3cm 高 6.2cm残	周溝南東隅 底面直上	①砂質である。僅かに小礫を含む。 ②良好。 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は大きく外反する。口縁部は折り返し。内外面とも器面荒れ。	折り返し部と口縁部には縦方向の刻み目がある。	
2269 62	弥生土器 鉢	口縁一部欠損 口 (11.2cm) 底 4.0cm 高 5.1cm	2号主体部 床面上12.5cm	①白色鉾物粒・夾雑鉾物粒を含む。 ②良好。 ③内面赤10R5/6 外面橙2.5YR6/6	底部から口縁部に向け直線上に立ち上がる。口縁部は内外面とも横なで。外面は縦方向の磨き。外面底部を除き塗彩。		
1827	弥生土器 鉢?	底部残存 底 4.6cm 高 3.0cm残	周溝南西隅 埋没土中	①白色鉾物粒・石英砂・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR7/4	底部は僅かにあげ底状を呈す。外面は縦方向の器面調整。内面は横方向器面調整。内外面とも器面荒れ。		
1869 62	弥生土器 甕	体部破片	周溝南西隅 埋没土中	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒を含む。②緩い。③灰褐5YR6/2	胴部は丸みをもつ。内外面とも器面荒れ。	8条1単位の櫛状工具により櫛描波状文が充填。	
1870 62	弥生土器 壺	肩部破片	周溝北東隅 埋没土中	①白色鉾物粒・夾雑鉾物粒・雲母を含む。②やや緩い。③にぶい褐7.5YR6/3	内外面とも器面荒れ。内面は縦方向に沈線が入る。	外面には篋状工具により鋸歯文の内に斜向沈線文。	

3号周溝墓出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図76

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1825	土師器 甕	口縁部1/4残存 口 (8.0cm)	周溝南西隅 埋没土中	①細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③褐灰10YR5/1	薄手の口縁をもつ甕。口縁部外面横刷毛目(5本/1cm)整形後、下位から頸部縦磨けずり。内面横方向刷毛目整形後横なで。	
1824 62	土師器 小形器台	口縁部・脚端部 欠損 底 18.8cm 高 8.3cm残	南西周溝 埋没土中	①小礫・砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/3	やや端部が内湾する脚部をもつ小形器台。夾雑物が多いので外面は縦方向に磨いているが、あまり平滑になっていない。脚部内面横方向磨なで。	
1823 62	土師器 高杯	口縁部～脚部 1/2残存 口 (14.4cm) 底 (9.8cm) 高 11.5cm残	南西周溝 埋没土中	①砂粒を多く含む。赤色粒子が目立つ。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	筒形の脚に、外方へ開く裾部がつく。杯部は後のない丸形である。杯部内外面横なで。脚部外面縦方向磨き。内面縦に強い指なで。裾部内面横磨なで。	

4号溝墓出土遺物観察表《弥生土器》 図78

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1831 1832 62	弥生土器 壺	口縁部欠損 体部も広範囲 欠損 胴 36.7cm 底 12.0cm 高 48.8cm残	東周溝 床面上7cm	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR7/3	胴部のほぼ中央に最大幅をもち、胴部上半は丸みをもつ。内外面とも器面荒れ。	頸部から胴部上位にかけて上から2連止簾状文、櫛描波状文を2段施文下に沈線による横線文を施文、これに鋸歯文をぶらさげ、この接点の一部にボタン状貼付文がある。沈線により三角文ができる。この中には円形刺突文が充填。	
1828 62	弥生土器 壺	口縁部～体部 下位3/4残存 口 (12.7cm) 高 30.0cm残	南周溝東端 床面上15cm	①砂粒であり、夾雑鉾物粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③浅黄橙10YR8/3	胴部の中央やや上位に最大径があり、丸みをもつ。頸部は大きくくびれ、口縁部は外反する。胴部下半部は横方向器面調整。肩部は縦、頸部は斜方向器面調整。口縁部は内外面とも横なで。全体に器面荒れ。		

4号周溝墓出土遺物観察表〈弥生土器〉 図78

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1829 62	弥生土器 壺	体部残存 高 35.2cm残	方台部南部 周溝確認面上 6cm	①白色鉾物粒・夾 雑鉾物粒・砂粒を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	胴部は大きく張る。内外面とも 器面荒れ。胴部中位付近は横方 向器面調整。輪積痕が僅かに残 る。		1830と同一 個体の可能 性あり。
1830	弥生土器 壺	底部破片 底 (10.6cm) 高 16.7cm残	方台部南部 埋没土中	①白色鉾物粒・夾 雑鉾物粒・砂粒を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	平底。大きく張る胴部がつくと 推定される。		1829と同一 個体の可能 性。
1871 62	弥生土器 壺	口縁部破片	南周溝 埋没土中	①白色鉾物粒・黒 色鉾物粒・夾雑鉾 物粒・輝石を含む。 ②良好。 ③灰白2.5YR8/1	口縁部は大きく外反する。口縁 端部は僅かに立つ。口縁部付近 は横なで。頸部付近は縦方向器 面調整。		

4号周溝墓出土遺物観察表〈石器〉 図78

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S662 62	敲石	11.8・8.0 3.65	ひん岩 445	埋没土中	一端に僅かに敲打痕を残す。 表面が被熱している。	

5号周溝墓出土遺物観察表〈弥生土器〉 図85

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1841 62	弥生土器 鉢	ほぼ完形 口 10.3cm 底 4.9cm 高 5.8cm	2号主体部 底面上30cm	①白色鉾物粒・黒 色鉾物粒・夾雑鉾 物粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙10YR 7/3	底部から口縁に向け直線状に開 く。内外面とも僅かに調整痕を 残しているが、内外面とも器面 荒れ。		
1842 63	弥生土器 鉢	口縁～体部下 位破片 口 (21.0cm) 高 9.2cm残	2号主体部 底面上44cm	①砂質であり、黒 色鉾物粒・白色鉾 物粒・夾雑鉾物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③橙7.5YR6/6	内湾しながら立ち上がる。 口縁部は内外とも横なで。 体部は内外面とも多方向器面調 整。		
1843	弥生土器 鉢	口縁～体部破 片 口 (13.7cm) 高 4.1cm残	2号主体部 底面上50cm	①白色鉾物粒・黒 色鉾物粒・夾雑鉾 物粒・石英砂を含 む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	底部から口縁部に向け直線状に 大きく開く。口縁部付近は内外 面とも横なで。外面は僅かであ るが縦方向磨き。		
1840 62	弥生土器 小形台付 甕	頸部以下～脚 部中位残 高 10.0cm残	2号主体部 底面上28cm	①白色鉾物粒・砂 粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰褐5YR4/2	脚部と胴部の接合部は大きくく びれる。この付近は内外面とも 縦方向磨き。脚部は開きはじ めて欠損する。甕部は丸みをも つ。内面は横方向器面調整。	頸部は右回り簾状文。下位に 2段の櫛描波状文。	
1838 62	弥生土器 甕	頸部～底部残 底 6.0cm 高 17.2cm残	2号主体部 底面上40cm	①白色鉾物粒・夾 雑鉾物粒・小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙7/4	胴部は丸みをもつ。頸部は僅か にくびれる。口縁部は最大幅を もち、大きく外反する。胴部下 位と口縁部は磨き。胴部中位 は横方向磨き。内面は横方向 器面調整。内外面とも器面荒れ。	頸部は2連止右回り簾状文。 胴部上位は櫛描波状文。	体部外面赤 色塗彩。

5号周溝墓出土遺物観察表《弥生土器》 図85・86

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1839 62	弥生土器 鉢	口縁部～底部 1/2残存 口 (12.2cm) 底 5.2cm 高 6.1cm	2号主体部南 側 遺構確認面	①白色鉾物粒・夾 雑鉾物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/4	底部から口縁部に向けて直線上 に開く。口縁付近で僅かに内湾 する。外面は縦方向鈍磨き。内 面は横方向器面調整。内外面と も口縁部は横撫でであり、器面 は荒れている。外面に僅かに煤 付着。		
1837 62	弥生土器 壺	体部上位～底 部 底 (8.0cm) 高 15.1cm	2号主体部 遺構確認面	①白色鉾物粒・夾 雑鉾物粒・小礫を 含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	胴部は大きく張る。頸部は大き くくびれる。胴部中位に塗彩。 内面胴部下半部と、頸部から口 縁部方向に塗彩。	1単位9条の櫛状工具により 2連止右回り櫛状文が頸部に あり、胴部上半に4段の櫛描 波状文がある。	塗彩。 赤10YR4/6
1834 63	弥生土器 甕	体部下位～底 部1/4残 底 13.0cm 高 19.0cm残	主体部 上位	①砂質であり、白 色の小礫・黒色鉾 物粒・夾雑鉾物粒 を含む。 ②良好。 ③橙7.5YR7/6	底部から体部にかけて直線状、 内外面とも器面荒れ。		土器棺の蓋 に転用され ている。
1833 63	弥生土器 壺	口縁部～頸部 欠損 底 13.4cm 高 48.5cm残	主体部 上位	①白色鉾物粒・黒 色鉾物粒・夾雑鉾 物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	胴部は丸みをもち、大きく張る。 頸部は内外面とも斜方向器面調 整。	頸部には右回り櫛状文があり 多連止である。直下に櫛描波 状文が5段、引き続き円形刺 突文を配したボタン状貼付文 が4ヶ所あり、棒状工具によ る鳥足文が11ヶ所に施文され る。	
1836 62	弥生土器 壺	体部1/3残存 高 30.0cm残	主体部 下位	①白色鉾物粒・黒 色鉾物粒・夾雑鉾 物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③明褐7.5YR5/6	胴部は丸みをもち大きく張る。 外面下位は縦方向の器面調整。 内面は横方向器面調整。		
1835 63	弥生土器 壺	体部上位～底 部残存 底 15.9cm 高 43.5cm残	西周溝 底面上10cm	①白色鉾物粒・黒 色鉾物粒・夾雑鉾 物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	胴部は中位で大きく張る。胴部 は下半部に比し上半部は丸み をもつ。外面は器面荒れ。内面は 横方向器面調整。	肩部には櫛描波状文があり、 櫛描波状文下位には円形刺突 文をもつボタン状貼付文があ る。	
1872 62	弥生土器 高杯	脚部のみ残存 底 (7.2cm) 高 5.5cm残	東周溝北端 底面上3cm	①白色鉾物粒・夾 雑鉾物粒・砂粒を 含む。 ②良好。 ③赤10R5/6	脚部は裾部に向かい開く。端部 は平坦。外面は縦方向鈍磨き。 内面は斜方向器面調整。		

5号周溝墓出土遺物観察表《石器》 図86

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S667	石鏃未製 品	2.75・1.0 0.15	珪質準片岩 0.74	埋没土中	形割剥片である。	
S668 63	スクレー パー	3.05・6.2 0.9	灰色安山岩 18.37	埋没土中	横長剥片素材、打面縁と先端縁に加工痕が認められる。 素面は磨り痕が認められる。	
S666 63	スクレー パー	6.95・6.7 2.5	黒色頁岩 122.72	東周溝 底面上16cm	横長剥片素材 先端縁に加工痕が認められる。	
S665 63	敲石	13.0・10.6 4.75	粗粒安山岩 820	北周溝 床面上33cm	一側縁に敲打痕を残す。	

4. 周溝墓の出土遺物

5号周溝墓出土遺物観察表《ガラス》 図87

試料番号	残存状況	外観の色調	形状	直径mm	厚さmm	孔形状	孔直径mm	重量g	機体観察(実体顕微鏡8~40倍)
G31	完形	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.3	2.45	楕円形	1.4	0.02	C
G32	完形	ターコイズブルー	丸玉	3.2	2.85	円形	1.0	0.06	C
G33	完形	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.1	3.0	円形	1.4	0.06	C
G34	完形	ナイルブルー(10BG5.5/5)	白玉状小玉	2.9	1.35	楕円形	1.6	0.03	C
G35	完形	ナイルブルー	白玉状小玉	3.2	1.75	円形	1.0	0.03	C
G36	完形	ナイルブルー	管玉状小玉	3.2	1.75	円形	1.55	0.02	C
G37	完形	シアン	管玉状小玉	3.45	1.95	円形	1.1	0.04	C
G38	完形	新橋色(2.5B6.5/5.5)	白玉状小玉	3.2	1.7	円形	1.35	0.02	C
G39	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	2.75	1.45	歪円形	1.3	0.02	C
G40	完形	ナイルブルー	管玉状小玉	3.4	1.85	円形	1.5	0.03	C
G41	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	3.9	1.3	歪円形	1.35	0.03	C
G42	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	3.2	1.3	円形	1.8	0.03	C
G43	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	3.3	2.15	円形	1.5	0.04	C
G44	完形	ピーコックブルー(10BG4/8.5)	管玉状小玉	3.0	1.8	歪円形	1.9	0.03	C
G45	完形	シアン	白玉状小玉	3.3	2.0	円形	1.7	0.03	C
G46	完形	ターコイズブルー	白玉状小玉	3.15	1.5	円形	1.3	0.02	C
G47	完形	新橋色	白玉状小玉	2.9	1.9	円形	1.3	0.02	C
G48	完形	新橋色	白玉状小玉	3.1	1.5	円形	1.75	0.02	C
G49	完形	ピーコックブルー	管玉状小玉	2.8	1.7	円形	1.85	0.02	C
G50	完形	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.6	3.5	円形	1.7	0.04	C
G51	完形	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.4	3.3	円形	1.5	0.05	C
G52	一部欠損	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.3	2.8	円形	1.55	0.04	C
G53	完形	ターコイズブルー	管玉状小玉	3.5	2.65	円形	1.4	0.05	C

6号周溝墓出土遺物観察表《弥生土器》 図90

番号 PL	器種	残存 法 存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1881 63	弥生土器 甕	口縁部欠損 底 8.5cm 高 34.8cm残	北周溝方台部 斜面直上	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒・雲母を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 6/4	胴部は丸みもち大きく張る。頭部は大きくくびれ、口縁部に向かい外反する。胴部下半部と頭部から上位にかけては縦方向の器面調整。胴部上半は斜方向器面調整。	頸部には1単位8条の2連止右回り簾状文があり、引き続き数段の櫛波状文を施文し、篋状工具により横線文で文様帯を区切り、鋸歯文を施して内を斜向沈線文で充填する。鋸歯文の下位にボタン状貼付文がある。	
1873 63	弥生土器 壺	体部1/2残存 高 24.2cm残	北周溝方台部 斜面直上	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい褐7.5YR 6/3	胴部は丸みをもつ。頭部はくびれる。内外面とも器面荒れ。内外面の一部に調整痕が残る。	1単位8条の櫛状工具による右回り簾状文を頸部に施文後、肩部に4~5段の櫛波状文がある。	
1879 64	弥生土器 壺	体部2/3残存 高 28.5cm残	西周溝南端 底面上10cm	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR 7/3	胴部は丸みもち大きく張る。外面胴部中位と内面は横方向器面調整。外面胴部下位は縦方向器面調整。		
1880 63	弥生土器 壺	頭部一部 体部1/3残存 高 25.9cm残	北周溝東端 底面上7cm	①砂質であり、夾雑鉾物粒・石英砂・雲母を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR 7/4	胴部は丸みをもつ。頭部はくびれる。口縁部は大きく外反する。外面胴部上半は縦方向篋磨き。	頸部には1単位8条の櫛状工具により横線文が5単位施文された後、縦方向に縦直線文によりJ字文にしてある。(9区画)	

6号周溝墓出土遺物観察表《弥生土器》

図90・91

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1883	弥生土器 壺	頸部破片	南周溝 埋没土中	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③橙7.5YR7/6	頸部は大きくくびれ、口縁部・胴部は大きく開きはじめる。内外面は横方向器面調整。外面器面荒れ。		
1897	弥生土器 壺	頸部～体部 1/2残存 高 12.8cm残	南周溝 埋没土中	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒を含む。 ②良好。 ③灰黄2.5YR6/2	胴部は丸みをもつ。頸部はくびれる。内外面とも横方向器面調整。内面の一部に指おさえ。	頸部には右回りの等間隔止簾状文、肩部には4段～5段の櫛描波状文、文様下部にボタン状貼付文。	
1875 63	弥生土器 壺	口縁～体部 2/3残存 口 17.7cm 高 13.2cm残	北周溝 埋没土中	①白色鉾物粒・夾雑鉾物粒・小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR6/4	胴部上位は丸みをもつ。頸部はくびれる。口縁部は外反する。内面は横方向器面調整。	頸部は1単位9条の2連上右回り簾状文。頸部～口縁端部までと、胴部上半には4～5段づつの櫛描波状文が入る。	
1878 64	弥生土器 壺	口縁～底部 1/2残存 口 13.3cm 底 9.0cm 高 29.5cm	東周溝北端 斜面上13cm	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③灰白10YR7/1	胴部は丸みをもつ。頸部はくびれる。口縁部は大きく外反する。内外面とも口縁部は横なで。胴部は縦、斜方向器面調整。		
1877 64	弥生土器 壺	口縁～底部 1/2残存 口 (19.5cm) 底 8.7cm 高 30.7cm	北周溝 底面上7cm	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒・雲母を含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR7/4	胴部は丸みをもつ。頸部は大きくくびれ、口縁部は大きく外反する。内外面とも器面荒れしているが、口縁部付近は横なで。胴部は外面縦方向の器面調整。内面は斜方向器面調整。	頸部は右回りの等間隔簾状文の下位に2段の櫛描状文をもつ。	
1874 64	弥生土器 壺	口縁～体部下 位2/3残存 口 (11.2cm) 高 14.6cm	北周溝 埋没土中	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒を含む。 ②やや緩い。③にぶい赤橙5YR4/4	胴部は僅かに丸みもち大きく張る。頸部はくびれる。口縁部はやや外反する。	1単位9条の櫛状工具により右回り簾状文施文後、口縁部～頸部と胴部上半に櫛描波状文を施文する。	
1890	弥生土器 壺	頸部破片 高 4.4cm残	西周溝 埋没土中	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒・砂粒土を含む。 ②緩い。 ③浅黄橙7.5YR8/3	肩部は大きく張る。頸部は大きくくびれ、口縁部に向かい立ち上がる。内外面とも器面荒れ。	頸部と肩部とは1単位9条の左回りの等間隔止簾状文、この間に櫛描波状文が施文される。	1894と同一個体と考えられる
1892 64	弥生土器	口縁～体部破 片	西周溝 埋没土中	①砂質であり、白色鉾物粒・石英砂・小礫を含む。 ②良好。 ③赤灰2.5YR4/1	口縁部は大きく外反する。頸部は横方向器面調整。	口唇部は縄文。 1単位6条の細い櫛状工具により口縁部上位は3段の櫛描波状文。下位には2段の横線文と、2単位合わせた横線文がこの下位に入る。また縦方向に2単位分の櫛描文が入る。	
1876 64	弥生土器 片口土器	口縁片口部欠 損 口 10.0cm 底 5.0cm 高 7.4cm残	東周溝外縁地 確認面	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒を含む。 ②緩い。 ③橙5YR6/6	底部から外方に向け立ち上がり、上半に至り丸みもち、大きく張る。口縁部は内湾する。片口部は底部から徐々に開く。器面は内外面とも横方向器面調整が主であり、外面下部は斜方向器面調整。内外面とも器面荒れしているが、塗彩が残る。		塗彩。
1886 64	弥生土器 高杯	杯部下位～脚 部 底 7.3cm 高 8.6cm残	北周溝 埋没土中	①白色鉾物粒・黒色鉾物粒・夾雑鉾物粒を含む。 ②やや緩い。 ③明褐7.5YR5/6	脚部は直線上に端部まで開き、端部は平坦。脚部は縦方向磨き。杯部外面には塗彩が残る。		塗彩。

4. 周溝墓の出土遺物

6号周溝墓出土遺物観察表《弥生土器》 図90・91

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1882 64	弥生土器 壺	頸部破片	方台部南西部	①白色鈎物粒・黒色鈎物粒・夾雑鈎物粒を含む。 ②緩い。 ③明褐灰7.5YR 7/2	頸部はくびれる。外面は斜方向器面調整。	頸部には右回り簾状文、直上を棒状工具による沈線文を入れた後、波状沈線文を入れる。	
1884 64	弥生土器 壺	頸部～体部上位破片	周溝埋没土中	①白色鈎物粒・黒色鈎物粒・夾雑鈎物粒を含む。 ②良好。 ③にぶい褐7.5YR 5/3	胴部上半は丸みをもつ。	頸部は左回りの簾状文。胴部上半は縄文。	
1885 64	弥生土器 壺	頸部破片	北西方台部盛土	①白色鈎物粒・黒色鈎物粒・夾雑鈎物粒・小礫を含む。 ②緩い。 ③灰黄褐10YR5/2	頸部はゆるやかにくびれる。	頸部には簾状文と思われる文様がある。肩部には篋状工具により鋸歯文内に平行沈線文を充填させる。	
1887 64	弥生土器 壺	口縁～頸部上位破片	周溝埋没土中	①白色鈎物粒・夾雑鈎物粒・輝石を含む。 ②やや緩い。 ③灰白10YR7/1	頸部は大きくくびれる。口縁部は大きく外反する。口縁部付近は立ち上がる。外面は斜・内面は横方向器面調整。	口縁部端部付近に櫛描波状文。	
1889 64	弥生土器 壺	頸部破片	北周溝埋没土中	①砂質であり、夾雑鈎物粒や小礫を含む。 ②緩い。 ③灰白2.5YR8/2	頸部はくびれる。	棒状工具による横線文の上と下で、篋状工具により羽状文。	
1891 64	弥生土器 小形甕	口縁部破片	西周溝埋没土中	①白色鈎物粒・黒色鈎物粒・夾雑鈎物粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部は大きく外反する。	頸部には1単位6条の櫛状工具による右回りの等間隔止簾状文。	
1893 64	弥生土器 壺	体部破片	東周溝埋没土中	①黒色鈎物粒・夾雑鈎物粒を含む。 ②緩い。 ③灰白2.5YR8/2	胴部の上位はわずかに丸みをもつ。内外面とも器面荒れ。	上位より櫛描波状文を2段、下位の棒状工具による横線文がこれを切り、下位に篋状工具による斜向沈線文が入る。	
1894 64	弥生土器 壺	頸部～体部破片	東周溝北隅埋没土中	①白色鈎物粒・黒色鈎物粒・夾雑鈎物粒を含む。 ②緩い。 ③灰白7.5YR8/2	肩部は大きく張る。	頸部と肩部には僅かに櫛描波状文。左回りの等間隔止簾状文、下位に接して篋状工具により鋸歯文の中に斜格子目文を充填する。	
1895 64	弥生土器 壺	口縁部破片	東周溝北隅埋没土中	①白色鈎物粒・夾雑鈎物粒を含む。 ②緩い。 ③灰白2.5YR8/2	口縁部は受け口状である。内外面とも器面荒れ。	口縁部は中に沈線文が横行し、この上下を細かい斜行沈線文が入る。	
1896 64	弥生土器 蓋	裾部破片	東周溝埋没土中	①砂質であり、白色鈎物粒・夾雑鈎物粒・小礫を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙2.5YR 7/4	裾は大きく広がる。端部付近は円形孔が2つ穿ってある。内外面とも器面荒れ。	内面の一部に塗彩がみられる。	

6号周溝墓出土遺物観察表《石器》 図92・93

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S734 64	有茎石鏃	1.9・1.4 0.5	黒曜石 0.66	北周溝 埋没土中	有茎で基部は直線的である。 茎部を欠損している。	
S733 64	有茎石鏃	1.45・1.4 0.35	流紋岩 0.75	主体部 埋没土中	有茎で基部は直線的である。 先端部と茎部を欠損している。	
S680 64	スクレー パー	3.9・4.4 0.9	黒色頁岩 11.95	西周溝 埋没土中	不定形剥片素材 端部に使用痕を残す。礫面打面。	
S735 64	磨製石斧	3.1・1.6 0.5	4.73	西周溝 埋没土中	小型の定角式である。 刃部に微細な刃こぼれが認められる。	
S676 64	スクレー パー	4.0・5.4 1.4	珪質頁岩 24.66	北周溝 埋没土中	不定形剥片素材 一側縁に加工痕が認められる。	
S750 64	スクレー パー	3.1・5.7 1.1	黒色頁岩 20.9	埋没土中	縦長剥片素材、礫面残存、礫面打面二側縁に加工痕が認められる。	
S677 65	スクレー パー	4.8・4.75 1.4	凝灰岩 39.94	埋没土中	縦長剥片素材 周縁部分に加工痕が認められる。	
S675 65	スクレー パー	3.8・5.1 0.95	黒色頁岩 25.97	西周溝 埋没土中	横長剥片素材 打面部分に加工痕が認められる。	
S678	スクレー パー	4.45・6.8 1.6	黒色頁岩 43.27	西周溝 埋没土中	横長剥片素材、礫面残存 打面部分に加工痕が認められる。	
S679 65	砥石	8.6・4.9 1.0	砂岩 61.20	東周溝 埋没土中	二面を砥き面としており、線状痕を多数残す。	
S671 65	スクレー パー	7.8・7.5 1.6	黒色頁岩 114.56	方台部南東部	横長剥片素材 周縁の一部に加工痕が認められる。	
S674 65	敲石	8.6・5.5 2.5	文象斑岩 170.11	西周溝 埋没土中	表面・裏面を磨り面として利用している。	
S672 65	台石	30.0・22.2 7.4	粗粒安山岩 7500.0	方台部南端	一端に敲打痕を残す。	
S673 65	敲石	22.2・9.9 8.9	溶結凝灰岩 3210.0	方台部南端	両端に敲打痕を残す。	
S765	敲石	15.6・5.3 4.5	石英閃緑岩 604.0	埋没土中	一端に敲打痕を残す。	

7号周溝墓出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図95

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1852 65	土師器 高杯	脚部上位上半部 残存	北西周溝 床面直上	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙2.5YR7/6	脚部上半のみ遺存。残存部には円孔は看取できない。 脚部外面縦磨き。内面横磨き。	
1844	土師器 杯	口縁部破片 口 (13.1cm) 高 3.4cm残	北周溝方台部 斜面上3cm	①微細砂を含む。石英 や雲母を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	いわゆる内斜口縁の杯形土器。口縁の杯形土器。口縁 端部は受け口状に屈曲する。外面横磨き。部分的に縦磨き。内面にて調整の後磨き。	

8号周溝墓出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図99

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1855 65	土師器 甕	口縁部体部下位 1/3残存 口 (15.9cm) 高 17.0cm残	後方部南斜面 確認面直上	①砂粒・細砂と少量の 小礫を含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	球形の胴部を呈する。口縁端部は内湾する。端部外面 は面とり。体部外面上半は縦方向刷毛目 (7本/ 1cm) の整形後、下半横方向指などで。口縁部内外面横 なで。体部内面横方向になでているが、輪積痕、指頭 痕を多く残す。	
1850 65	土師器 鉢	完形 口 11.7cm 底 丸底 高 6.6cm	前方部西北隅 周溝 底面直上	①細砂・小礫を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	底部をやや削り込んで平底を意識した深めの鉢である。 底部外面磨き。体部外面横方向磨き。内面横、 斜磨き。口縁部内外面横なで。	

4. 周溝墓の出土遺物

8号周溝墓出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図99

番号 PL	器種	残存 量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1851 65	土師器 埴	口縁部下位～底 部1/2残存 底丸底 高 5.8cm残	前方部西北隅 周溝 底面直上	①砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5YR6/2	体部下位外面斜方向刷毛目（8本/1cm）整形後、匱 などで。底面外面匱けずり。口縁部下位縦方向など。体 部内面斜方向匱などで。口縁部内面横方向刷毛目。	
1849 65	土師器 器台	口縁～脚部中位 1/3残存 口（18.4cm） 高 10.5cm残	前方部 確認面上6cm	①細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	器受部下端に突出部のある特殊器台。突出部の上端は つまみ上げられている。器受部内外面はなで整形後、 縦方向匱磨き。脚部外面縦方向匱磨き。内面上半縦方 向指などで。下半横方向など。器面は荒れており、整形 単位は明瞭でない。	
1853 65	土師器 高杯	口縁～脚部下位 1/3残存 口（13.4cm） 高 9.0cm残	前方部 確認面上9cm	①細砂・砂粒を多く含 む。②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	杯部下位に稜のある高杯の杯部は縁は小さく丸くつま み上げられている。杯部下位外面は横匱けずり。外面 横などで、縦匱磨き。内面横などで。底面には匱磨きが ある。脚部は縦匱磨き。内面横刷毛目（7本/1cm）	
1845 65	土師器 小形器台	2/3残存 口（7.5cm） 底 11.5cm 高 8.1cm残	前方部 確認面上13cm	①微細砂・細粒を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は小さく外湾する浅い器受部。脚部は裾部がや や内湾する。脚部外面縦匱磨き。裾部横などで。内面上 半縦指などで、中位刷毛目（9本/1cm）整形、下位横 などで。器受部内外面丁寧などで調整。	
245 65	土師器 高杯	口縁～脚部残存 口（6.5cm） 底（10.0cm） 高 7.5cm残	前方部 確認面直上	①微細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	口縁端部が上方へ小さくつまみ上げられた形状を呈す る。器受部に円孔はないが、器台と考えられる。脚部 外面縦匱磨き。内面横匱などで。器受部内外面丁寧な で調整。	
1848	土師器 器台	脚部上半部残存 高 5.6cm残	前方部 確認面上5cm	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	脚部上半（9本/1cm）の横刷毛目整形後、下方は縦 匱磨き。内面上半縦指などで。下半横方向など。1段3 孔が看取できる。	
1847	土師器 高杯	杯部～脚部3/5 残存 底（13.2cm） 高 7.7cm残	前方部 確認面上8cm	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	脚部下半がラッパ状に開く小形の高杯。脚部中位に1 段3孔の円孔を穿つ。脚外面縦匱磨き。内面斜方向刷 毛目（10本/1cm）整形。	
1846 65	土師器 器台	1/3欠損 口 7.9cm 底 11.0cm 高 8.5cm残	前方部 確認面上11cm	①細砂を多く含む。白 色鉱物粒が目立つ。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	口縁端部が外反する浅い器受部に裾部がやや内湾する 脚部が付く。器受部の円孔はやや一方にずれている。 器面が荒れている為、調整痕は明瞭でない。脚部には 1段3孔が穿たれている。脚部外面縦匱磨き。内面横 匱などで。器受部内外面などで調整後、内面縦方向匱磨き。	
1854	土師器 壺	頸部破片 高 2.9cm残	前方部周溝 埋没土中	①細砂を含む。 ②やや軟質。 ③浅黄橙7.5YR8/4	断面四角形の突帯を巡らせた頸部破片。突帯には、櫛 歯状工具により、斜方向の刺突痕がついている。	

8号周溝墓出土遺物観察表〈石器〉 図99

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ（cm）	石 材 重さ（g）	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S731 66	ペンダン ト?	4.0・2.05 0.5	滑石 4.81	西側くびれ部 周溝 埋没土中	剣形石製横造品に類似するが、穿孔の位置が異なるために、器種 は不明である。穿孔は片抉である。	
S682 66	スクレー パー	3.2・4.2 0.5	黒色頁岩 7.84	埋没土中	縦長剥片素材、折断、一側縁に僅かな加工痕と、微細な使用痕を 残す。礫面残存。	
S732 66	スクレー パー	5.25・3.6 1.1	黒色頁岩 22.24	前方部トレン チ内	縦長剥片素材、礫面残存。 先端部に加工痕が認められる。	
S736 66	打製石鏃	2.05・1.15 0.2	黒色安山岩 0.47	前方部周溝 埋没土中	先端部と半分を欠損している。 無茎で基部に抉入がある。	
S681 66	凹み石	8.85・10.6 3.8	粗粒安山岩 412.0	後方部南周溝 外側確認面	表裏両面のほぼ中央にくぼみ痕が認められる。	

9号周溝墓出土遺物観察表《弥生土器》 図101

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1856 66	弥生土器 壺	口縁～底部 1/2残存 口 18.7cm 底 9.7cm 高 32.0cm	主体部	①白色鈳物粒・黒色鈳物粒・夾雑鈳物粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙 7.5YR6/4	胴部は大きく張る。頸部はくびれる。口縁部は外反する。全体に歪む。内外面とも僅かに器面荒れ。外面口縁部、底部付近と内面は横方向の鈍磨き。外面胴部縦方向鈍磨き。	頸部には右回りの等間隔止簾状文。	

10号周溝墓出土遺物観察表《弥生土器》 図102

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1861 66	弥生土器 甕	頸部破片	北周溝 底面上13.0cm	①白色鈳物粒・黒色鈳物粒・夾雑鈳物粒を含む。 ②やや緩い。 ③褐灰5YR6/1	口縁部は大きく外反する。内外面とも横なで。	頸部には1単位5条の櫛描波状文。肩部から下位には櫛状工具による羽状文。	
1862 66	弥生土器 甕	頸部破片	北周溝東端 底面直上	①白色鈳物粒・夾雑鈳物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい褐 7.5YR6/3	口縁部は外反する。内面は横なで。外面は器面荒れ。	頸部は1単位9条の2連止右回り簾状文。胴部上位には櫛描波状文。	
1863 66	弥生土器	頸部破片	北周溝 底面直上	①白色鈳物粒・黒色鈳物粒・夾雑鈳物粒・小礫・輝石を含む。 ②やや緩い。 ③褐灰10YR6/1	頸部は大きくくびれる。外面は縦方向の器面調整が主である。内面は横方向器面調整。	頸部には棒状工具による平行沈線文が4条みられる。	

10号周溝墓出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図102

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1859 66	土師器 甕	口縁～体部下位 1/4残存 口 (14.0cm) 高 14.3cm	北周溝 底面上12cm	①砂粒・小礫を多く含む。②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	体部の丸い広口の甕形土器。体部外面鈍けずりの後、横、斜方向鈍なで。内面縦方向の指なで。口縁部～頸部内外面横なで。	
1860	土師器 甕	口縁～体部上位 破片 口 (19.0cm) 高 9.5cm残	西周溝 底面直上	①細砂・砂粒を多量に含む。②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部がやや内湾する。広口の甕形土器と推定される。磨耗が著しく、整形単位は不明瞭であるが、体部外面は横方向の鈍けずり。内面横方向鈍なで。口縁部内外面横なで。	

10号周溝墓出土遺物観察表《石器》 図102

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S684 66	石鏃未製品	4.15・1.5 0.4	珪質準片岩 3.38	西周溝 底面直上	分割剥片である。	
S683 66	スクレーパー	9.4・4.1 1.95	黒色安山岩 62.43	北周溝東部 埋没土中	横長剥片素材、礫面残存、礫面打面、打面縁と先端縁に使用痕、一側縁に加工痕が認められる。	

11号周溝墓出土遺物観察表《弥生土器》 図104

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1865	弥生土器 高杯	脚部破片 底 (10.8cm) 高 3.0cm残	北周溝 底面上4cm	①白色鈳物粒・黒色鈳物粒・石英砂・輝石を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	脚部は大きく開く。外面は縦、内面は横方向器面調整。脚端部は粘土のもり上がりが僅かにあるが、丸みをもつ。		

5. 礫床墓の出土遺物

11号周溝墓出土遺物観察表《弥生土器》 図104

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1864	弥生土器 高杯	脚部破片 底 (13.0cm) 高 2.7cm残	北周溝 底面上6cm	①白色鉍物粒・黒色鉍物粒・夾雑鉍物粒・小礫を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙5YR7/4	脚部裾部は大きく開く。器面調整痕は僅かに残るが、内外面とも器面荒れ。		
1868	弥生土器 甕	底部1/2残存 底 (9.7cm) 高 3.0cm残	周溝 埋没土中	①黒色鉍物粒・夾雑鉍物粒・白色の小礫を含む。 ②良好。 ③灰白10YR7/1	底部付近から胴部に向け開きはじめる。底部付近は縦、斜方向器面調整。内面と外面底部は器面荒れ。		
1866	弥生土器 甕	肩部破片	周溝 埋没土中	①砂質であり、夾雑鉍物粒・輝石を含む。 ②良好。 ③明褐灰7.5YR7/2	胴部上半は丸みをもつ。頸部付近はやや外反をはじめる。内外面とも横なで。	櫛状工具にする羽状文。	
1867	弥生土器 甕	肩部破片	周溝 埋没土中	①白色鉍物粒・夾雑鉍物粒・石英砂を含む。 ②緩い。 ③褐灰7.5YR5/1	胴部上半は丸みをもつ。頸部付近はやや外反をはじめる。内外面とも横なで。	櫛状工具による横線文が2段ある。	

5. 礫床墓の出土遺物

礫床墓出土遺物観察表《弥生土器》 図105

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2252 66	弥生土器 高杯	杯部下位～脚部残存 底 5.8cm 高 6.6cm残	最終礫面直上	①白色鉍物粒・夾雑鉍物粒・小礫・輝石を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR7/4	脚部は短かく直線状に開き、端部平坦。杯部は開きながら立ち上がる。	脚部横方向器面調整。外面杯部は縦方向磨き。脚部内面を除き塗彩。	塗彩 10YR4/8

6. 遺構外の出土遺物

包含層 A 出土遺物観察表〈弥生土器〉 図108

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2212 68	弥生土器 壺	口縁部～体部 破片 口 (17.2cm) 高 13.4cm残	M-37G	①白色・夾雑鉱物 粒・雲母・輝石を 含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	胴部は丸みをもつ。頸部はくび れる。口縁部は大きく外反する。 口縁部は横なで。外面頸部は上 位は横方向の磨き。	胴部上位には縄文がある。	
2211 68	弥生土器 壺	口縁部破片	M-39G	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②良好。 ③明褐灰7.5YR 7/2	頸部はくびれる。口縁部は大き く外反する。口縁部は折り返し のあとが残る。内面は横なで。	頸部には簾状文と思われる横 線文があり、頸部から口縁部 にかけては、5単位の櫛状波 状文で充填される。	
2060	弥生土器 甕	胴部破片	L-39G	①砂質であり石英 砂を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい褐7.5YR 6/3	胴部は丸みをもつ。内面は横方 向の器面調整。	地文に縄文があり、太い沈線 が縦方向に走る。	
2068	弥生土器 鉢	口縁部～底部 1/4残存 口 (9.0cm) 底 5.2cm 高 4.3cm	M-37G	①白色・夾雑鉱物 粒・輝石を少量含 む。 ②やや緩い。 ③明赤褐5YR5/6	胴部はわずかに内湾しながら外 方へたちあがる。外面底部は平 底であり、内面は鍋底状を呈す。 内外面とも器面荒れ。外面には 刷毛目が入る。		

包含層 A 出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図108

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2063 68	土師器 壺	口縁部1/3残存 口 (16.4cm) 高 6.3cm残	L-37G	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③浅黄橙10YR8/4	口縁端部外面に税い面とりをし、頸部には断面四角形 の突帯を付す。突帯の上面と側面に斜め方向に櫛状 工具による刺突文を付している。口縁部外面縦方向刷 毛目の後、丁寧なで調整。内面横方向磨き。	4本/1cm
2069 68	土師器 壺	体部下位底部欠 損 口 17.2cm 胴 25.8cm	M-38G	①微細砂・細砂を含む。 赤色鉱物粒が目立つ。 ②やや軟質。 ③にぶい橙YR7/4	巾袂の折り返し口縁を付した、球形胴部の壺形土器。 体部外面斜、横方刷毛目。内面方向横なで。口縁部内 外面横なで。	
2067 68	土師器 鉢	口縁部～体部一 部欠損 口 (11.5cm) 底 4.8cm 高 12.5cm	L-37G	①細砂・砂粒を多く含 む。 ②軟質。 ③明赤褐5YR5/6	小さな平底の鉢形土器。広口、くの字の口縁部が付さ れている。外面横なで調整。内面なで調整。口縁部内 外横なで。	
2071 68	土師器 小形器台	杯部～底部 口 (7.5cm) 底 13.5cm 高 9.3cm	M-38・40G	①細砂・砂粒を多量に 含む。 ②軟質。③赤褐2.5YR 4/8・橙5YR6/6	脚部外面縦なで、内面斜刷毛目、端部内外面横なで。 器受部内外面横なで。	
2066 68	土師器 高杯	杯部1/2残存 口 18.5cm 高 5.8cm残	L-37G	①細砂を多く含むが、 緻密な胎土である。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	上半部が大きく開く高杯杯部。口縁端部外面には緩い 面とりがある。内外面とも、横方向の細かい磨き。	
2061 68	土師器 甕	口縁部～体部 口 (19.4cm) 高 8.4cm残	L-37G	①細砂・砂粒を多く含 む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	広口の大形の甕形土器。短い口縁が外反する。頸部か ら体部外面斜方向刷毛目 (5本/1cm)。内面横方向刷 毛目。下位横方向磨き。口縁部内外横なで。	
2072 68	土師器 小形甕	口縁部～体部 口 (10.0cm) 高 5.8cm残	M-38G	①微細砂・砂粒を多含 む。 ②軟質。 ③にぶい橙5YR6/3	S字甕を模した、小形の台付甕と考えられる。体部外 面横刷毛目。内面なで調整。指頭痕残る。	
2064 68	土師器 S字甕	口縁部～体部上 位1/3残存 口 18.0cm 高 11.7cm残	L-37G	①微細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/4	口縁部中段は外湾し、丸い体部を呈する。外面は羽状 の斜刷毛目後横方向刷毛目 (5本/1cm)。内面は磨 なで後、指押え。口縁部内外面横なで。	

包含層A出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図108

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2062 68	土師器 S字甕	口縁部1/3残存 口 17.2cm 高 5.8cm残	L-37G	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	口縁端部内面中広の面とりをしている。頸部は締らず、肩部の張らない器形である。体部外面斜刷毛目（7本/1cm）。内面指押さえ。口縁部内外面横まで。	
2070 68	土師器 S字甕	脚部～胴部 底 8.2cm 高 14.1cm	M-38G	①砂粒を多量に含む。 白色粒子を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	球形のS字甕、体部から脚部斜刷毛目（7本/1cm）上部には横刷毛目が見える。内面上半縦まで。下半横方向まで。脚内面指まで調整。	
2065 68	土師器 S字甕	口縁部～頸部 2/3残存 口 (17.9cm) 高 5.8cm残	L-37G No50	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5YR 6/3	口縁部中段は、ほぼ直立し、口縁部はゆるやかに外湾する。体部外面斜方向刷毛目（7本/1cm）後肩部外面横方向刷毛目。内面指まで。口縁部内外面横まで。	

包含層A出土遺物観察表〈石器〉 図108

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S696 68	台石	19.2・16.3 4.5	粗粒安山岩 2375	不明	周縁から剝離面が5つ認められる。	

包含層B出土遺物観察表〈弥生土器〉 図109

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備考
2117 69	弥生土器 壺	頸部破片	V-55G	①黒色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	僅かに外反する。内外面とも器面荒れ。	3本の平行沈線文の上下に斜向沈線文がある。	
2085 69	弥生土器 壺	肩部破片	R-52G No70	①白色・黒色・夾雑 鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③灰白7.5YR8/2	僅かに外反する内外面とも器面荒れ。	棒状工具による横線文の下匞状工具により鋸歯文が施され中に斜向沈線文が充填される。鋸歯文の間には塗彩。	
2113 69	弥生土器 甕	体部破片	U-54G	①砂粒を多量に他 白色鉱物粒も含む。 ②やや緩い。 ③灰5YR6/1	胴部は僅かに丸みをもつ。	平行する円形刺突文がある。	
2083 69	弥生土器 甕	口縁部破片	R-52G No75	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	頸部はくびれる。口縁部はひらく。内面は横方向の器面調整。	口縁部から頸部にかけては、櫛描波状文を2段に入れ頸部は右回りの等間隔止簾状文。	
2098 69	弥生土器 甕	口縁部破片	T-53G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部は外反し、口縁部付近でわずかに内湾する。内面は横まで。	口縁部から頸部にかけては櫛描波状文が充填されている。	
2115 69	弥生土器 甕	体部破片	V-55G No1	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③灰白2.5Y7/1	胴部上位は僅かに丸みをもつ、内面は横方向の器面調整。	横方向の器面調整後櫛状工具による羽状文を施文。	
2077 68	弥生土器 壺	口縁部～体部 上位残存 口 (21.0cm) 高 15.6cm残	Q-52G No9	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む砂 質土。 ②良好。 ③にぶい黄褐 10YR6/4	胴部上位は丸みをもつ。頸部は大きくくびれ、口縁部は直線状にひらく。口縁端部は僅かにたつ。外面は縦・斜・内面は横方向の器面調整。	単位10条の櫛状工具押圧文により頸部は2連止右回りの簾状文。胴部は2段の櫛描波状文。	

包含層B出土遺物観察表〈弥生土器〉 図109

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2079 68	弥生土器 壺	口縁部～頸部 1/2残存 口 (27.8cm) 高 12.5cm 残	Q-53G No 5	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む 砂質土。 ②やや緩い。 ③にぶい橙5YR 7/4	頸部は大きくくびれ、口縁部に 向かい大きく外反する。口縁部 は折り返しであり、折り返し部 分には指押さえ痕がつく。外面 は縦、内面は横方向の器面調整。		
2080	弥生土器 壺	体部中位1/2 高 10.5cm	R-52G No25	①砂質土であり石 英砂を含む。 ②緩い。 ③にぶい黄橙 10YR6/4	胴部は大きく張る。内外面は器 面荒れがはげしく、一部に整形 痕がのこる。		
2078	弥生土器 小形甕	口縁部の一部 欠損 口 9.2cm 底 5.8cm 高 13.4cm	Q-53G No13	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③褐色7.5YR4/3	胴部は丸みをもつ。頸部はくび れる。口縁部は頸部から外反を はじめ中位から口縁端部にか けてはわずかに内湾、全体に歪む。 口縁部は横なで。外面胴下半部 は縦方向の器面調整。内面は鉄 分の付着が多く観察不可能。	1単位6条の櫛状工具押圧文 により頸部は右回りの簾状文。 胴部上位は2段の櫛描波状文 を施文。	
2091 69	弥生土器 壺	口縁部破片 口 16.2cm 高 6.1cm	S-53G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③灰褐5YR6/2	頸部はくびれる。口縁部は大き く外反する。内外面とも口縁部 横方向の器面調整。頸部付近は 縦方向の器面調整。		
2119	弥生土器 甕	口縁部～頸部 1/4残存 口 (14.0cm) 高 6.8cm	V-56G No 4	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい褐7.5YR 5/3	胴部は大きく張る。頸部は僅か にくびれる。口縁部は直線状外 にひらく。粗雑なつくりで口縁 部は歪み、外面にも輪積痕が残 る。外面は縦、横方向の器面調 整。内面は輪積痕が残り、横方 向の器面調整。	口縁部には右回りの簾状文。 直下に櫛描波状文があり、右 回りの簾状文を一部で切る。	
2108	弥生土器 鉢	完形 口 11.1cm 底 6.2cm 高 7.1cm	U-54G No 3	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③灰褐5YR5/2	胴部は丸みをもつ。頸部はわず かにくびれる。口縁部は外反す る。全体に粗雑なつくりで歪む。 内外面とも横方向の器面調整。		
2081 69	弥生土器 鉢	中位1/2欠損 口 12.7cm 底 6.2cm 高 6.7cm	R-52G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・砂粒を 含む。 ②良好。 ③にぶい褐7.5YR 6/3	底部から直線状に外方にひらき、 口縁部は大きく外反する。外面 体部下半は刷毛目整形。内外面 口縁部は横なで。内面体部は横 方向の器面調整。		
2086 69	弥生土器 鉢	1/3残存 口 10.1cm 底 4.8cm 高 4.2cm	R-53G No40	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・石英砂 を含む。 ②やや緩い。 ③灰黄2.5Y7/2 底部黒2.5Y2/1	底部から口縁部に大きくひらく。 口縁部付近で外反。内外面とも 器面荒れ。一部に器面の整形痕 が残る。		
2097	弥生土器 高杯	脚部のみ残存 底 6.2cm 高 5.6cm 残	T-52G No17	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・石英砂 を含む。 ②良好。 ③赤10R4/6	脚部は裾部に向かい大きくひら く。端部は平担。外面は縦方向 器面調整。内面は斜方向の器面 調整。		外面赤色塗 彩
2203 69	弥生土器 高杯	脚部のみ残存 底 9.5cm 高 7.4cm	S-51G	①砂質土であり、 小礫を含む。 ②良好。 ③にぶい37.5YR 5/3 暗赤10R3/4	脚部は外反して裾部にいたる。 外面は器面荒れがはげしく塗 彩がわずかに残る。内面は横方 向の器面調整。		

包含層B出土遺物観察表《弥生土器》 図109

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
2106 69	弥生土器 ミニチュ ア	ほぼ完形 口 2.8cm 底 2.6cm 高 4.8cm	U-55G	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	手捏の土器であり器面は歪んで いる。口縁部は横なで。底部付 近は篋押え。底部は外面で僅か に上げ底状を呈し塗彩。		
2125	弥生土器 ミニチュ ア 壺	頸部破片 高 2.0cm残	V-56G	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②緩い。 ③灰黄褐10YR6/2	杯部と脚部の接合部の破片。外 面は縦方向の器面調整。全体に 器面荒れ。脚部内面をのぞき塗 彩。		
2116 69	弥生土器 ミニチュ ア 高杯	約1/3欠損 高 4.0cm	V-55G	①夾雑鉱物粒・小 礫を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	楕円形で筒形を呈す。底部は僅 かにひろい。器内は底部付近が 肥厚で口縁部付近は薄い。表面 に塗彩が僅かにのこる。	胴部には篋状工具により平行 沈線文を3本施文後、斜格子 目文を施文している。	

包含層B出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図110

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備 考
2207	土師器 壺	肩部破片 高 6.9cm残	S-53G No207・210・ 213	①細砂・砂粒を含む。 ②軟質。 ③浅黄橙7.5YR8/4	球形胴部になると思われる大形の壺の肩部破片。頸部 から上位は、貼付された部分が剥落しているため、形 状は不明である。体部外面縦方向刷毛目整形。	
2092	土師器 壺	口縁部～頸部 1/2残存 口 15.8cm 高 6.4cm	S-53G No212	①細砂・小礫を含む。 赤色鉱物粒が目立つ。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR6/4	ほぼ直立する。頸部に大きく外反する口縁部がつく壺。 口縁部外面は、幅広の面とりがされて、口唇部はつ まみ上げられている。口縁部内外横なで。	
2118	土師器 甕	口縁部破片 口 (15.5cm) 高 5.6cm残	U-55G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	短い外反する口縁がつく、甕形土器。口縁部外面下位 斜方向刷毛目 (10本/1cm) 口縁部内外面横なで。	
2123	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (16.0cm) 高 4.7cm残	V-56G No14	①砂粒・微細砂含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部中段は外反する。肩部外面斜方向刷毛目 (6本 /1cm) 整形。頸部外面に調整の沈線が入る。内面横 方向篋削後、縦方向指なで。	
2101	土師器 S字甕	口縁部～体部破 片	T-54G	①微細砂・細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	口縁部端部内面は、面とりが付されている。肩部外面 縦方向刷毛目 (5本/1cm) 内面指なで。口縁部内外 面横なで。	
2096	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (20.1cm) 高 4.4cm残	S-56G	①砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③明褐灰7.5YR7/1	口縁部内面端部にゆるやかな面とりをする。体部外面 斜方向刷毛目 (5本/1cm) 後頸部調整しているがや や下がった位置に施されている。内面横方向篋なで後 縦方向指なで。	
2093 69	土師器 S字甕	口縁部～台部上 位1/2残存 口 (10.4cm) 高 14.5cm残	S-54G	①細砂を含む。 ②硬質。 ③灰白10YR7/1	小形のS字甕。口縁部の屈曲はゆるやかである。外面 羽状の斜刷毛目 (6本/1cm)。内面なで調整。	
2084	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (15.6cm) 高 3.7cm残	R-52G No63	①微細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	口縁部中段は外反する。肩部外面縦方向刷毛目 (6本 /1cm)。内面横方向篋なで。	
2082	土師器 S字甕	脚部1/3残存 底 (10.5) 高 7.2cm残	R-52G No64	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR6/4	大形S字甕の脚部。外面斜刷毛目 (6本/1cm)。内面 篋なで後指なで。	
2095	土師器 ミニチュ ア	脚部破片 底 5.3cm 高 4.5cm残	S-56G	①砂粒と少量の小礫を 多く含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR6/3 下部黒2.5GY2/1	ミニチュアの台付甕。脚部破片。体部外面縦方向篋削 り。内面篋なで、脚部内外面指押さえ。	
2122	土師器 高杯	口縁部～杯部下 位1/4残存 口 (12.8cm) 高 6.0cm残	V-56G No19	①砂粒を含むが、精選 された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部が内湾する。高杯の杯部。杯部下位は稜がつ く。内外面とも丁寧な斜方向篋磨きが施されている。	

包含層B出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図110

番号 PL	器種	残存 量 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2112 69	土師器 高杯	脚部のみ残存 底 16.8cm 高 6.5cm残	U-54G	①細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	裾部が大きく開く高杯の脚部。上半は細く短い。外面上半部縦方向磨き。下半横方向磨き。内面下半横方向磨き。内外面とも磨耗が著しく整形単位は不明。	
2076 69	土師器 高杯	脚部のみ残存 底 (7.3cm) 高 5.6cm残	V-56G No10	①微細砂・砂粒を含むが、精選された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	ラッパ状に開く小さな脚部に丸い杯部が付される。外面、縦方向磨き。内面横方向磨き。	整形技法は丁寧であるが台付臺の可能性もある。
2215 69	土師器 器台	上部から底部 1/3 口 (8.2cm) 底 (10.4cm) 高 9.9cm	Q-53G No26	①細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/3	やや小さな器受部に、下位が内湾しながら開く脚部をもつ器台。脚部中に1つの円孔が残存する。脚部外面上位縦磨き、下位斜磨き。脚内面斜方向刷毛目(7本/1cm)後磨き。器受部外面斜磨き。内面などで調整。	
2100	土師器 小形器台	接合部のみ残存 高 4.7cm残	T-54G	①細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR6/6	ラッパ状に開く脚部の破片。脚部外面縦方向磨き。内面横方向磨き。	
2121	土師器 罎	口縁部～体部 1/5残存 口 (12.3cm) 高 7.2cm	V-56G	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR6/3	頸部のくびれのゆるやかな罎。磨耗が著しく、整形単位は不明であるが、内外面などで調整。	
2104 69	土師器 罎	口縁部欠損 頸 5.2cm 高 9.7cm残	U-53G No1	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR7/3	頸部がしまり、やや下膨れの算盤玉形を呈する。外面は磨耗が激しく整形単位は不明。内面はなどで調整。	
2109 69	土師器 鉢	口縁部～体部上 位1/3残存 口 (9.5cm) 高 4.5cm残	U-54G No4	①微細砂を含むが、精選された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	短く外反する。口縁部がつく鉢形土器。体部内外面などで調整。口縁部内外面横などで調整。	
2111 69	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 14.8cm 高 7.7cm	U-54G	①砂粒・細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	口縁端部が内湾する。内斜口縁の杯形土器。体部は深めで、丸底である。体部から底部外面磨削り。内面丁寧などで調整。	
2090 69	土師器 杯	口縁部～底部下 位1/4残存 口 (14.8cm) 高 6.2cm残	S-53G	①細砂・砂粒を含む。赤色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③橙2.5YR7/6	口縁端部が小さく内湾する。内斜口縁の杯。内外面とも磨耗が著しく整形技法の単位は判然としないが、内外面とも縦方向の磨きが施されている。	
2105 69	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (13.6cm) 高 5.8cm残	U-55G	①砂粒を多量に含む。 ②軟質。 ③橙2.5YR6/8	短く外反する口縁部がつく内斜口縁の杯。丸底。体部外面磨削り。内面丁寧などで調整。口縁部内外面横などで調整。	
2110 69	土師器 杯	口縁部破片 口 (5.75cm) 高 4.9cm残	U-54G	①微細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁端部が直立する、深めの杯。体部内外面磨耗が著しく、整形単位は不明。口縁部内外面横などで調整。	

包含層B出土遺物観察表〈石器〉 図111

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S688 70	打製石斧	13.35・7.0 2.15	黒色頁岩 180.84	O-50G	撥形。 刃部に使用痕が認められる。	
S687 70	打製石斧	8.65・4.8 1.3	細粒安山岩 73.59	S-54G	頭部を欠損しているが、撥形と考えられる。 刃部に使用痕が認められる。礫面残存。	
S693 70	打製石鏃	2.25・1.6 0.4	黒色頁岩 1.17	S-53G	無茎で、基部寄りの両側縁にえぐりが認められる。	先端部の欠損は調査時のものか。
S707 70	ペンダント	3.9・1.95 5.5	蛇紋岩 6.43	O-52G	器種は不明である。 穿孔は両快だが、失敗した穿孔が認められる。	
S695 70	石鏃未製品	5.3・2.6 0.4	珪質準片岩 6.51	T-52G	粗削の段階である。	
S694 70	スクレーパー	3.5・2.5 0.6	黒色頁岩 6.26	T-52G	縦長剥片素材 両側縁、特に裏面に顕著な加工痕が認められる。	

6. 遺構外の出土遺物

包含層B出土遺物観察表(石器) 図111・112

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S705 70	砥石	8.0・7.3 6.1	二ッ岳軽石 159	S-52G	四面に線状を残す。	
S702 70	スクレー パー	3.2・5.2 1.0	黒色頁岩 15.42	O-51G	不定形剥片素材、折断 両側に加工痕と微細な使用痕を残す。	
S706 71	敲石	13.55・5.1 5.0	粗粒安山岩 490	S-52G	一端に僅かな敲打痕を残す。	
S714 70	台石	28.9・25.1 6.8	石英閃緑岩 8000	T-53G	一面のほぼ全域に磨り痕が認められる。	
S686 71	敲石	12.75・6.2 3.3	粗粒安山岩 445	S-53G	両端に顕著に敲打痕を残す。	
S697 71	敲石	8.9・4.7 2.6	粗粒安山岩 162.78	O-52G	一端及び一面に敲打痕を残す。	
S701 70	凹み石	18.6・11.4 6.8	粗粒安山岩 1535	R-50G	表面に多数のくぼみ痕が認められる。	
S698 71	敲石	16.3・7.9 4.6	粗粒安山岩 840	R-52G	両端に敲打痕を残す。	
S685 71	敲石	11.9・9.2 7.45	粗粒安山岩 973.3	S-54G	一端に敲打痕を残す。	
S700 70	凹み石	7.9・8.4 5.2	粗粒安山岩 335	R-52G	表面にくぼみが認められる。	
S699 71	凹み石	9.9・9.25 3.0	粗粒安山岩 440	R-51G	表裏両面のほぼ中央にくぼみ痕が認められる。	

包含層C出土遺物観察表(縄文土器) 図113

番号 PL	器種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形・文様の特徴	備 考
2300 71	縄文土器 浅鉢	体部破片	2A-64G	①A型 ②良好 ③にぶい黄橙 10YR7/2	器面の風化により、文様構成が不明瞭であるが、口縁部に隆帯による入り組み状の楕円区画文を施す。縄文は体部は不明であるが、口縁部はR Lの横位施文。	加曾利E 3式
2304 71	縄文土器 深鉢	体部破片	2B-64G	①A型 ②良好 ③浅黄2.5YR7/3	半截竹管工具による3本1単位の懸垂文を施し、区画内の縄文を磨り消す。縄文はR Lの縦位施文。内面に煤炭化合物が少量付着。	加曾利E 3式
2305 71	縄文土器 深鉢	口縁部破片	2B-65G	①A型 ②良好 ③橙5YR6/6	口縁部に横位、以下に逆U字状のモチーフを微隆起帯により施す。区画内にL R縄文を充填し、微隆起帯に沿った部位を半截竹管工具でナデ消す。波状口縁。内面横ナデ。	加曾利E 4式
2302 71	縄文土器 壺形	体部破片	2B-64G	①A型 ②良好 ③黄灰2.5Y6/1	口縁部は無文で、頸部に隆帯をめぐらせ、以下に縦位の楕円状区画文を施す。内面は横位ヘラ研磨。外面は風化により荒れている。	加曾利E 3式
2301 71	縄文土器 深鉢	体部破片	2A-64G	①A型 ②良好 ③にぶい黄橙 10YR6/3	半截竹管による対向U字状文と1本単位の懸垂文を交互に施文する。区画内にはR L縄文を充填する。内外面ともに風化によりかなり荒れている。	加曾利E 3式
2303 71	縄文土器 深鉢	口縁部~底部 口 13.8cm 底 4.8cm 高 17.8cm	2B-64G	①D型 ②良好 ③褐灰7.5YR4/1	4単位の波状口縁を有し、波頂部に多截管状工具による2~3本の刻み目を施す。また各波底部に瘤状の小突起を付し、それを連結するように同工具による横位沈線文をめぐらせる。内外面とも器面風化により不明瞭であるが、外面縦位、内面横位の研磨が認められる。	曾谷式

グリッド出土遺物観察表《縄文時代・土器》 図114

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形・文様の特徴	備考
714 72	縄文土器 深鉢	体部破片	表面採集	①B型 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	隆帯による大柄な渦巻状の横S字状文が、胴上・下半の各々に2単位に施される。区画内外にはLR縄文が充填され、隆帯に沿って加えられる沈線により、ナデ消される。4単位の波状口縁で、屈曲の強いキャリバー形を呈する。内外面ともに風化による荒れ。	加曽利E3式
2288 72	縄文土器 深鉢	体部破片	162住	①A型 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/2 橙2.5YR6/6	2本1単位の隆帯により、大柄な渦巻文を施す。内外面ともに被熱による風化。	加曽利E3式
2283 72	縄文土器 浅鉢	口縁部破片	154住	①A型 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 6/4	半截竹管による逆U字状懸垂文を施した後、その区画外に口縁部は横位に、それ以下は縦位にLR縄文を施す。内面の一部に煤状炭化物付着。内外面は風化による荒れ。	加曽利E3式
2287 72	縄文土器 深鉢	体部破片	165住	①A型 ②良好。 ③浅黄2.5Y7/3	口縁部に隆帯により楕円状区画文を施す。縄文はRLの横位施文。内面は横位のヘラ研磨。	加曽利E3式
2290 72	縄文土器 深鉢	体部破片	77土坑	①A型 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	波状沈線文と逆U字状文とが交互に入り組み状となるモチーフを施す。縄文はRLの縦位施文で、区画文の外側は磨り消される。屈曲の強いキャリバー形。内外面は風化による荒れ。	加曽利E3式
2284 72	縄文土器 深鉢	体部破片	154住	①A型 ②良好。 ③浅黄2.5Y7/3	半截竹管による平行懸垂文を施し、区画内の縄文を磨り消す。縄文はRLの縦位施文。内外面ともに風化による荒れ。	加曽利E3式
2289 72	縄文土器 鉢	体部破片	表面採集	①D型 ②良好。 ③にぶい橙7.5Y 6/4	細沈線により幾可学文状の区画文を描き、区画内に細い原体のLR縄文を充填する。内外面ともに風化による荒れ。	堀之内2式
2282 72	縄文土器 鉢	体部破片	表面採集	①E型 ②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	棒状工具の横位沈線文と、同工具を束ね持った縦位波状文を施す。縄文はLRの縦位施文。	堀之内2式
2299	縄文土器 深鉢	口縁部破片	Z-59G	①E型 ②良好。 ③明褐灰7.5YR 7/2	口縁部に横位隆帯を貼付し、口唇部との間に円形竹管状工具による窩文を施す。胴部は無文。内面は横位のヘラ研磨。	堀之内2式
2285	縄文土器 深鉢	体部破片	北東部 床面上6cm	①D型 ②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	細沈線による横位の区画文が描かれ、内部にLR縄文が充填される。	加曽利B式
2295 72	縄文土器 鉢	体部破片	M-39G	①D型 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	棒状工具の細沈線を横位に施し、細い原体のLR縄文を横位に施文する。内面は被熱により剥落。	加曽利B式
2294 72	縄文土器 浅鉢?	口縁部破片	R-51G	①D型 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	外面は風化により不明瞭であるが、平行状の沈線区画文と縦位の区切り沈線が認められる。区画内にLR縄文が充填される。内面の口縁部には5~6条の平行沈線文と棒状工具による刻目文が施される。	加曽利B1式
2307 72	縄文土器 鉢	口縁部破片	3号周溝墓	①D型 ②良好 ③にぶい褐7.5Y 5/3	内外面ともに風化により文様は不明瞭であるが、口縁部に3本単位の平行沈線文が認められる。	加曽利B1式
2291 72	縄文土器 深鉢	口縁部破片	2号周溝墓	①D型 ②良好。 ③暗灰黄2.5Y5/2	口縁部に平行状の沈線文がめぐり、口唇部との間に()状のモチーフが加えられる。外面は良好に研磨され、内面は風化による荒れ。	加曽利B2式

グリッド出土遺物観察表《縄文時代・土器》 図114

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形・文様の 特徴	備考
2298 72	縄文土器 深鉢	口縁部破片	W-56G	①D型 ②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	内外面ともに風化による器面荒れが著しく、文様は不明瞭である。口唇下には内外面ともに横位の沈線文がめぐる。	加曾利B式
2306 72	縄文土器 鉢	体部破片	M-26G	①D型 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR 6/4	2-3本1単位の横位沈線文が複数段に施され、上段に瘤状の小突起が付される。縄文の施文も認められるが、器面の風化が著しく、原体の種類は不明。	曾谷式?
2296 72	縄文土器 鉢	体部破片	M-39G	①D型 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR6/3	横位の沈線文が複数段に施され、上段に瘤状の小突起が付される。沈線文間には2種類の縄文が充填されるが、一つはLRで他は不明。	曾谷式?
2292 72	縄文土器 深鉢	体部破片	2号周溝墓	①D型 ②良好。 ③灰黄褐10YR5/2	棒状工具による横位沈線文を施し、中途に渦巻状の区切りを加える。内外面は風化による若干の荒れ。	加曾利B2式
2286 72	縄文土器 深鉢	口縁部破片	172住	①C型 ②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	突起部の両肩部に各2ヶ所、正面中央部に1ヶ所それぞれ窩文を付す。中央部の窩文は貫通孔であり、この直下に()状の沈線文を施す。	加曾利B2式
2297 72	縄文土器 深鉢	口縁部破片	153住	①D型 ②良好。 ③黄灰2.5Y5/1	半截竹管工具により幾可学文様のモチーフが描かれる。内外面は風化による若干の荒れ。	加曾利B式
2293 72	縄文土器 深鉢	口縁部破片	R-50G	①D型 ②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	粗製の深鉢形土器で、無文となる。内外面ともに風化による荒れ。	後期

グリッド出土遺物観察表《弥生時代中期以前・土器》 図115

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2128 72	弥生土器 壺	胴部破片	W-57G 埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫・輝石を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	胴部は丸みをもつ、内外面とも僅かに器面荒れ。	地文に縄文を施文後棒状工具により弧状の沈線文。	
2102 72	弥生土器 壺	胴部破片	T-55G 埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫・輝石を 含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR 7/2	胴部は丸みをもつ。内外面とも器面荒れ。	地文に縄文を施文後棒状工具により弧状の沈線文。	
2107 72	弥生土器	頸-胴部破片	U-53G	①白色 夾雑 鉱物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③灰白2.5Y8/2	直線的な胴部上半で、やや立ちぎみの頸部である。内面は器面荒れ。	地文に縄文を施文後棒状工具により弧状の沈線文。頸部外面に縦位の刻み目。	外面の1部に赤色塗彩か?
2058 72	弥生土器 壺	胴上部破片	G-19G 埋没土中	①白色・夾雑鉱物 粒・砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	胴部上半部は頸部に向かい内向する。外面は横なで。内面は器面荒れ。	胴部上半部には烈点文部分が僅かにたかく、上下に棒状工具による平行沈線文がある。	
2094 72	弥生土器 壺	胴上半破片	S-55G 埋没土中	①白色・黒色・夾 雑 鉱物 粒 を 含 む。 ②やや緩い。 ③褐灰5YR4/1	僅かに外反する。外面は横方向器面調整。内面は器面荒れ。	棒状工具により平行沈線文を中心とした沈線文がある。	

グリッド出土遺物観察表《弥生時代中期後半～後期・土器》 図116

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2174 72	弥生土器 壺	口縁部破片	2 A-65 G	①微細砂であり、 白色・夾雑鉱物 粒・輝石を含む。 ②緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部は大きく外反する。口縁 端部は受け口状を呈す。内外面 とも器面荒れ。僅かに横方向の 器面調整。	口縁部外面には櫛描波状文が ある。	
2181 72	弥生土器 甕	口縁部破片	2 B-63 G	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②緩い。 ③灰白10YR8/2	口縁部は僅かに厚くつくる。内 面は横方向の器面調整。外面は 器面荒れ。	外面口縁部には捺糸痕が残る。	
2246 72	弥生土器 甕	口縁部破片	A・B-1～ 6 G	①砂質土である石 英砂と小礫を含む。 ②緩い。 ③黒褐10YR3/2	口縁部は受け口状を呈す。内外 面とも器面荒れがはげしい。	口縁部には棒状工具により鋸 歯文がある。口唇部には縄文 と刻み目がある。	
2248 72	弥生土器 壺形土器	口縁部破片	A・B-1～ 6 G	①砂質土であり白 色・夾雑鉱物粒・ 輝石を含む。 ②良好。 ③明褐灰7.5YR 7/2	口縁部は大きく外反する。口縁 端部は僅かにたつ。	口縁部表面は櫛歯状の刻み 目がある。	
2196 72	弥生土器 甕	口縁部～頸部 破片	2 C-65 G	①砂質土であり白 色・夾雑鉱物粒・ 輝石を含む。 ②やや緩い。 ③浅黄橙7.5YR 8/3	口縁部は外反し、口縁端部は内 湾する。外面は縦・内面は横方 向の器面調整。	口縁部には右回りの簾状文、 口縁端部には櫛描波状文。	
2148 72	弥生土器 甕	口縁部破片	Y-62 G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR4/2	口縁部は外反し、内面は横方向 の器面調整。内外面とも僅かに 器面荒れ。	口縁部から頸部にかけて櫛 描波状文で充填。	
2197 72	弥生土器 甕	口縁部～体部 破片	2 D-65 G	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②やや緩い。 ③灰褐7.5YR5/2	胴部は丸みをもつ。頸部はくび れる。口縁部はわずかに開く。 内面は横方向の器面調整。内外 面とも器面荒れ。	頸部には右回りの簾状文。口 縁部と胴部上半には櫛描波状 文。胴部中位にはボタン状貼 付文。	
2147 72	弥生土器 小形甕	口縁部破片	Y-62 G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③赤褐10R5/4	胴部は丸みをもつ。頸部はくび れる。口縁部は外反。内面は横 方向の器面調整。内外面とも横 方向の器面調整。	外面は櫛描波状文。	
2186 72	弥生土器 甕	口縁部破片	2 B-65 G	①白色鉱物粒・輝 石を含む。 ②緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	頸部は外反する。口縁部は内湾 しながらひらく。内外面とも器 面荒れ。	頸部は1単位9条の櫛状工具 による2連止右回りの簾状文。 口縁部から胴部上半には櫛 描波状文。口縁部端部付近には 円形刺突文をうったボタン状 貼付文がある。	
2176 72	弥生土器 小形甕	口縁部破片	2 B-65 G	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙5YR 7/3	頸部は僅かにくびれる。頸部は わずかに外反する。内外面とも 器面荒れしているが横方向の器 面調整。	頸部には2連止右回りの簾状 文。口唇部には円形刺突文の あるボタン状貼付文がある。	
2190 72	弥生土器 甕	口縁部破片	2 B-64 G	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②緩い。 ③灰白10YR8/1	口縁部は僅かに開く。内外面と も横方向の器面調整。	口縁部には地文に縄文を施文 後棒状工具により鋸歯文。	

グリッド出土遺物観察表《弥生時代中期後半～後期・土器》 図116

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2103	弥生土器 甕	口縁部破片	T-56G	①白色・黒色・夾 雑鈹物粒・輝石を 含む。 ②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	口縁部は外反。口縁部は折り返 しである。内面は横なで。	外反口縁部と頸部には櫛描波 状文。	
2164	弥生土器 甕	口縁部破片	2A-61G	①白色鈹物粒を含 む。 ②やや緩い。 ③黒10YR1.7/1	口縁部は僅かに外反。内面は横 なで。	地文に縄文。頸部には烈点文。 口唇部は縄文押捺。	
2247	弥生土器 甕	体部破片	A・B-1～ 6G	①白色鈹物粒・小 礫を含む。 ②やや緩い。 ③暗赤褐5YR3/2	僅かに内湾する。	器面には地文に縄文を施文後、 3条の平行沈線文と烈点文が ある。	
2180	弥生土器 甕	体部破片	2B-63G	①白色・黒色鈹物 粒・輝石を含む。 ②やや緩い。 ③灰白2.5Y7/1	裏面に段をもつ。内外面とも器 面荒れ。	地文に縄文、段の部分に烈点 文。	
2159 72	弥生土器 壺	肩部破片	Z-63G	①黒色・夾雑鈹物 粒を含む。 ②普通。 ③灰白2.5YR8/2	外反しながらくびれる。外面は 斜方向の器面調整。内面は器面 荒れ。	篋状工具による鋸歯文の中に 斜向沈線文により充填する。	
2177 72	弥生土器 壺	頸部破片	2A-62G	①白色・黒色・夾 雑鈹物粒を含む。 ②やや緩い。 ③浅黄橙7.5YR 8/4	頸部はくびれる。内外面とも横 方向の器面調整。	頸部付近には円形竹管文を施 文。胴部寄りに塗彩。	
2166 72	弥生土器 壺	肩部破片	2A-62G	①白色・夾雑鈹物 粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	肩部は僅かに内湾している。内 面は横なで。	櫛描波状文を充填後ボタン状 貼付文、ボタン状貼付文には 12本の縦刻み目を横線文が切 る。文様を施文。	
2173 72	弥生土器 甕	頸部破片	2A-65G	①白色・夾雑鈹物 粒・小礫を含む。 ②緩い。 ③灰黄褐10YR4/2	胴部上半は僅かに内湾。内面は 横方向の器面調整。	頸部には右回りの等間隔止簾 状文。胴部上半は櫛描波状文 が充填。	
2175 72	弥生土器 壺	体部破片	2B-65G	①白色・黒色・夾 雑鈹物粒・雲母・ 輝石を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙5YR 7/4	胴部上半は丸みをもつ。内面は 横方向の器面調整。内外面とも 器面荒れ。	頸部付近には2連止右回りの 簾状文。胴部上半部分に2段 分の櫛描波状文。	
2251 72	弥生土器 甕	体部破片	A・B-1～ 6G	①白色・黒色・夾 雑鈹物粒を含む。 ②良好。 ③黒褐7.5YR3/1	胴部は丸みをもつ。内面は横方 向の器面調整。	櫛状工具による羽状文が残る。	
2245 72	弥生土器	頸部破片	A・B-1～ 6G	①白色・黒色・夾 雑鈹物粒を含む。 ②緩い。 ③灰褐7.5YR6/2	胴部は僅かに内湾する。頸部は 僅かにくびれ、口縁部に向いひ らきはじめる。内面は横方向の 器面調整。内外面とも器面荒れ。	櫛描波状文を充填したのち、 櫛状工具により垂下文が切る。	

グリッド出土遺物観察表《弥生時代中期後半～後期・土器》 図116・117

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2179 72	弥生土器 甕	体部破片	2 B-63 G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	胴部は僅かに内湾する。	櫛描波状文を充填したのち、 櫛状工具により垂下文が切る。	
2187 72	弥生土器 壺	体部破片	2 B-64 G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・雲母を 含む。 ②やや緩い。 ③灰白10YR8/2	僅かに丸みをもつ。	棒状工具による弧状沈線文4 本があり、1つおきに縄文を 施文。	
2279 72	弥生土器 壺	体部破片	2 B-62 G	①砂質土である。 ②やや緩い。 ③灰白2.5Y8/2	僅かに丸みをもつ。	篋状工具による渦巻文と思わ れる一部がある。	
2249 72	弥生土器 壺	体部破片	A・B-1～ 6 G	①白色・黒色・輝 石を含む。 ②緩い。 ③にぶい赤褐5YR 5/3	僅かに丸みをもつ。内外面とも 器面荒れ。	棒状工具による沈線文が3状 と縄文。	
2250 72	弥生土器 甕	体部破片	A・B-1～ 6 G	①砂粒が多量に混 入している。 ②緩い。 ③赤褐5YR4/6	僅かに丸みをもつ。内外面とも 器面荒れ。	棒状工具による沈線文がある。	
2169 72	弥生土器 壺	口縁部～頸部 1/2残存 口 (4.8cm) 高 4.6cm残	2 A-62 G	①微細砂であり、 黒色・夾雑鉱物粒 を含む。 ②良好。 ③灰白5Y7/2	頸部は大きくくびれ、口縁部は 外反する。外面は縦方向の器面 調整、内面は横なで。		
2204 73	弥生土器 甕	口縁部～頸部 1/2残存 口 22.5cm 高 11.4cm残	S-50 G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR6/2	頸部は大きくくびれ、口縁部は 外反する。外面は頸部から口縁 部に向けて縦方向の器面調整を 行っており、工具幅は2cm程で ある。口縁部は横なで、内面は 横方向の器面調整。	頸部には1単位11条の2連止 右回り簾状文。下位にひきつ づき櫛描波状文がある。	
2171	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (16.5cm) 高 8.1cm残	2 B-63 G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	頸部は大きくくびれ、口縁部は 外反し、口縁部上位で僅かに内 湾する。外面頸部付近は縦方向 の器面調整、外面口縁部と内面 は横方向の器面調整。		
2222	弥生土器 甕	口縁部1/2残存 口 (12.7cm) 高 5.0cm残	2 B-62 G	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂・輝石 を含む。 ②やや緩い。 ③灰黄2.5Y7/2	頸部はくびれる。口縁部は大き く外反する。口縁部は内外面と も横なで。器面荒れしている。		
2216 73	弥生土器 甕	頸部破片 高 6.3cm残	U-57 G	①白色・夾雑鉱物 粒・雲母を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 6/4	胴部は丸みをもつ。頸部は僅か にくびれる。口縁部は外反する。 外面口縁部は縦方向の器面調整 痕が僅かに残る。内面は横方向 の器面調整。	頸部には1単位7条の2連止 右回りの簾状文施文後、直下 の胴部上位に櫛描波状文が2 段確認できる。	
2129 73	弥生土器 甕	頸部～底部1/2 残存 底 6.0cm 高 13.0cm残	W-61 G	①白色・夾雑鉱物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	胴部は丸みをもつ。頸部は大き くくびれ、口縁部に向い外反す る。外面胴部下部は縦方向の篋 磨き。内面は横方向の器面調整。 内外面とも器面荒れしている。	頸部には2連止の右回りの簾 状文。肩部には、2段の櫛描 波状文があり、胴部の中位の 最大幅部分に塗彩がある。	

6. 遺構外の出土遺物

グリッド出土遺物観察表《弥生時代中期後半～後期・土器》 図117

番号 PL	器種	残存 法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2167 72	弥生土器 甕	体部～底部破 片 底 (8.0cm) 高 17.4cm残	2 A-62 G	①白色・夾雑鉱物 粒・石英砂を含む。 ②やや緩い。 ③灰黄褐10YR4/2	底部から胴部に向い丸みをもち ながらたちあがる。内外面とも 斜方向の器面調整。	胴部には櫛状工具による羽状 文。	
2219 73	弥生土器 壺	頸部～体部下 位 高 41.3cm	W-55 G	①砂質土であり、 白色・夾雑鉱物粒 を含む。 ②良好。 ③にぶい褐7.5YR 6/3	胴部は大きく張る。頸部はくび れる。外面は多方向に器面調整。 内面は横方向の器面調整。	頸部には櫛描波状文。	
2168	弥生土器 甕	底部破片 底 (9.6cm) 高 3.0cm残	2 A-62 G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	底部付近は斜方向の器面調整。 内面は横方向の器面調整。	外面底面は木葉痕がある。	
2160	弥生土器 高杯	脚部のみ残 存 底 (14.5cm) 高 9.1cm残	Z-62 G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②良好。 ③暗赤褐2.5YR 3/6	脚部は裾部に向い僅かに内湾す るものほは直線状を呈す。端 部は平坦、内面は横方向の器面 調整。外面は裾付近は横なで。 他は鈍磨き。外面は塗彩。		
2114 72	弥生土器 高杯?	杯部下位～脚 部残存 底 3.6cm 高 4.0cm残	U-59 G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰7.5YR 7/2	ミニチュア土器と考えられる。 脚部は直線状で端部は平坦。外 面は縦方向の器面調整。脚部内 面は調整痕が残る。		
2221 72	弥生土器 高杯	脚部残存 底 3.7cm 高 3.1cm残	Z-60 G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄2.5Y 6/3	脚部は大きく裾部で広く外面は 縦方向の器面調整。内面は横方 向の器面調整。端部は平坦。		手捏・ミニ チュア
2124 72	弥生土器 高杯	脚部のみ残存 底 8.1cm 高 7.2cm残	X-59 G	①白色・夾雑鉱物 粒・輝石を含む。 ②緩い。 ③にぶい褐7.5YR 6/3	杯部との境から裾部にかけて直 線状にひらく。端部は平坦。外 面には縦方向の鈍磨き。内外面 とも器面荒れ。		
2059	弥生土器 ミニチュ ア	口縁部一部欠 損 底 3.1cm 高 2.1cm	K・L-33・ 34 G	①白色・黒色・夾 雑鉱物粒・小礫を 含む。 ②やや緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	底部は丸みを持つ。底部外面は 僅かに凹む。	外面は縦方向に刷毛目。内面 は鈍押し痕がある。	
2276 72	弥生土器 ミニチュ ア手捏	ほぼ完形 口 3.7cm 底 3.5cm 高 2.2cm	2 A-63 G	①白色・夾雑鉱物 粒・小礫を含む。 ②緩い。 ③にぶい黄橙 10YR7/2	底面は平坦。内面には鈍押しえ がつく。内外面とも器面荒れ。		
2143 72	弥生土器 鉢	底部破片 底 8.0 × 6.0cm 高 3.0cm残	Y-60 G	①白色鉱物粒・石 英砂を含む。 ②良好。 ③浅黄2.5Y7/3	底部は小判形を呈す。底部短弧 面側片方の胴部最下部が他に比 して外反が大きい。鈍磨き痕が 残る。		

グリッド出土遺物観察表《弥生時代中期後半～後期・土器》 図118

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2139	弥生土器 土製円盤	ほぼ完形 長 4.6cm 巾 4.0cm 厚 0.6cm	X-58G	①白色・黒色・夾雑 鉾物粒を含む。 ②緩い。 ③褐灰10YR5/1	転用材。周辺をわる。円形に近い。	刷毛目が表面に残る。	
2151 73	弥生土器 紡錘車	1/2残存 長 4.0cm 巾 (2.2cm) 厚 0.8cm 孔 1.0cm	Y-63G	①白色・夾雑鉾物 粒・小礫を含む。 ②やや緩い。 ③橙7.5YR7/6	円形と推測できる。中心部に円形孔がある。断面形では中心部にある孔付近が厚く、外郭部がうすくなる。		
2185 73	弥生土器 土製円盤	完形 長 3.4cm 巾 3.3cm 厚 0.7cm	2B-64G	①砂質土であり、 石英砂・黒色鉾物 粒を含む。 ②やや緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/4	土器からの転用。外形をこまかく打ち割って円形状にしている。表裏面とも器面荒れ。		
2309	弥生土器 紡錘車	1/2残存 長 6.5cm 残 厚 0.9cm	X-60G	①白色・夾雑鉾物 粒を含む。 ②緩い。 ③にぶい橙7.5YR 7/3	破片であり、中心孔部分は不明。断面で僅かにドーム状になる。一面の一部に塗彩。		
2073 73	弥生土器 土製円盤	完形 長 4.0cm 厚 0.85cm	M-32G	①白色鉾物粒・輝 石を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR6/2	土器からの転用である。外郭部分は打ちかかっている。		
2274 73	弥生土器 紡錘車	1/2残存 長 5.3cm 巾 (2.7cm) 厚 1.9cm	W-58G	①白色鉾物粒・石 英砂を含む。 ②やや緩い。 ③灰白2.5Y8/2	円形を呈すと考えられる。中心より僅かにすれて円形孔直径約1cmがある。		
2136 73	弥生土器 土製勾玉	完形 長 3.4cm 厚 1.1cm	X-63G	①白色・夾雑鉾物 粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙 10YR7/3	手捏である。円柱形の粘土ひもの両端をまるめた痕がある。円形孔の表面には粘土が僅かにもり上がっている。		

グリッド出土遺物観察表《古墳時代前期・土器》 図119

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2133 73	土師器 台付甕	口縁部破片	X-57G	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	口縁端部があまり外反しないS字状を呈する。内外面はよくなでられており、口縁部外面中位には刻み目がつけられている。	
2141 73	土師器 S字甕	口縁部破片	Y-58G	①砂粒を多量に含む。 ②軟質。 ③黒褐7.5YR3/2	口縁部上端に面とりがある。内外面なで。口縁部外面中位には、刻み目が付されている。	
2188 73	土師器 甕	頸部～体部破片	2B-64G	①微細砂・砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰白10YR8/1	ややくびれた頸部から丸くなる体部の破片。外面は斜横方向の叩き目。内面は横方向なで調整。	2194と同一個体
2194 73	土師器 甕	体部破片	2B-64G	①微細砂・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰褐7.5YR6/2	やや丸い体部を呈すると考えられる甕形土器の体部。外面には横方向の平行叩き目。内面横方向なで。	
2150 73	土師器 S字甕	口縁部破片	Y-63G	①微細砂・雲母を多量 に含む。 ②硬質。 ③オリーブ黒7.5Y3/1	口縁部中段はほぼ直立し、端部は外反する。口縁端部内面には面とりがある。体部外面縦方向刷毛目(4本/1cm) 頸部内面にも刷毛目整形が残る。	

グリッド出土遺物観察表《古墳時代前期・土器》 図119・120

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2158 73	土師器 高杯	脚部破片	Z-63G	①細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	裾部が急に開がる高杯の脚部破片。外面に2条の沈線によって区切られた文様帯の間に沈線による山形文が付されている。内面はなで調整。	
2134 73	土師器 高杯	脚部破片	X-57G	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③暗灰N3/0	裾部の大きく開く高杯の脚部破片。脚部外面端部に面とりをする。外面には、二条の沈線で区切られた文様帯の中に、櫛歯状工具による羽状の刻み目が付されている。	
2126 73	土師器 高杯	脚部破片	V-59G	①微細砂を含むが、比較的精選された胎土である。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR7/4	大きく裾部の開く高杯形土器の脚部破片。外面端部には3-4条の、櫛歯直線文の間に、同じ工具による波状文が施されている。	
2280 73	土師器 埴	脚部破片	2C-65G	①砂粒を含むが、精選された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	内湾する埴の口縁部と考えられる。外面縦方向刷毛目(6本/1cm)内面横篋なで、口縁部内外面横なで。	
2135 73	土師器 壺	体部破片	X-61G	①砂粒・小礫を少量含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	外面は横方向刷毛目(6本/1cm)整形。内面は丁寧なで調整。	
2182 73	土師器 壺	口縁部破片	2B-63G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③浅黄橙7.5YR8/3	いわゆるバレス型壺の口縁部破片。複合口縁の外面には3条の沈線文が付されている。塗彩部分有り。	
2193 2195 73	土師器 壺	体部破片	2C-65G	①砂粒と少量の雲母を含む。 ②軟質。 ③橙5YR6/6	体部外面には沈線文の山形文と平行線文が交互に2段みられる。	
2154 73	土師器 不明	体部破片	Y-60G	①細砂を少量含む。 ②硬質。 ③灰白2.5Y8/1	丸い体部に突帯が付された破片。突帯には沈線による刻み目が付されている。	
2155 73	土師器 不明	体部破片	Y-64G	①微細砂・細砂を多く含む。 ②軟質。 ③灰白2.5Y8/2	丸い体部に突帯の付された破片。突帯には櫛状工具で刻み目が入っている。	
2278 73	土師器 高杯	脚部破片	2B-64G	①緻密な胎土であるが、細砂を含む。白色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	高杯脚部の裾部破片と考えられる。外面には、二条の沈線で区切られた文様帯の中に平行沈線で充填された三角文が施されている。	2277と同一個体か?
2277 73	土師器 高杯	脚部破片	2B-64G	①緻密な胎土であるが、細砂を含む。白色鉱物粒が目立つ。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	大きく開がる高杯。脚の裾部破片と考えられる。内外面とも丁寧になでられており、一孔が穿たれている。沈線二条の上部に櫛歯状工具で斜方向の刺突文、下部に同じ工具に山形文が付されている。	
2183	土師器 壺	口縁部～頸部 残存 口(12.9cm) 高 9.0cm残	2B-64G	①細砂・小礫を多く含む。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	頸部外面に突帯がめぐる。口縁部外面なで調整。体部斜なで調整。口縁部内面横方向篋磨き。体部内面篋なで。輪積み痕残る。	
2191 74	土師器 壺	口縁部～肩部 残存 口 14.0cm 高 6.0cm残	2B-65G	①小礫を多量に含む。 ②軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	巾広の折返し口縁の球形胴部の壺形土器。口縁部外面には3-4条の不整形な凹線がめぐる。2本1組の棒状付文が添付されている。口縁部内面に面とりがある。口縁部内外面横なで。	
2224 74	土師器 壺	口縁部破片 口(20.0cm) 高 2.7cm残	2C-64G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙10YR7/3	口縁部中位に段をもつ、有段口縁の壺。段上位外面には円形付文が、つまみあげられた口縁部外面の面とりには円形の刻み文が付されている。口縁上段は大きく外反する。	

グリッド出土遺物観察表《古墳時代前期・土器》 図120・121

番号 PL	器種	残存 方法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2225 74	土師器 壺	体部下半 $\frac{1}{2}$ 残存 底 5.2cm 高 12.8cm残	2C-64G	①細砂を含むが精選された胎土である。 ②硬質。 ③橙7.5YR6/6	やや偏平な球形胴部の壺。体部外面上半斜刷毛目の後などで調整。下半横方向などで後、横方向磨き。内面上半には横刷毛目が残るが体部下半は横方向磨きで。	
2075 74	土師器 壺	頭部～底部残存 底 5.0cm 高 8.0cm残	N-46G	①砂粒を多く含む。 ②硬質。 ③明褐7.5YR5/6	小さな平底の肩の張る壺。口縁部の形状は欠損の為、不明。外面横方向の磨きで後、横方向磨き。内面下半横磨きで。上半指押え。	
2281 74	土師器 壺	口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (15.7cm) 高 4.2cm残	2C-64G・ 2B-64G	①微細砂を少量含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	口縁部は直下に稜をもち、直立して短く立ちあがる。外面縦方向刷毛目。内面などで調整。口縁部内外面横磨きで。	
2120	土師器 甕	上位 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (18.0cm) 高 13.2cm残	U-58G	①細砂・小礫を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい赤褐5YR5/4	体部の丸い広口の甕形土器。体部外面は斜方向刷毛目(6本/1cm)後上位は指などで調整。内面横方向刷毛目の後横方向磨きで。口縁部内外面横磨きで。	
2220 74	土師器 広口壺	口縁部破片 口 (16.4cm) 高 4.1cm残	Y-58G	①微細砂を含むが、精選された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部外面に巾6mmほどの面とりをする。外湾する短い口縁部。体部上半外面には巾広の刷毛目(3本/1cm)が残る。内面磨きで。口縁部内外面丁寧な横磨きで。	
2223 74	土師器 甕	上位 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (14.6cm) 高 12.8cm残	2B-64G	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	丸い胴部の甕、ゆるやかに外方に開く広口の口縁部である。体部外面斜方向磨きで。内面横方向磨きで。口縁部内外面横磨きで。	
2243	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (14.2cm) 高 3.5cm残	AB-1~6 G	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③灰黄2.5Y7/2	口縁部中段は外反し、体部外面には、斜刷毛目(7本/1cm)後、横方向刷毛目。内面指などで。	
2144	土師器 S字甕	口縁部～頸部破片 口 (13.3cm) 高 6.4cm残	Y-59G	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/2	口縁部中段が直立するS字甕。体部外面上半は放射状に刷毛目(6本/1cm)。下半は斜刷毛目。上半には横刷毛目も巡る。内面横磨きで後、指押え。	
2142	土師器 S字甕	口縁部～体部 口 (15.0cm) 高 8.5cm残	Y-59G	①砂粒を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	口縁部中段が外方に開くS字甕。口縁部内面の面とりも明瞭でない。外面羽状刷毛目(6本/1cm)。頸部下には、横刷毛目が巡る。内面指などで。	
2172 74	土師器 台付甕	脚部 $\frac{1}{2}$ 残存 底 (10.0cm) 高 7.0cm残	2A-64G	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	端部がやや内湾する。台付甕の脚部。脚部外面斜方向刷毛目(8本/1cm)接合部指押え。内面などで調整。体部内面丁寧な調整で。	
2189 74	土師器 甕	口縁部～体部下位 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (21.2cm) 高 28.0cm残	2B-64G	①砂粒を多く含む。 ②軟質。 ③明褐灰7.5YR7/2	巾の狭い折り返し口縁を付した広口の甕。体部は球形を呈する。体部外面縦方向刷毛目(6本/1cm)後などで調整。内面横方向磨きで。部分的に縦指などで。口縁部内外面横磨きで。	
2138 74	土師器 S字甕	脚部のみ $\frac{1}{2}$ 残存 底 9.0cm 高 6.6cm残	Y-58G	①微細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい赤褐5YR5/6	やや短いS字甕脚部。外面斜刷毛目(6本/1cm)。内面指などで。	
2132 74	土師器 S字甕	脚台部のみ残存 底 8.6cm 高 5.6cm残	X-60G	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	小形のS字甕の脚部。外面斜刷毛目(8本/1cm)。内面指などで。	砂底
2156 74	土師器 台付甕	脚部残存 底 (8.8cm) 高 6.0cm残	Y-58G	①微細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	外面斜刷毛目(6本/1cm)。内面指などで。底部内面には粘土貼りつけ痕が残っている。	
2130	土師器 甕	体部中位～体部下位 高 18.7cm残	W-61G	①砂粒・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y7/1	外面縦方向刷毛目(6本/1cm)。内面横方向磨きで。	
2199 74	土師器 甕	$\frac{1}{2}$ 残存 口 (14.0cm) 底 3.7cm 高 8.0cm	J-27	①砂粒を多量に含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR6/4	上方に大きくラップ状に開く甕。小さな底部には一孔を穿つ。外面上半斜刷毛目。下位などで調整。内面指などで後、横方向磨き。口縁部内外面横磨きで。	

6. 遺構外の出土遺物

グリッド出土遺物観察表《古墳時代前期・土器》 図121

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2217 74	土師器 鉢	1/4残存 口 10.6cm 底 (5.4cm) 高 7.5cm残	U-57G	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	小さな平底の鉢。口縁部はやや内湾し、内面口縁部下位に稜をもつ。体部外面縦磨き。内面下位磨き。上半横磨き。口縁部内外面横磨き。	
2210 74	土師器 高杯	杯部1/4残存 口 (9.8cm) 高 5.2cm残	K・L-33・ 34G	①微細砂を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/4	丸い椀形の杯部。口縁部は内湾する。杯部外面横方向磨き。内面横方向磨き。上半部は丁寧になてた後、縦方向磨き。	
2201 74	土師器 高杯	杯部1/4残存 口 11.5cm 高 4.9cm残	K・M-35・ G	①砂粒・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	やや内湾する口縁部をもつ高杯。杯部が外面は横方向。内面斜方向、横方向磨き。口縁部内外面横磨き。	
2209 74	土師器 鉢	1/4残存 口 7.6cm 高 4.7cm	I-22G	①砂粒・細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③灰黄褐10YR5/2	うす手で小形鉢。外面横方向。内面には指頭痕残る。口縁部内外面横磨き。	
2178	土師器 鉢	上半1/4残存 口 (9.6cm) 高 4.9cm残	2B-62G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③明赤褐5YR5/6	小さく外方に開く口縁部が付された鉢。外面は磨き。上半で調整。内面横方向磨き。口縁部内外面横磨き。	
2273	土師器 高杯	口縁部破片 口 18.2cm 高 3.5cm残	V-57G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	やや内湾する大形の杯部。内面には櫛歯状工具による山形文と平行線文が交互に4段施されている。外面は丁寧なで調整。	
2184	土師器 高杯	脚部1/4残存 底 (14.5cm) 高 7.1cm残	2B-64G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③明褐7.5YR5/6	裾部は大きく開く高杯脚部。中位に1段3孔を穿つ。外面縦方向磨き。裾部横磨き。内面横方向磨き。	
2242	土師器 高杯	脚部裾部欠損 高 6.0cm残	A・B-1~ 6G	①細砂を多量に含む。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	大きく裾部の開く脚部と考えられる。2段3孔を穿つ。脚外面縦方向磨き。内面下半横刷毛目(6本/1cm)。上半横磨き。	
2165 75	土師器 小形器台	口縁部~頸部 1/2 口 (10.0cm) 高 4.0cm残	2A-62G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部は短く外方に開く。小形器台器受部。外面磨き。内面横方向磨き。	
2244	土師器 小形器台	口縁部破片 口 (9.4cm) 高 2.3cm残	A・B-1~ 6G	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR6/6	器受部中位に2段の稜をもつ。内外面丁寧なで調整。	
2099 75	土師器 小形器台	口縁部~台部中 位、底部欠損 口 8.8cm 高 3.7cm残	T-57G	①砂粒・微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	器受部中位に稜をもつタイプの小形器台。口縁部は外反する。内外面ともよく磨かれている。	
2157 75	土師器 小形器台	口縁部~体部 1/2 口 7.5cm 高 4.4cm残	Z-59G	①やや砂粒は含むが、 精選された胎土である。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/3	器受部の下位に稜をもつ小形器台。口縁部は大きく外湾する。脚部には1段3孔が残存している。	内外面赤色塗彩
2131 75	土師器 小形器台	脚部1/2欠損 口 7.7cm 底 (11.6cm) 高 6.3cm	X-58G	①細砂・小礫を含む。 ②硬質。 ③明褐灰7.5YR7/2	口縁部外面に面とりする器受部をのせやや低い。脚をもつ器台。脚中位よりやや上方に2段3孔を穿つ。器受部は内外面なで調整。脚部外面上半縦磨き。下半横磨き。内面なで調整。	
2137 75	土師器 小形器台	脚部1/3残存 底 (9.6cm) 高 6.2cm残	Y-56G	①微細砂および小礫を 含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	ラッパ状に開く短い器台脚部。脚上位に1段3孔を穿つ。外面縦方向磨き。下位横方向なで調整。内面横方向磨き。	
2161 75	土師器 小形器台	口縁部~裾部 裾部3/4欠損 口 9.5cm 底 (12.2cm) 高 10.0cm	2A-56G	①砂粒を含む。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	外方に開く器受部をのせた足高の器台。脚外面の縦方向磨き。内面横磨き。端部横方向磨き。器受部内面丁寧なで調整。口縁内面端部は面とりをする。1段3孔を穿つ。	

グリッド出土遺物観察表《石器》 図122～124

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備 考
S691 75	UF	3.2・2.2 1.1	黒曜石 5.98	V-54G	不定形剥片素材、礫面残存 端縁及び一側縁に加工痕と微細な使用痕を残す。	
S690 75	石鏃未製品	4.1・2.0 0.3	珪質準片岩 3.47	2A-65G	分割剥片である。	
S692 75	磨製石鏃	2.2・1.45 0.25	珪質準片岩 0.96	Y-63G	凹基無茎 表裏両面の周縁部分稜があるが、作りはやや雑である。	
S761 75	有孔磨製石鏃	2.3・2.05 0.25	珪質準片岩 1.5	X-50G	凹基無茎 表裏両面の周縁部分に稜があるが、作りはやや雑である。基部の穿孔は1孔で片状である。	
S709 75	磨製石鏃	4.6・2.0 0.3	緑色片岩 3.27	T-57G	凹基無茎 表裏両面の周縁部分に稜がある。	
S722 75	有茎石鏃	3.9・2.35 0.7	黒色頁岩 6.10	X-57G	有茎で基部は挟入せずに基部に続く。	
S710 75	打製石鏃	2.75・1.35 0.35	黒色安山岩 1.21	T-54G	無茎で基部の挟入が浅い。	
S708 75	打製石鏃	2.68・2.05 0.35	黒色安山岩 1.36	2A-63G	無茎で基部に挟入がある。	
S763 75	有茎石鏃	2.2・1.2 3.5	砂岩 0.97	2A-64G	有茎で基部は直線的である。	
S730 75	石包丁	4.4・3.2 0.5	黒色頁岩 9.77	2A-63G	形状は外湾刃半月形で、紐孔部分で欠損しているが、二孔で両側の穿孔と推定される。紐孔の端部側に紐ずれ痕が認められる。	
S738	砥石	7.0・4.1 0.8	砂岩 37.4	K-55G	表面の左半分を磨り面として利用している。	
S727 76	磨製石斧	11.4・6.2 3.1	変質玄武岩 425.0	2A-64G	刃部及び一側縁に敲打痕を残すことから、磨製石斧の未製品か、敲石に再利用したものか。	
S764 75	大形蛤刃磨製石斧	16.1・6.7 4.0	はんれい岩 763.0	H・I-20G	頭部に打撃痕と剝離面が認められる。 刃部に刃縁と直交する顕著な線状痕と、刃こぼれ痕が認められる。	
S719 76	打製石斧	10.9・7.1 1.5	細粒安山岩 144.64	Y-60G	頭部の一部を欠損していると考えられるが分銅形である。 礫面残存。	
S713 76	打製石斧	5.1・4.8 1.6	細粒安山岩 50.73	V-55G	調整は少ないものの、打製石斧の頭部と考えられる。 礫面残存	
S703 76	打製石斧	13.75・7.3 2.4	黒色頁岩 256.0	V-55G	頭部部分の作出が雑であるが短冊形を呈する。	
S720 76	打製石斧	7.35・4.2 1.85	黒色頁岩 57.24	X-59G	調整が少ないものの、打製石斧の頭部と考えられる。	
S746 76	打製石斧	4.7・4.7 1.0	黒色頁岩 33.2	Z-65G	両端を欠損しているが、撥形と考えられる。	
S723 76	砥石	8.0・1.7 0.8	頁岩 20.90	W-56G	四面を砥ぎ面としている。 両端に剝離が認められる。	
S744 76	砥石	12.05・1.75 1.4	頁岩 48.7	M-39G	面を砥ぎ面としている。	
S689 76	スクレーパー?	10.8・10.7 4.6	黒色頁岩 640.0	2A-64G	分割礫素材 一端に剝離を加え、片刃の刃部を作り出している。	
S748 76	スクレーパー	6.6・5.8 1.8	黒色頁岩 87.1	W-57G	剥片素材、礫面残存 周縁から両面への求心的な剥片剝離を施し円盤状を呈する。	
S755 76	スクレーパー	4.65・5.7 0.8	黒色頁岩 33.2	I-22G	横長剥片素材 周縁部分に加工痕が認められる。	
S766 76	スクレーパー	5.0・6.8 1.65	黒色安山岩 45.6	L-33・34G	横長剥片素材 端縁及び両側縁に加工痕、使用痕を残す。	
S752 76	スクレーパー	4.55・6.4 1.2	黒色頁岩 27.2	K-26G	横長剥片素材 打面縁と先端縁に加工痕が認められる。	
S728 77	スクレーパー	4.8・7.1 1.7	黒色頁岩 83.02	2A-62G	縦長剥片素材、礫面残存 一側縁及び端縁に加工痕、使用痕を残す。	
S756 77	スクレーパー	4.1・4.8 6.7	黒色頁岩 13.9	2C-65G	横長剥片素材 端縁に加工痕が認められる。	
S768 77	スクレーパー	4.3・7.3 1.3	珪質頁岩 46.0	A・B-1～ 6G	縦長剥片素材 一側縁と先端縁に加工痕が認められる。	
S717 77	スクレーパー	4.2・4.4 15.8	黒色頁岩 31.42	W-58G	横長剥片素材、礫面打面、礫面残存 一側縁に細かな加工痕が認められる。	

グリッド出土遺物観察表《石器》 図125・126

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S749 77	スクレー パー	7.65・9.0 6.4	黒色頁岩 80.9	Z-63G	横長剥片素材、礫面残存 周縁部分に加工痕が認められる。	
S757 77	スクレー パー	3.4・3.5 0.8	黒色頁岩 9.3	K-26G	縦長剥片素材 先端縁に加工痕が認められる。	
S767 77	スクレー パー	2.2・3.7 0.5	黒色安山岩 5.3	KL-33・34 G	不定形剥片素材 三縁に加工痕が認められる。	
S751 77	スクレー パー	5.5・5.85 1.65	黒色頁岩 52.6	2B-65G	横長剥片素材 先端縁に使用痕、一側縁に加工痕が認められる。	
S758 77	スクレー パー	2.9・3.75 1.0	黒色頁岩 12.9	W-56G	縦長剥片素材 一側縁に加工痕が認められる。	
S753 77	スクレー パー	7.1・5.5 1.4	黒色頁岩 52.6	V-54G	縦長剥片素材 一側縁に加工痕が認められる。	
S752	スクレー パー	2.2・2.75 4.5	黒色頁岩 3.1	V-55G	不定形剥片素材 表裏両面の両側縁に加工痕が認められる。	
S718 77	スクレー パー	1.25・2.9 1.1	珪質頁岩 4.25	W-56G	不定形剥片素材 加工痕が僅かに認められる。	
S760 77	スクレー パー	3.2・2.25 0.55	黒曜石 2.6	X-50G	縦長剥片素材、礫面残存 両側縁に加工痕、使用痕を残す。	
S754 77	スクレー パー	5.55・3.8 1.1	黒色頁岩 21.9	W-56G	縦長剥片素材、礫面残存 両側縁に僅かに使用痕を残す。	
S759 77	スクレー パー	4.1・1.8 0.6	黒色頁岩 5.2	U-56G	縦長剥片素材 一側縁に使用痕が認められる。	
S743 77	スクレー パー	3.4・2.9 0.9	頁岩 10.0	Y-63G	縦長剥片素材 両側縁に使用痕が認められる。	
S725 77	スクレー パー	4.35・4.4 1.5	砂岩 30.90	2B-64G	縦長剥片素材、礫面残存、折断 両側縁に加工痕、折断面に使用痕を残す。	
S724 77	石核	8.85・6.2 3.95	黒色頁岩 182.01	2B-64G	剥片素材、礫面残存 周縁から両面への求心的な剥片離を施す。	
S715 77	石核	5.5・4.7 1.9	黒色頁岩 62.63	T-53G	剥片素材、礫面残存 周縁から両面への求心的な剥片離を施す。	
S704 77	礫器	9.35・7.85 3.65	黒色頁岩 285.0	V-54G	礫素材か。 楕円礫の一端に数回の剥離を加え、片刃の刃部を作り出している。	
S745 77	敲石	11.4・5.8 3.6	流紋岩 385.0	2D-65G	両端に顕著に敲打痕を残す。	
S739 77	敲石	7.0・5.0 3.6	粗粒安山岩 195.0	Z-61G	一端に敲打痕を残す。	
S716 77	敲・凹石	11.1・9.7 2.5	粗粒安山岩 367.0	W-58G	周縁の一部に敲打による剥離面が認められる。 表面のほぼ中央にくぼみ痕が認められる。	
S721 77	凹み石	15.25・13.1 6.5	粗粒安山岩 1672.0	X-58G	表面のほぼ中央に二つのくぼみ痕が認められる。	

グリッド出土遺物観察表《古代・土器》 図127

番号 PL	器種	残 存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2146 78	土師器 杯	1/3残存 口 (13.5cm) 高 7.5cm	Y-61G	①砂粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③橙2.5YR6/6	肩の張る丸い杯部をもった内斜口縁の杯。器面は荒れており、整形痕はよくわからない。	
2145 78	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (13.4cm) 高 5.0cm残	Y-61G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	最大径が口縁部にくる。内斜口縁の杯。口縁端部は丸く内湾する。内外面とも丁寧になでられている。	
2192 78	土師器 杯	ほぼ完形 口 13.4cm 高 5.2cm	2B-65G	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③明赤褐5YR5/6	最大径が口縁部にくるやや浅めの内斜口縁杯。外面はなでられ、内面は磨かれているが、摩耗が著しく単位は不明である。	

グリッド出土遺物観察表《古代～近代・土器》 図127

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2200 78	土師器 鉢	口縁部～底部 2/3残存 口(10.8cm) 底(3.5cm) 高 5.8cm	L-27G	①砂粒・小礫を多量に 含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	小さな平底の鉢。口縁部は短く外湾する。外面上半縦 刷毛目。下半斜匍けずりの後で調整。内面斜方向な で調整。口縁内外面横などで。	
2202 78	土師器 杯	口縁部～底部 1/4強残存 口(10.6cm) 高 3.2cm	S-50G	①微細砂・砂粒を含む。 ②きわめて硬質。 ③橙5YR6/6	体部中位にするどい稜をもつ小形の杯。底部外面匍け ずり。内面などで調整。口縁部内外面横などで。	
2231 78	土師器 杯	完形 口 11.3cm 高 3.0cm	P-49G	①微細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	中位に稜をもつ小形で浅い杯。底部外面匍けずり。内 面丁寧なで調整。口縁部内外面横などで。	
2089 78	土師器 杯	1/4残存 口(11.2cm) 高 4.3cm	S-50G	①微細砂・小礫を含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	口縁端部が短く内傾する小形の杯。外面は匍けずり。 内面は丁寧なで調整。口縁部内外面横などで。	
2205 78	土師器 杯	口縁部1/3残存 口(6.0cm) 高 3.5cm残	F-52G	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	口縁端部が丸く内湾する丸底の杯。体部内外面などで調 整。口縁部内外面横などで。	
2206 78	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口(12.0cm) 底(7.4cm) 高 2.9cm	F-4G	①微細砂・砂粒を多く 含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	体部中位でゆるやかな段をもって広がる杯。口縁部は 内湾する。底部外面匍けずり。体部・口縁部内外面な で調整。	
2208 78	土師器 杯	1/4残存 口 12.4cm 高 3.2cm	H-6G	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/3	小形の整形の杯。口縁端部はやや内湾する。底部外面 匍けずり。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横などで。	
2074	須恵器 杯	口縁部1/6残存 口(12.4cm) 高 3.2cm残	M-36G	①細砂を少量含む。黒色 鉍物粒が目立つ。 ②環元焰焼成。硬質。 ③灰5Y6/1	回転ロクロ整形。外面には自然釉が付着している。	
2218 78	須恵器 蓋	1/4弱残存 口(9.3cm) 高 4.3cm残	R-51・52G	①細砂を多く含む。白色 粒子が目立つ。 ②環元焰焼成。 ③灰7.5Y5/1	ロクロ整形。天井部外面手持ち削り。	
2163	須恵器 蓋	口縁部破片 口(14.5cm) 高 2.35cm残	2A-60G	①黒色鉍物粒が目立つ。 ②環元焰。 ③灰N6/	大形の蓋の破片。天井部外面回転削り。	
2198	須恵器 高台付椀	口縁部～体部下 位1/6残存 口(14.8cm) 高 5.3cm残	G-2G	①細砂・砂粒を多く含 む。 ②硬質。 ③灰N4/	右回転ロクロ整形。	
2214	形象埴輪 太刀	鞘尻残存 高 14.7cm残	M-39G	①砂粒を含む。 ②硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	鞘の下部と鞘尻のみ残存。鞘尻は、幅7cm、長径16cm、 短径13cmの倒卵形である。外面縦方向刷毛目。鞘尻部 はなで。内面は斜方向刷毛目整形後、指押え。	
2213	形象埴輪 太刀	鞘尻残存 高 20.2cm残	M-39G	①砂粒・小礫を含む。 ②硬質。 ③明赤褐2.5YR5/6	鞘の下半部と鞘尻の一部残存。鞘の上部は、長径 10.5cm、短径9cmの倒卵形の断面を呈する。外面縦方 向刷毛目。内面斜方向刷毛目整形後、指押え。	
2259 78	陶器 菊皿	体部下位～底部 1/2残存 高 2.5cm	N-29～32 G・M-32G	①やや粗い。 ②普通。 ③にぶい黄橙10YR7/3	内外面の菊花は型押し。内面に三又トン痕2ヶ所残 る。内面から外面体部下位まで灰釉を施す。	瀬戸美濃系 17世紀
2258	軟質陶器 蓋?	破片	N-29～32 G・M-32G	①金雲母?含む。 ②やや軟質。瓦質。 ③暗オリーブ灰2.5GY 4/1	ロクロ調整。	在地製 江戸～明治
2265	須恵器 高台付椀	高台部1/2残存 底(9.8cm) 高 2.0cm残	N-29～32 G・M-32G	①微細砂を含む。黒色 鉍物粒が含まれている。 ②環元焰焼成。軟質。 ③灰白N7/	右回転ロクロ整形。回転糸切り離し。無調整。付高台。	

グリット出土遺物観察表《古代～近代・土器》 図127

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2267	須恵器 盤	口縁部～底部破 片 口 (27.2cm) 底 (22.0cm) 高 2.8cm	N-29～32 G・M-32G	①白色鉱物粒を多く含 み、黒色粒を少量含む。 ②良好。 ③灰N6/1	底部は回転斲削り痕がある。口縁部はわずかに外反し 端部はほぼ平坦である。	
2268	土製品 土錘	完成品 長 5.2cm 巾 1.75cm 孔 0.2cm	N-29～32 G・M-32G	①細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰7.5Y4/1	やや左右非対称に膨らむ。穿孔はやや曲っている。	
2266	須恵器 杯	口縁部～底部 1/4残 口 (12.5cm) 底 (8.0cm) 高 4.3cm	N-29～32 G・M-32G	①微細砂を含む。黒色 鉱物粒が目立つ。 ②環元焰焼成。軟質。 ③灰白7.5Y7/1	やや大きな底部の深めの杯。右回転ロクロ整形。回転 糸切り離し。無調整。	
2260	陶器 鳩徳利	口縁部・把手・ 台部欠損	N-29～32 G・M-32G	①白色・黒色鉱物粒含 む。黒色鉱物粒吹き出 す。 ②焼き締まる。 ③にぶい橙	ロクロ成整形後、体部と頸部を接合。把手は欠損。底 に脚一對貼り付ける。被熱の痕跡は認められない。無 釉。	大堀相馬 明治～大正

グリット出土遺物観察表《古代・瓦》 図128

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
2087 78	瓦 男瓦	厚 1.4cm	R-53G	①黒色粒子含 ②硬質 ③灰白5Y7/1	表面に回転の撫痕があり半載作。側部面取り3回。	秋間。
2162 78	瓦 男瓦	厚 1.4cm	2A-60G	①黒色粒子含 ②並質 ③灰白5Y7/1	表面に回転撫であるため半載作。裏面に布合目痕あり。 側部面取り3回。	秋間。
2088 78	瓦 女瓦	厚 1.5cm	R-53G	①黒色粒子含 ②並質 ③灰白2.5Y8/1	一枚作か桶巻作か寄木条痕は不明瞭。表面に粘土板糸 切痕なし。裏面に絡縄文あり。側部は面取り後撫。	秋間。
2262 78	瓦 男瓦	厚 2.8cm	N-29～32G	①白色粒子含。②焼締 ③灰7.5Y5/1	回転条痕はなく、半載作か一枚作か不明。布目はやや 粗い。表面は素文。	吉井。
2261 79	瓦 女瓦	厚 2.3cm	N-29～32G	①黒色粒子含 ②焼締 ③灰7.5Y6/1	表面に寄木条痕があり桶巻作。裏面は回転の撫痕。粘 土板の合目あり。側部面取1回。	秋間。
2264 79	瓦 女瓦	厚 1.4cm	N-29～32G	①黒色粒子含 ②硬質 ③灰7.5Y6/1	側部に布圧痕があり、一枚作。裏面に絡縄文と離砂あ り。側部は斲削り後撫丸。	秋間。

7. 表面採集の遺物

表面採集遺物観察表《縄文・弥生土器》 図129

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2255 80	縄文土器 鉢	口縁部破片	表面採集	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・輝石を含む。②やや緩い。③にぶい褐7.5YR6/3	頸部は大きくひろく。内外面とも器面荒れ。	口縁部端部には刻み目。内面には烈点文や平行沈線文が入る。	
2233 80	弥生土器 甕	口縁部破片	表面採集	①黒色・夾雑鉱物粒・輝石を含む。②良好。③黄灰2.5Y6/1	口縁部は外反し、端部は僅かにたつ。内面は横なで。	口縁部外面端部に刻み目が入る。	
2232 80	弥生土器 壺	口縁部破片	表面採集	①白色・夾雑鉱物粒・小礫を含む。②普通。③褐灰7.5YR6/1	口縁部は受口状を呈す。内外面とも横なで。	外面口縁部は矢羽根状の篋描文様が入る。	
2257 80	弥生土器 壺	頸部破片	表面採集	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・小礫・輝石を含む。②良好。③黄灰2.5Y4/1	頸部はくびれる。内面は器面荒れ。	頸部は3本の平行沈線文の間を円形刺突文を配す。内面の一部に塗彩が残る。	
2270 80	弥生土器 甕	頸部破片	表面採集	①白色・黒色・夾雑鉱物粒・石英砂を含む。②普通。③灰白10YR7/1	頸部は僅かにくびれる。内面は横方向の器面調整。	頸部は左回りの等間隔止簾状文。肩部は7条1単位の波状文。	

表面採集遺物観察表《土師器・須恵器》 図129

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
13 80	土師器 高杯	脚裾部破片	表面採集	①細砂・黒色鉱物粒を多く含む。②硬質。③にぶい黄橙10YR7/3	外面なで後、2～4条の細い沈線文帯の間に長さ5～7mmの橢圓状工具による5mmおきの刺突文が、羽状に施されている。端部外面には幅5mmほどの面とりがされている。内面なで。端部のみ横なで。文様施文後、焼成前に小孔が穿たれている。	外来系
2254	土師器 杯	口縁部～体部下 位1/5残存 高 4.1cm残	表面採集	①細砂を多く含む。②硬質。③にぶい橙5YR7/4	口縁部下位が張る内斜口縁の杯形土器。口縁端部は欠損する。体部外面丁寧なで調整。内面細かい縦方向磨き。	
2253	土師器 小形高杯	杯部・脚部欠損 口(8.5cm) 高 4.7cm残	表面採集	①砂粒を多量に含む。②やや軟質。③橙7.5YR6/6	内外面なで調整。脚部内面横方向磨きなで。	
2229 80	土師器 杯	完形 口 12.0cm 底 丸底 高 3.8cm	表面採集	①夾雑物が少なく精選された胎土である。②硬質。③橙7.5YR7/6	底部外面磨削り。口縁部内外面および体部内面は丁寧なで調整。	
8 80	土師器 杯	口縁部～体部破 片	表面採集	①多量の細砂を含む。②普通。③橙7.5YR6/6	底部外面磨削り。内面なで。指頭痕が残る。口縁部内外面横なで。外反する口縁と丸底の底部の境には鋭い稜がつけられている。	
733	土製品 土錘	完形	表面採集	①緻密。②硬質。③灰黄2.5Y7/2	外面指なで調整。中央をややはずれて焼成前穿孔。	
6 80	土師器 台付甕	ほぼ完形 口 9.0cm 底 9.5cm 高 14.2cm	確認面表採	①細砂・雲母を多量に含む。②普通。③にぶい橙7.5YR6/4	胴部、脚部外面磨削りの後、丁寧なで調整。同内面横方向磨きなで。口縁部内外面横なで。	
7 80	須恵器 高台付碗	口縁部～底部 3/4残存 口 14.5cm 底 6.6cm 高 5.7cm	確認面表採	①細砂・長石粒・赤色鉱物粒を含む。②酸化焙焼成。軟質。③にぶい橙7.5YR7/3	粘土紐巻き上げ成形。右回転クロコ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部なで調整。口縁部内外面横なで。口縁端部は丸く肥厚する。	

7. 表面採集の遺物

表面採集遺物観察表〈灰釉陶器・陶器〉 図129・130

番号 PL	器種	残存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
14	灰釉陶器 椀	体部下位～底部 残存 底 7.8cm	表面採集	①緻密。 ②硬質。 ③灰白7.5Y8/1	貼り付け高台。高台端部は使用により摩滅。	
17 80	灰釉陶器 椀	体部下位～底部 残存 底 9.0cm	表面採集	①緻密。 ②硬質。 ③灰白10Y7/1	高台の貼り付けは雑。底部内面中央は使用により平滑。	
12 80	灰釉陶器 小瓶	頭部～底部残存 口縁部欠損。 底 5.0cm	表面採集	①緻密。②硬質。 ③明オリープ灰2.5GY 7/1	底部右回転糸切り。外面灰釉。底部付近黒色物質付着。	
2	軟質陶器 火鉢又は 風炉	体部～台部破片 底 (21.2cm)	表面採集	高台にえぐり。高台境に針金による補修痕。		在地製 不祥
3 80	軟質陶器 鉢形鍋	体部～底部破片 底 (20.0cm)	表面採集	底部外面は高台状。体部・底部外面煤付着。		在地製 17～18C
1 80	陶器 飴釉椀	口縁部～底部 1/4残存 口 (10.2cm) 底 5.0cm 高 7.8cm	表面採集	口縁部下位は僅かにくはむ。体部外面中位まで篋削り。高台脇以下無釉。		瀬戸・美濃系 18C前半
4 80	陶器 皿	口縁部～底部 1/4残存	表面採集	高台以外に長石釉施す。釉は鮫肌状を呈する。内外面に目痕1ヶ所。やや焼成不足気味で焼き締まりはない。		瀬戸・美濃系 17C
9 80	磁器 椀	口縁部破片	表面採集	器壁厚い。外面はワリガキ筆による2重網目文。内面は無釉。		肥前系 18中～後半
359	陶器 鉄釉徳利	底部のみ残存 底 13.0cm	表面採集	底部周縁回転篋削り。外面鉄釉を施し、底部の釉を拭い取る。		瀬戸・美濃系 18～19C
360	陶器 皿	体部破片	表面採集	唐津系の青緑釉皿。内底蛇ノ目状に釉をかき取る。高台脇以下は無釉。		肥前系 17C後～18C前
10 80	陶器	口縁部～底部 破片	表面採集	内面型押し、外面はノミ状工具により施文。灰釉のみで銅緑釉は施さない。高台脇以下無釉。		瀬戸・美濃系 17C
11 80	土製品 大黒様	完形	表面採集	土師質の素焼製品。型造り。		在地製 江戸～大正か

表面採集遺物観察表〈石器〉 図130

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S711 80	勾玉	1.6・1.05 4.5	滑石 1.03	表面採集	半環状である。穿孔は両括である。	
S639 80	UF	3.4・1.8 0.25	黒曜石 1.55	表面採集	縦長剥片素材、両側縁に微細な使用痕を残す。	
S328 80	剥片	1.8・1.6 0.9	準片岩 4.48	表面採集	右側縁を部分的に研磨している。	滑石質。上 下両端は節 理面で割れ ている。
S159 80	UF	3.6・4.8 0.8	黒色安山岩 12.71	表面採集	横長剥片の下縁に不規則な剝離痕が認められる。打面は自然面。	
S158 80	RF	4.9・6.9 0.9	頁岩 32.06	表面採集	横長剥片の下縁に細かい剝離が施されている。打面は欠失している。表面は自然面。	
S160 80	UF	3.1・4.0 0.7	黒色安山岩 7.13	表面採集	横長剥片の縁刃部使用。	
S161 80	RF	6.5・6.3 0.7	黒色安山岩 34.50	表面採集	剥片の両側縁の鋭い部分に若干の調整を施し、削器として使用している。	
S23 80	磨製石斧	6.2・3.5 2.4	変玄武岩 74.9	表面採集	欠損後、上端から敲打し調整してそのまま使用している。	刃部に刃潰 れあり。
S22 80	打製石斧	9.5・7.0 3.4	粗粒安山岩 294.0	表面採集	比較的厚手。あまり身は反らない。側縁は打いて潰れている。	刃部欠損
S156 81	砥石	9.3・3.1 3.0	砥沢石 125.82	表面採集	中央部が厚く、上下両側が薄くなり、縦断面形は山形を呈する。上下両端は使用されていない。	
S157 81	礫器	5.8・5.6 1.9	かんらん岩 94.85	表面採集	裏面には刃ならし痕状の線状痕を有する。表面には数回の剝離が施されているが、縁辺はあまり鋭くない。	

表面採集遺物観察表〈石器〉 図131・132

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S27 81	敲石	11.5・3.1 3.1	黒色片岩 106.1	表面採集	右側縁に1か所敲いた痕跡があり、剥離面が表裏面に生じている。	
S327 81	磨石	6.9・5.7 2.5	粗粒安山岩 171.66	表面採集	表裏両面は磨痕が明瞭に付き、やや光沢をもつ。裏面の線状痕は特にはっきりしている。	側面から裏面は黒変してやや光沢をもつ。
S20 81	敲石・磨石	12.6・10.0 4.8	粗粒安山岩 850.4	表面採集	楕円形を呈する。周辺部には敲打痕が残る。表裏両面は磨れているものと思われるが、方向不明。	風化している。
S152 82	磨石・敲石	13.8・13.7 4.0	閃緑岩 1435.7	表面採集	扁平な一面に磨り痕が認められるとともにススが付着している。周縁に敲打痕が認められる。	
S154	磨石	9.5・8.5 4.6	粗粒安山岩 418.9	表面採集	表面の一部と裏面に光沢痕が認められる。側面には敲打痕、あるいは光沢痕はない。	表面の一部は剥れている。
S474 81	砥石	7.2・6.1 4.4	未固結凝灰岩 135.0	表面採集	幅広の線状痕?が認められる。	
S153 81	磨石・敲石 凹石	11.9・11.8 6.1	粗粒安山岩 1173.6	表面採集	礫を4分割したものの一つを磨って整形している。剥離面の研磨は稜が明瞭に残る。表面に回転による凹みを残す。側面に部分的に敲打痕有り。	
S155 81	磨石	16.5・12.4 7.8	粗粒安山岩 1994.1	表面採集	角礫を用いて平坦面を使用している。裏面も平坦ではあるが線状痕あるいは光沢等は認められない。	磨痕のある側面は若干熱を受けている。
S30 81	砥石	24.0・22.3 8.6	粗粒安山岩 5400.0	表面採集	表面中央の磨面は滑らかにゆるく凹む。幅1～2mm弱の太い線状痕が長軸方向に走る。細い鉄器用の砥石と考えられる。部分的に敲打痕を残す。裏面は使用されていない。	

遺構外出土獣骨一覧表

番号	出土遺構	種名	部位名	左右	年齢	性別	加工	焼骨	写真	備考
300	IV面	同定不可	骨片					○		
301	IV面	同定不可	骨片					○		
302	2C-64G	IV面	ニホンシカ?					○		
303	Y-58G	IV面	同定不可					○		
304	Y-62G	IV面	ニホンシカ			♂		○		
305	Y-62G	IV面	同定不可					○		
306	Y-62G	IV面	ニホンシカ			♂		○		
307	Y-63G	IV面	同定不可					○		
308	W-61G	IV面	同定不可					○		
309	W-61G	IV面	同定不可					○		
310	IV面	ニホンシカ	下顎第二後臼歯	左	2.5才				○	
311	2B-62G	ニホンシカ	角付角坐骨		成	♂				
312	2C-65G	同定不可	四肢骨片					○		
313	V-57G	イノシシ	上顎第三後臼歯	右	2.5才					
314	Y-58G	同定不可	細骨片					○		
315	2B-64G	V面	ニホンシカ					○		
316	N-32G	イノシシ	上顎第二切歯	右	成					
317	N-32G	同定不可	骨片					○?		
318	不明	イノシシ	下顎第一又は第二切歯		成					
319	不明	同定不可	骨片							
320	不明	ニホンシカ	踵骨	右	成			○		
321	不明	同定不可	四肢骨片					○?		

8. 第1分冊補遺

1号河川跡出土遺物観察表《ガラス器》 図133

試料番号	残存状況	外観の色調	形状	直径mm	厚さmm	孔形状	孔直径mm	重量g	機体観察(実体顕微鏡8~40倍)
G 2	半欠	ターコイズブルー(5B6/8)	小玉	3.0	3.2	円形	1.0	0.03+α	B

2号河川跡出土遺物観察表《ガラス器》 図133

試料番号	残存状況	外観の色調	形状	直径mm	厚さmm	孔形状	孔直径mm	重量g	機体観察(実体顕微鏡8~40倍)
G 1	半欠	シアン(5B4/8.5)	丸玉	5.5	3.95	円形	1.8	0.07+α	B

2号河川跡出土遺物観察表《土師器》 図133

番号 PL	器種	残存 状況	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2310 82	土製 土玉	ほぼ完形 長 1.0cm 幅 1.65cm 厚 1.5cm 孔径 0.25cm	2D-63G W333の中	①緻密 ②硬質 ③にぶい黄橙 10YR7/4	球形を孔を穿った方向から僅かにつぶした形状をしている。表面には僅かに作成時のきずがある。孔は円形であり、表面との境は僅かに割れている。		

下り柳地区1号井戸出土遺物観察表《石器》 図133

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S656 82	敲石	12.45・9.3 6.9	粗粒安山岩 1185.0	埋没土中	一端及び側縁に敲打痕を残す。	

下り柳地区3号井戸出土遺物観察表《石器》 図133

番号 PL	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴	備考
S655 82	敲石	13.9・13.65 4.9	石英閃緑岩 1560.0	埋没土中	一端に敲打痕を残す。 表面にススが附着している。	
S653 82	砥石	9.3・5.8 3.2	砥沢石 215.0	埋没土中	四面を砥ぎ面としている。	
S654 82	砥石	9.5・4.8 4.5	砥沢石 315.0	埋没土中	四面を砥ぎ面としている。	

新保田中村前遺跡Ⅲ

《遺物観察表編》

一級河川染谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第3分冊

平成5年3月26日 印刷

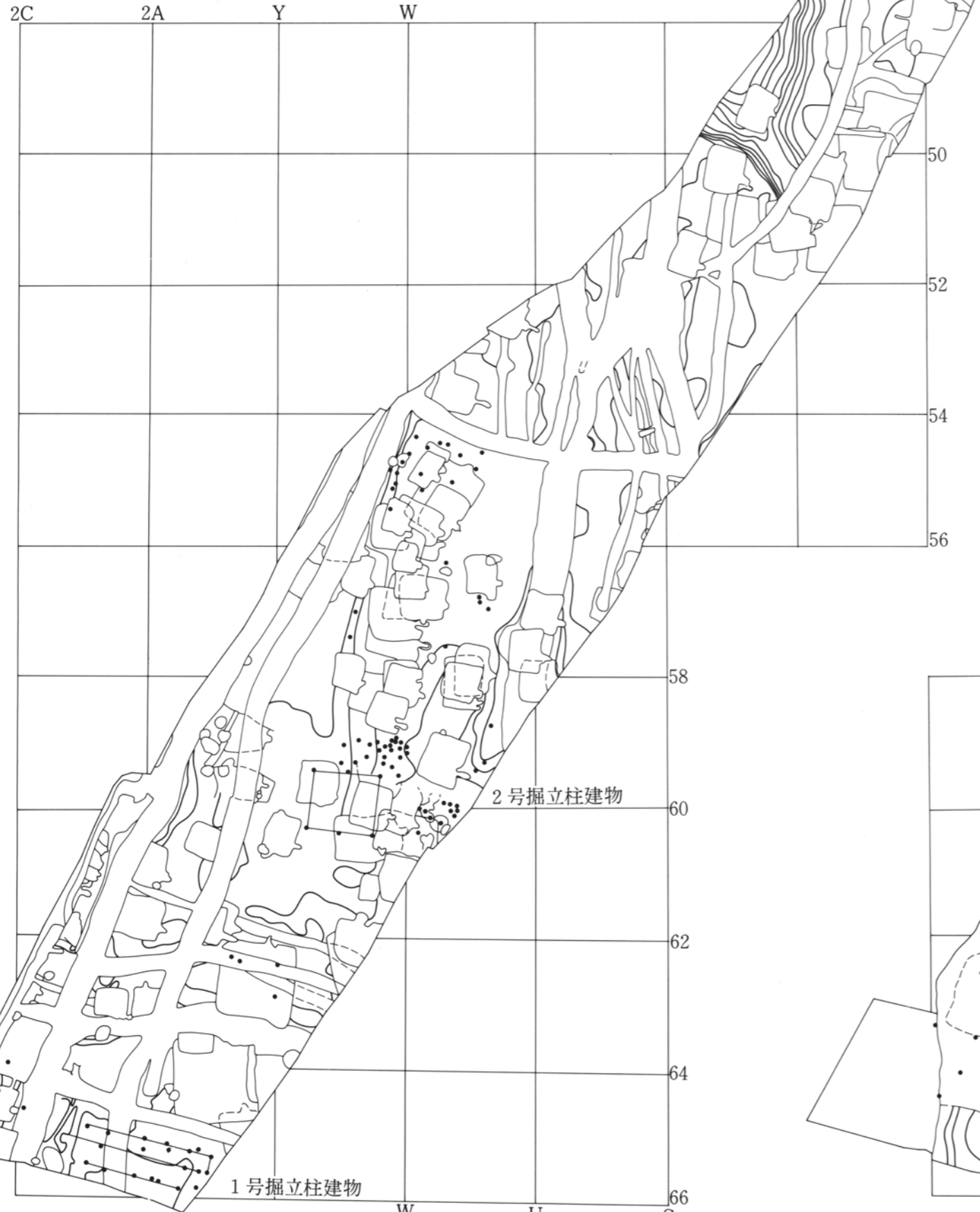
平成5年3月29日 発行

編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

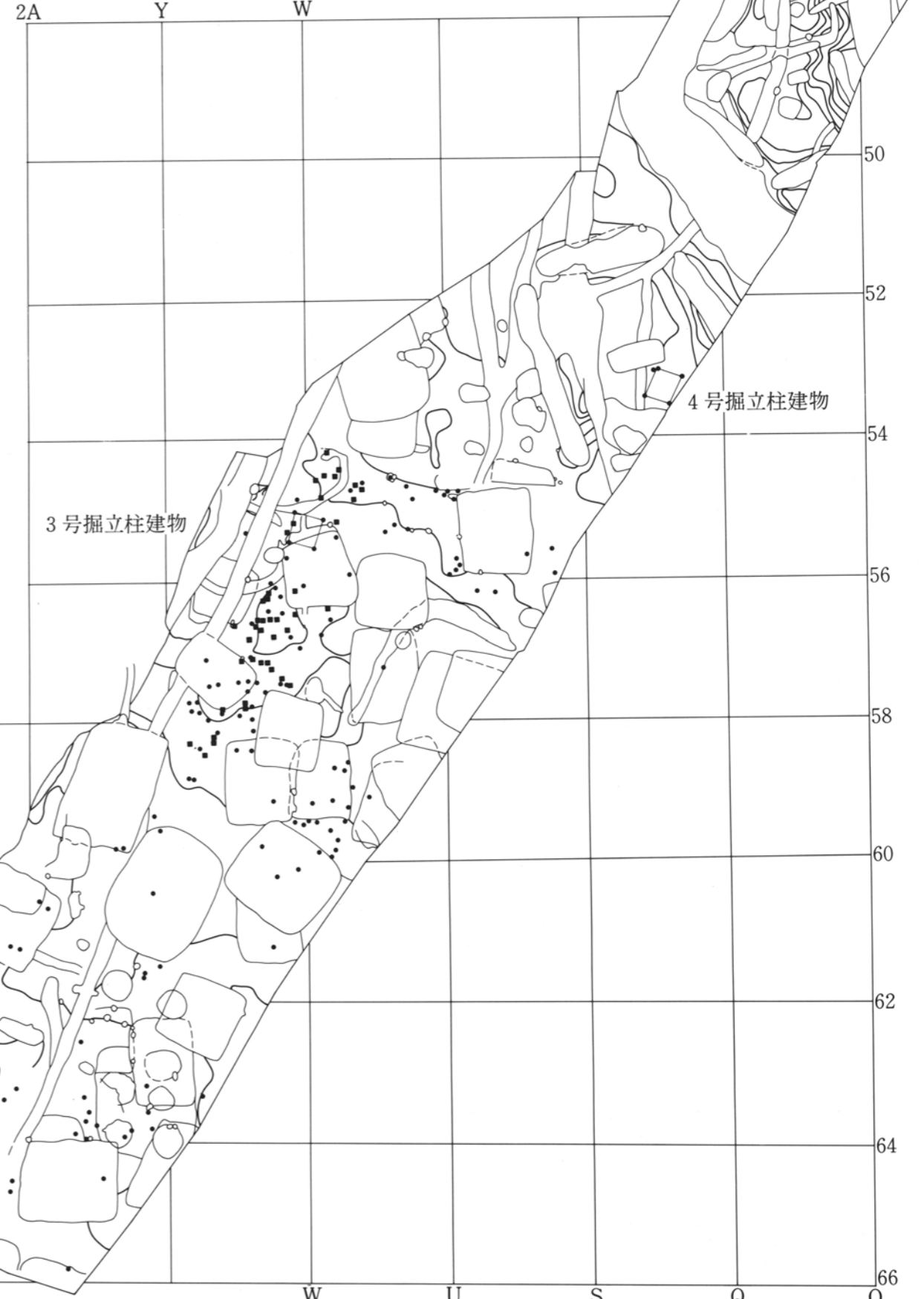
発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所

1-1. I・II面

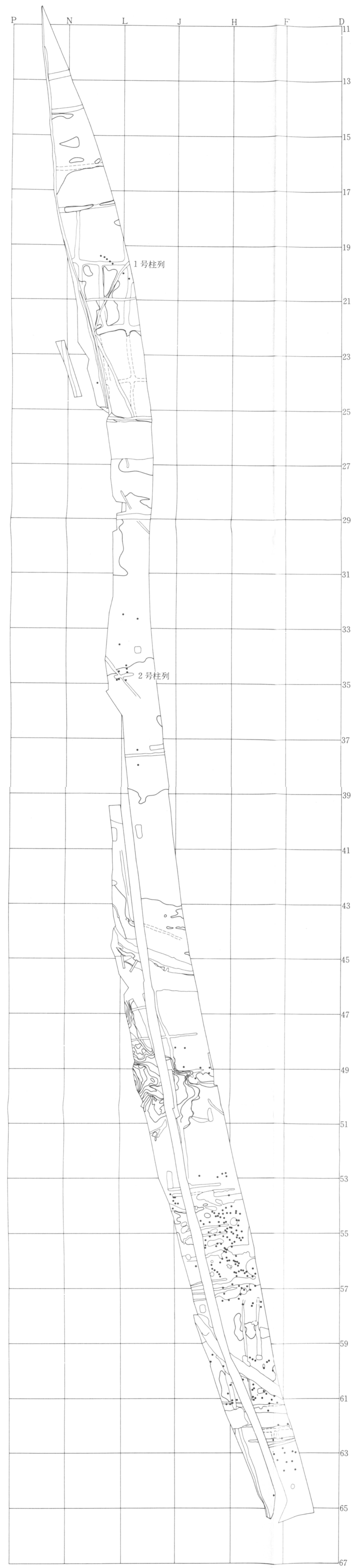


1-2. IV・V面

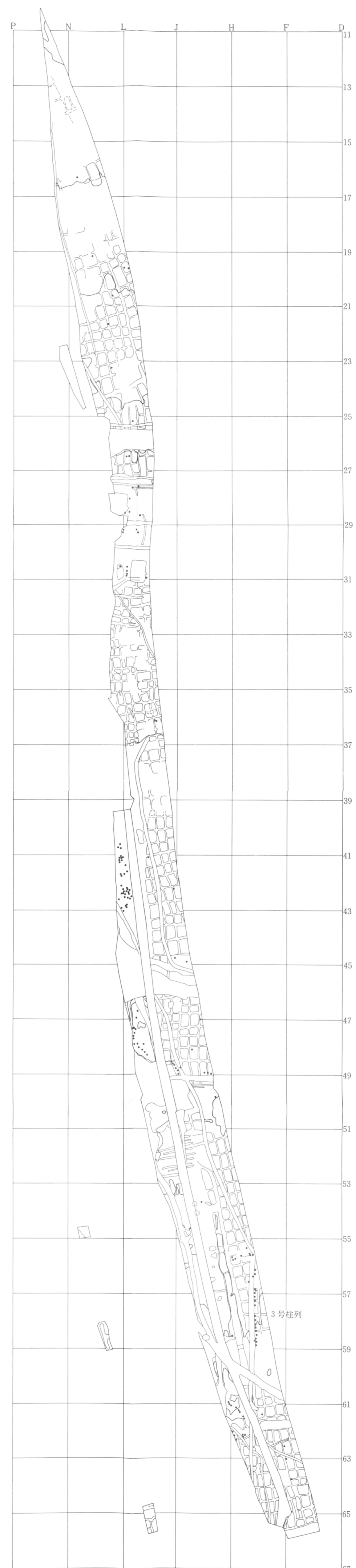


付図1. 村前地区ピット群平面図 S=1:400

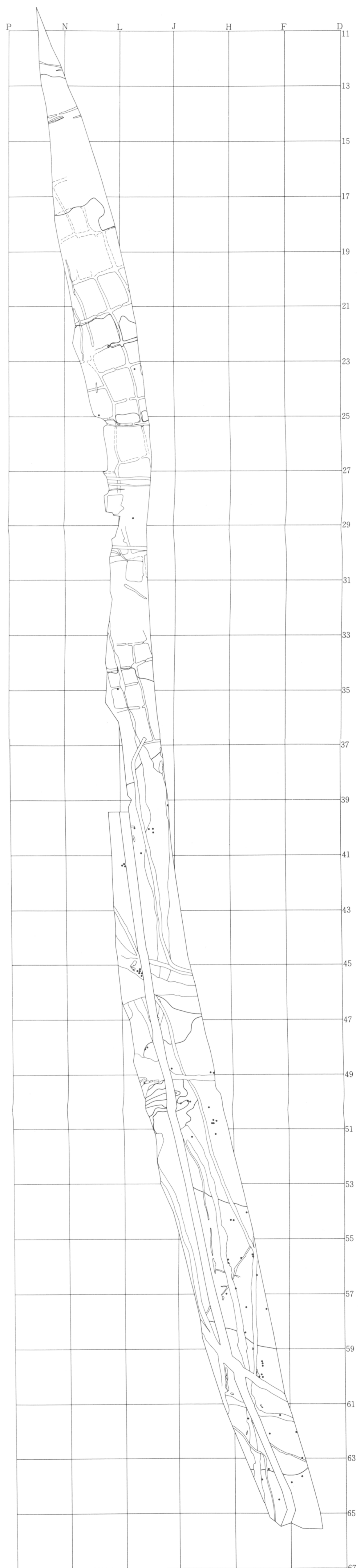
2-1. I面As-B下

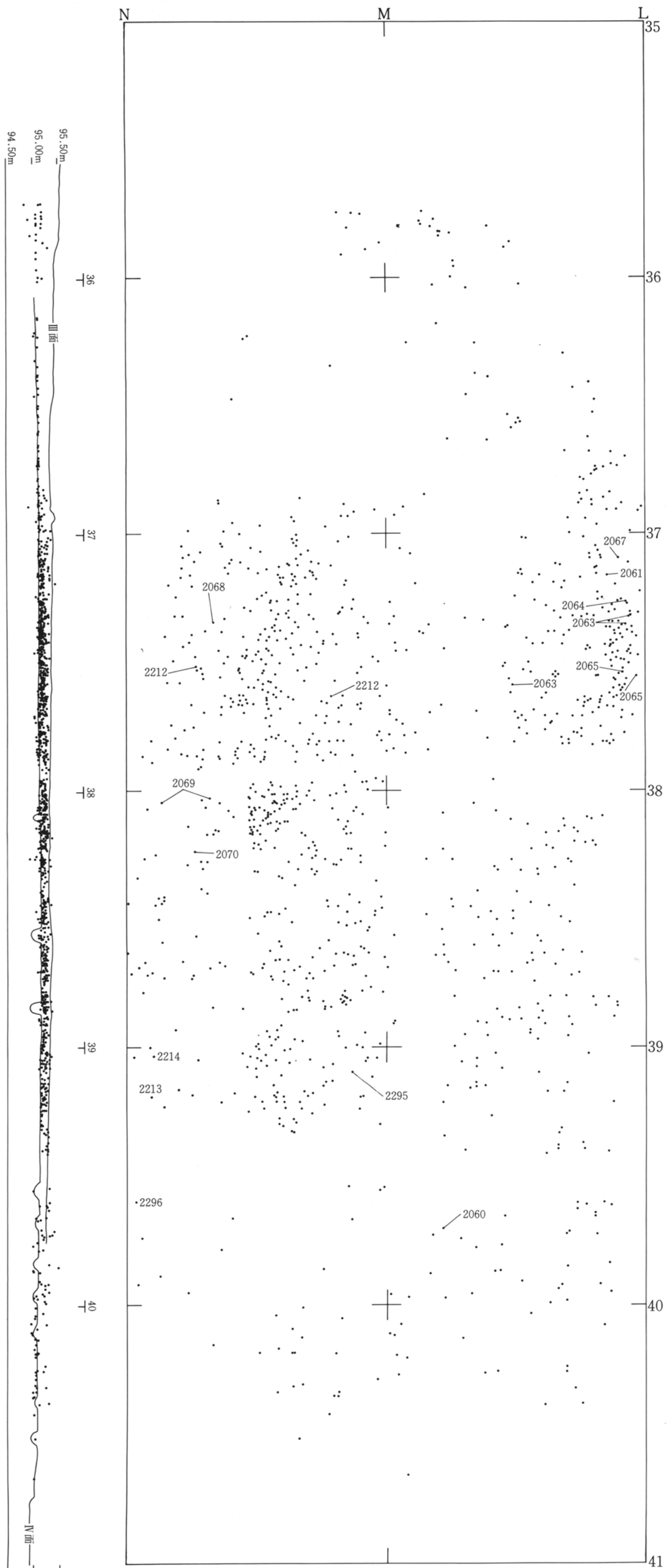


2-2. II面Hr-FA下



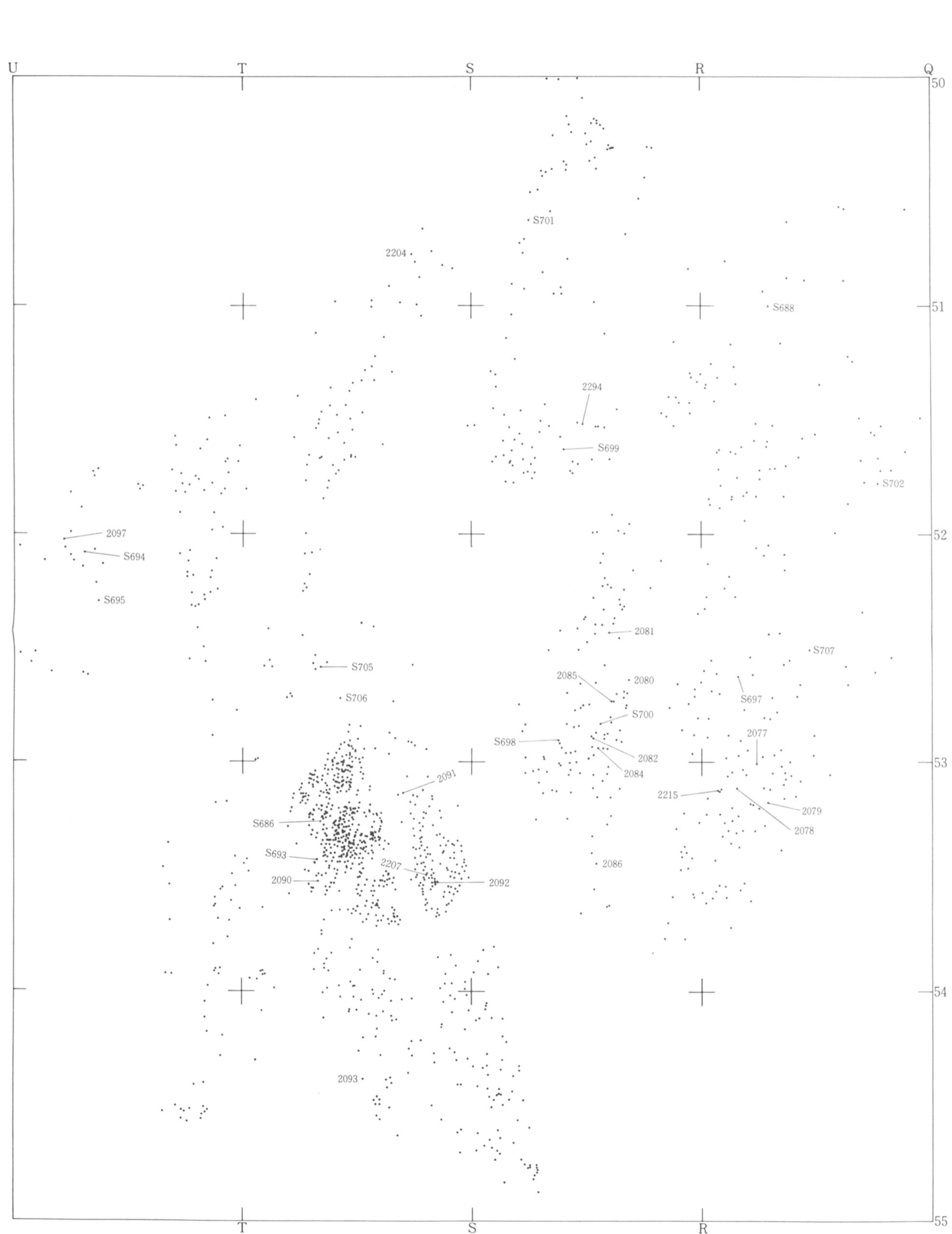
2-3. III面As-C下





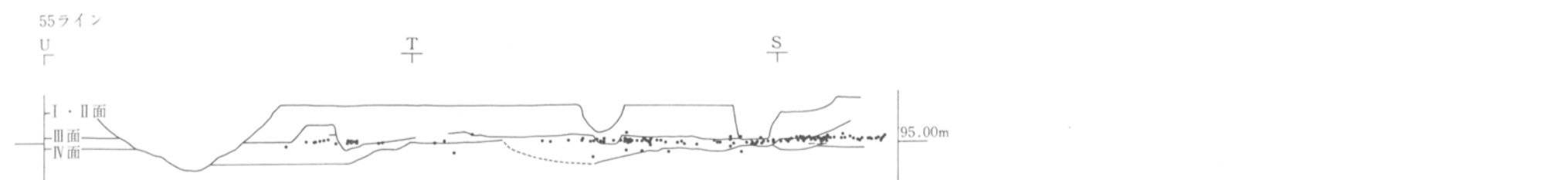
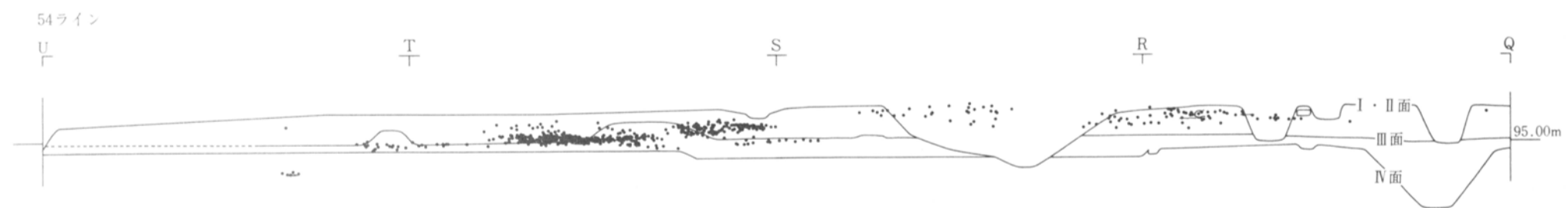
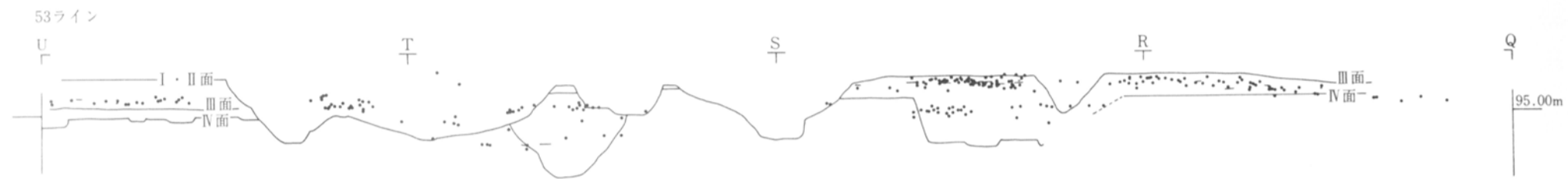
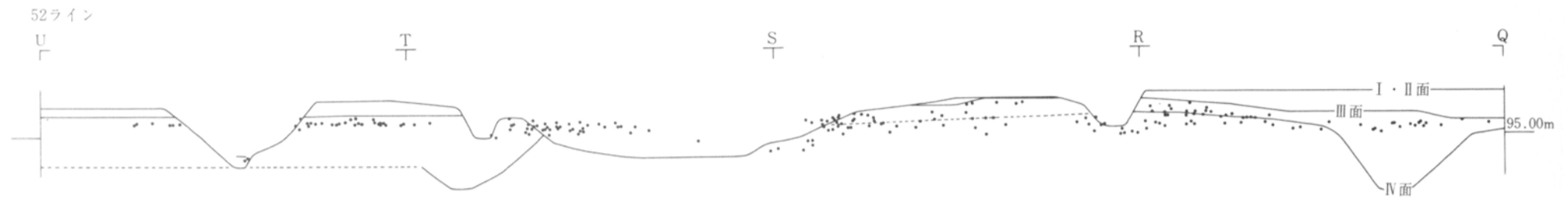
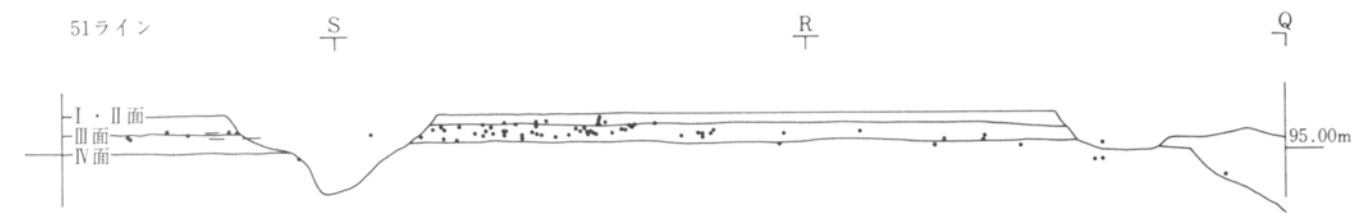
付図 3-1 包含層 A の遺物分布図

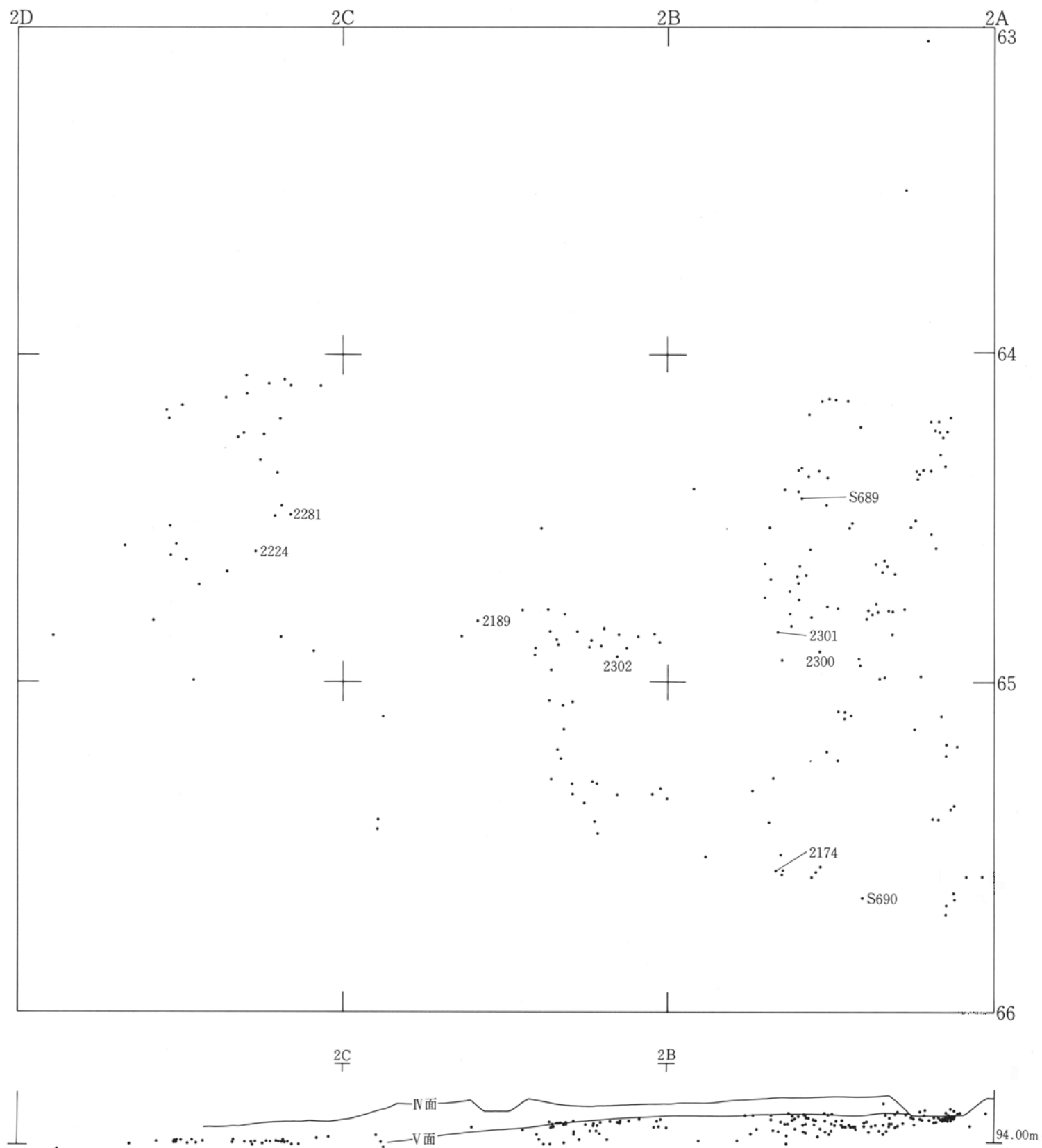
0 1:80 4m



付図 3 - 2 包含層Bの遺物分布図

0 1 : 80 4 m





付図 3-3 包含層Cの遺物分布図

0 1 : 80 4 m